参考資料6
中央教育審議会大学分科会
大学院部会（第８３回）
H30.3.13

博士課程教育リーディングプログラム
平成２３年度採択プログラム事後評価
アンケート調査結果

調査結果報告

平成３０年２月

独 立 行 政 法 人 日 本 学 術 振 興 会

博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

目次

まえがき 1
【参考：修了者、学生、プログラム担当者の設問の比較】 2
第１部　修了者及び学生アンケート調査結果 6
１．回答者の属性（修了者：問２，３，４，５、学生：問２，３，４，５） 6
２．プログラムへの参加動機（修了者：問６、学生：問６－１） 9
３．プログラムがなかった場合の最終学位（学生：問６－２） 11
４．プログラムに対する感想（修了者：問７、学生：問７） 12
５．プログラムで受けた指導（修了者：問８、学生：問８） 13
６．環境の整備と有効性（修了者：問９A、学生：問９A） 16
７．経験の有無と有効性（修了者：問９B、学生：問９B） 17
８．身に付いた能力（修了者：問１０、学生：問１０） 19
９．プログラムへの評価（学生：問１１） 21
１０．プログラムの効果・負担（修了者：問１１、学生：問１１） 22
１１．修了後の進路（修了者：問１２、学生：問１２） 23
１２．居住国（修了者：問１３、学生：問１３） 27
１３．プログラム情報の獲得方法（学生：問１７） 28
第２部　プログラム担当者アンケート調査結果 29
１．回答したプログラム担当者の属性（問２，３，４） 29
２．プログラムへの関与（問３） 31
３．指導等の内容（問５） 32
４．プログラムの整備状況及びその有効性（問６） 33
５．プログラムの有効性（問７） 35
６．運営・管理（問８） 36
７．プログラムに対する印象（問９） 37
８．指導・支援の改善のための評価等の実施（問１０－１） 39
附録Ａ　サンプルと回答者数 40
附録Ｂ　修了者アンケート調査と単純集計結果 42
附録Ｃ　学生アンケート調査と単純集計結果 54
附録Ｄ　プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果 67

まえがき

独立行政法人日本学術振興会では、文部科学省からの委託により「博士課程教育リーディングプログラム」の審査・評価等を実施している。平成２３年度に採択した２０のプログラムが７年度目となる平成２９年度に実施した事後評価において、各プログラムの進捗状況を客観的に評価するための資料として、各プログラムの修了者及び参画している学生、プログラム担当者に対してアンケート調査を行った。本報告は、その概要を示すものである。

＜実施概要＞

アンケート実施期間：平成２９年４月２０日（木）～５月２５日（木）

アンケート対象修了者及び学生：

１．抽出条件

・修了者

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者。編入も含む。）のうち、平成 28 年度末までにプログラムを修了した全学生

・学生

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者。）のうち、平成 28 年度末までにプログラムに入学（編入も含む。）した学生で、かつ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生（休学中の者を含む。）

２．対象者数

・修了者：462 名　　・学生：1,269 名

３．回答者数

・修了者：378 名（回答率 81.8%）　　・学生：1,128 名（回答率 88.9%）

アンケート対象プログラム担当者：

１．条件

平成 29 年 4 月 1 日現在の全プログラム担当者（プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成等を総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤又は非常勤の者。ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く。）のうち３割程度（対象者は博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局にて無作為に抽出）

２．対象者数

307 名

３．回答者数

226 名（回答率 73.6%）

【参考：修了者、学生、プログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、修了者、学生、プログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

<table>
<tr><th colspan="2">修了者</th><th colspan="2">学生</th><th>プログラム担当者</th></tr>
<tr><td colspan="4">【１．プログラムへの参加動機】</td><td rowspan="6"></td></tr>
<tr><td>問6</td><td>このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。</td><td>問6－1</td><td>このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。</td></tr>
<tr><td colspan="4">・プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている
・産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる
・通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる
・他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる
・留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める
・グローバルな舞台で活躍していくためにPh.D.が必要
・経済的な支援が充実している
・何となく面白そうだと思った
・友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた
・指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）
・指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）</td></tr>
<tr><td colspan="4">【３．プログラムに対する感想】</td></tr>
<tr><td>問7</td><td>プログラムの以下の点をどのように評価しますか。</td><td>問7</td><td>プログラムの以下の点をどのように評価していますか。</td></tr>
<tr><td colspan="4">・他の専門分野の学生との交流
・他大学の学生との交流
・専門分野以外の教員との出会い
・企業人との交流
・専門分野以外の幅広い知識や経験
・奨励金や授業料の補助等大学からの経済的支援
・議論することに対する自信をつけること
・アカデミア以外の分野で活躍する自信をつけること
・語学力向上のためのカリキュラム
・インターンシップの機会</td></tr>
</table>

修了者		学生		プログラム担当者	
【４．プログラムで受けた指導】				【２．指導の内容】	
問８	このプログラムで、以下の指導をどの程度受けましたか。また、受けた場合、それは有効でしたか。	問８	このプログラムで以下のような指導をどの程度受けましたか。 また、受けた場合それは有効ですか。	問５	このプログラムで以下のことを担当していますか。 また、担当している場合、それは有効だと思いますか。
・指導教員以外の教員からの指導 ・企業、官界等の学外者からの指導・助言 ・主専攻以外の分野の授業等の履修 ・研究室ローテーション ・プロジェクト形式による授業や課題 ・授業外のサポート（メンター等） ・産業界、官界、ＮＰＯ、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供				・指導学生以外の学生への指導 ・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等 ・研究室ローテーションの受入れ ・プロジェクト形式による授業や課題 ・授業外のサポート（メンター等）	
【５．環境の整備と有効性】				【３．実施されたプログラムと整備された環境】	
問９Ａ	このプログラムにおいて、以下のことは整備されていましたか。 また、それは有効でしたか。	問９Ａ	このプログラムにおいて、以下のことは整備されていますか。 また、それは有効ですか。	問６	このプログラムで以下のことは整備されていますか。 また、「十分にされている」あるいは「ある程度されている」を選択した場合、それは有効だと思いますか。
・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会				・企業や官界等、学外者による指導 ・産業界、官界、ＮＰＯ、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 ・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月以上） ・本プログラムの中での留学 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動	
【６．経験の有無と有効性】					
問９Ｂ	このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。 また、経験した場合それは有効でしたか。	問９Ｂ	このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。 また、経験した場合それは有効でしたか。		
・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（１月以上） ・本プログラムの中での留学（３月未満） ・本プログラムの中での留学（３月以上１年未満） ・本プログラムの中での留学（１年以上） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動					

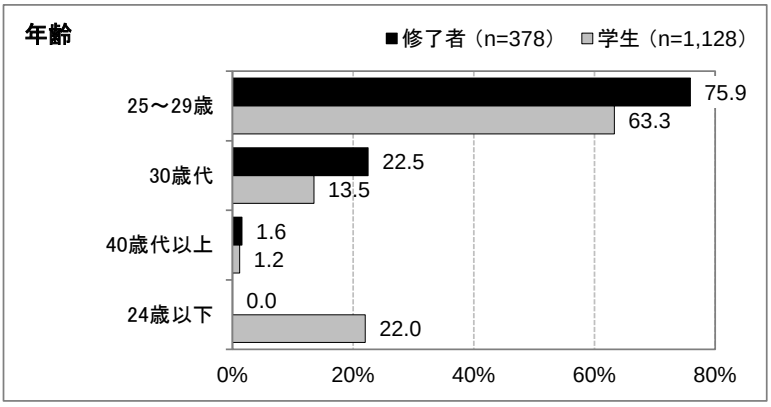
<table>
<tr><th colspan="2">修了者</th><th>学生</th><th colspan="2">プログラム担当者</th></tr>
<tr><td colspan="3">【７．身に付いた能力】</td><td colspan="2">【４．プログラムの有効性】</td></tr>
<tr><td>問
10</td><td colspan="2">このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。</td><td>問
7</td><td>このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">・高度な専門的知識・研究能力
・高い国際性
・専門以外の分野の幅広い知識
・物事を俯瞰し本質を見抜く力
・自ら課題を発見し解決に挑む力
・独創的な能力
・チームのマネージメント力
・企画立案、関係者との調整、統率する能力
・他者と協働する力
・ディスカッション能力
・プレゼンテーション能力
・語学力</td><td colspan="2">・高度な専門的知識・研究能力
・高い国際性
・専門以外の分野の幅広い知識
・物事を俯瞰し本質を見抜く力
・自ら課題を発見し解決に挑む力
・独創的な能力
・チームのマネージメント力
・企画立案、関係者との調整、統率する能力
・他者と協働する力
・ディスカッション能力
・プレゼンテーション能力
・語学力</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3"></td><td>【８．プログラムへの評価】</td><td colspan="2">【６．プログラムに対する印象】</td></tr>
<tr><td>問
11</td><td>以下の点についてどう考えますか。</td><td>問
9</td><td>以下の点について、どう考えられていますか。</td></tr>
<tr><td>・プログラムに参加する教員間でプログラムについての理解が共有されている
・一部の教員に負担が集中している
・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、プログラムに参加することに協力的である</td><td colspan="2">・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができている
・一部の教員に負担が集中している
・プログラム担当者以外の教員からの理解があり、協力的である</td></tr>
<tr><td colspan="3">【９．プログラムの効果・負担】</td><td colspan="2">【６．プログラムに対する印象】</td></tr>
<tr><td>問
11</td><td colspan="2">以下の点についてどう考えますか。</td><td>問
9</td><td>以下の点について、どう考えられていますか。</td></tr>
<tr><td>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい
・所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重の負担になっていた
・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた
・このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた
・所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられた
・修了後の進路に不安があった
・後輩にもこのプログラムを勧めたい</td><td>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい
・所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている
・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）
・このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）
・所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績をあげられるか不安がある
・修了後の進路に不安がある
・後輩にもこのプログラムを勧めたい</td><td colspan="2">・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する見込みがある
・学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている
・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）
・このプログラムによって学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）
・学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を上げられるか懸念がある
・学生の将来の進路に不安がある
・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい</td></tr>
</table>

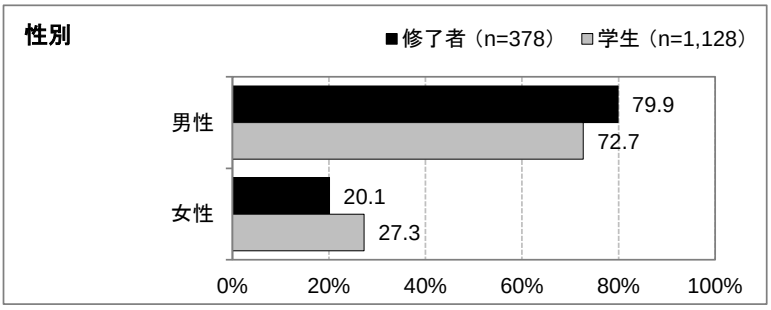
<table>
<tr><th colspan="2">修了者</th><th colspan="2">学生</th><th>プログラム担当者</th></tr>
<tr><td>問
１
２</td><td>プログラム修了後どのような職等に就きましたか。また、今後の希望は持っていますか。</td><td>問
１
２</td><td>修了後の就職等についてどのような希望を持っていますか。</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="2">・民間企業に就職（研究者以外として）
・民間企業に就職（研究者として）
・官公庁に就職
・国際機関に就職
・ＮＰＯ・ＮＧＯ等（公共的サービスの提供主体）に就職
・医師、弁護士等専門職
・起業
・大学（海外を含む）に研究者として就職
・その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職
・求職中
・ポスドク（博士研究員）
・決めていない</td><td colspan="2">・民間企業に就職（研究者以外として）
・民間企業に就職（研究者として）
・官公庁に就職
・国際機関に就職
・ＮＰＯ・ＮＧＯ等（公共的サービスの提供主体）に就職
・医師、弁護士等の専門職
・起業
・大学（海外を含む）に研究者として就職
・その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職
・ポスドク（博士研究員）
・決めていない</td></tr>
<tr><td>問
１
３</td><td>居住国について選択してください。また、今後の希望は持っていますか。</td><td>問
１
３</td><td>修了後の居住国について希望は持っていますか。</td></tr>
<tr><td colspan="4">・日本
・日本あるいは母国以外の外国
・母国に帰国
・未定</td></tr>
</table>

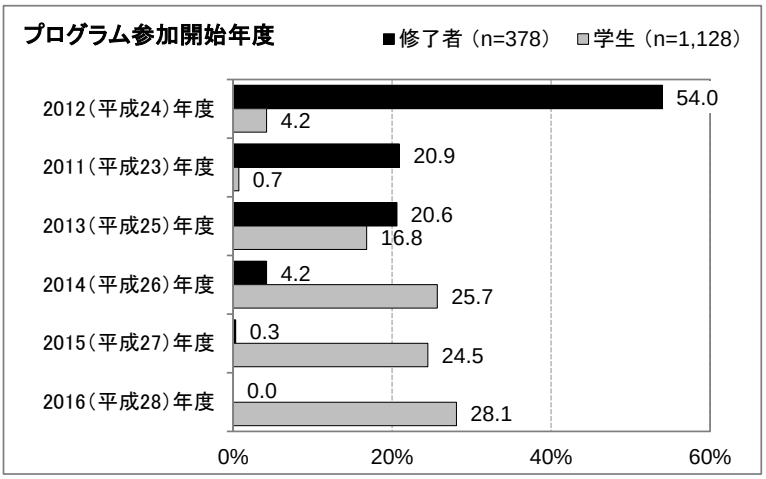
第１部　修了者及び学生アンケート調査結果

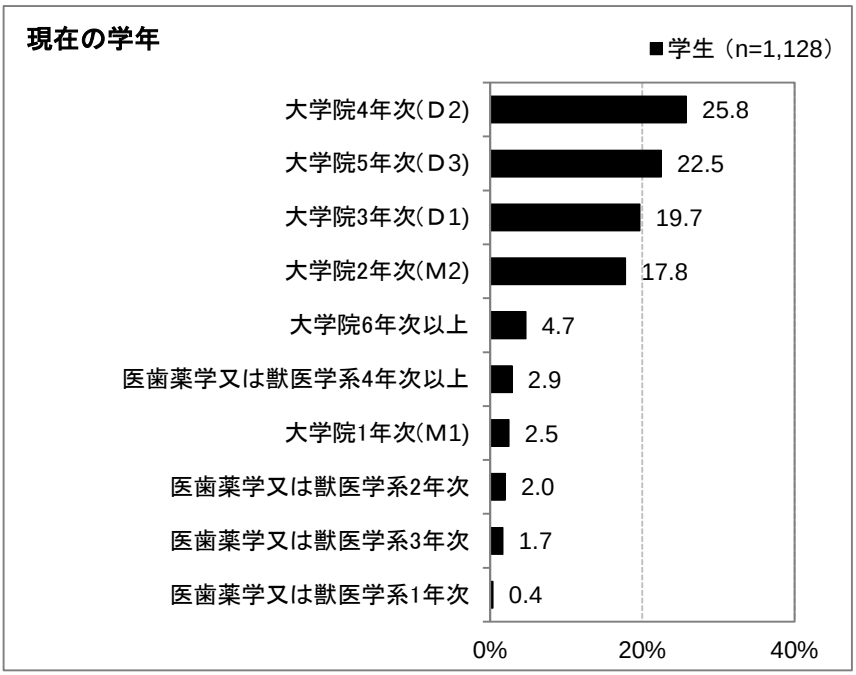
１．回答者の属性（修了者：問２，３，４，５、学生：問２，３，４，５）

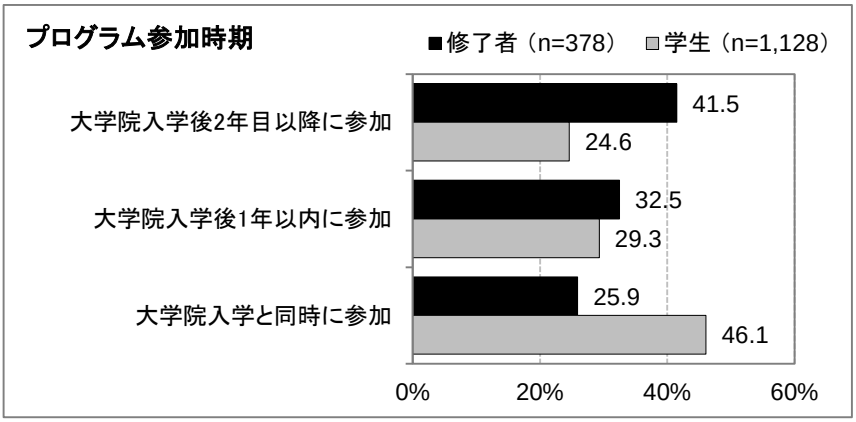
本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。

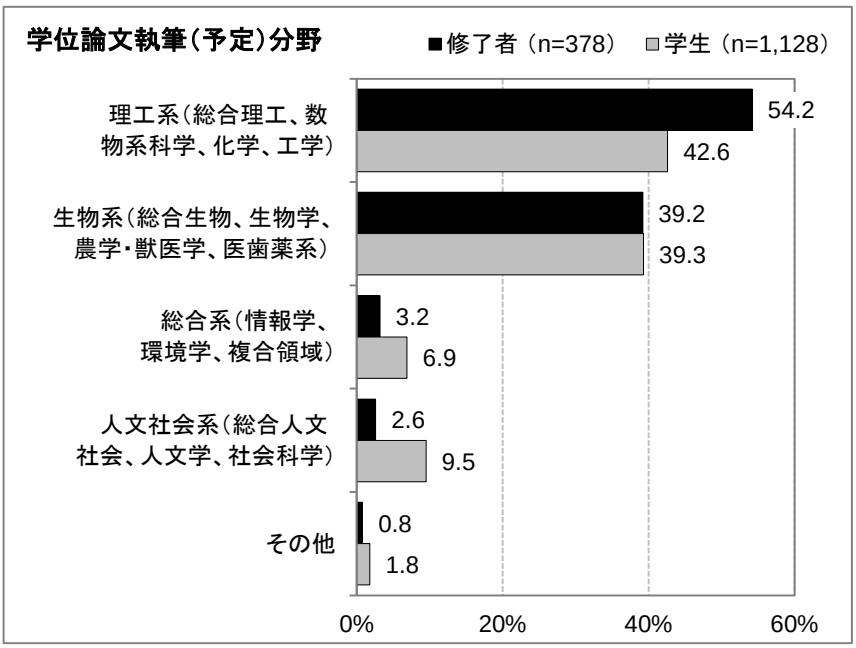


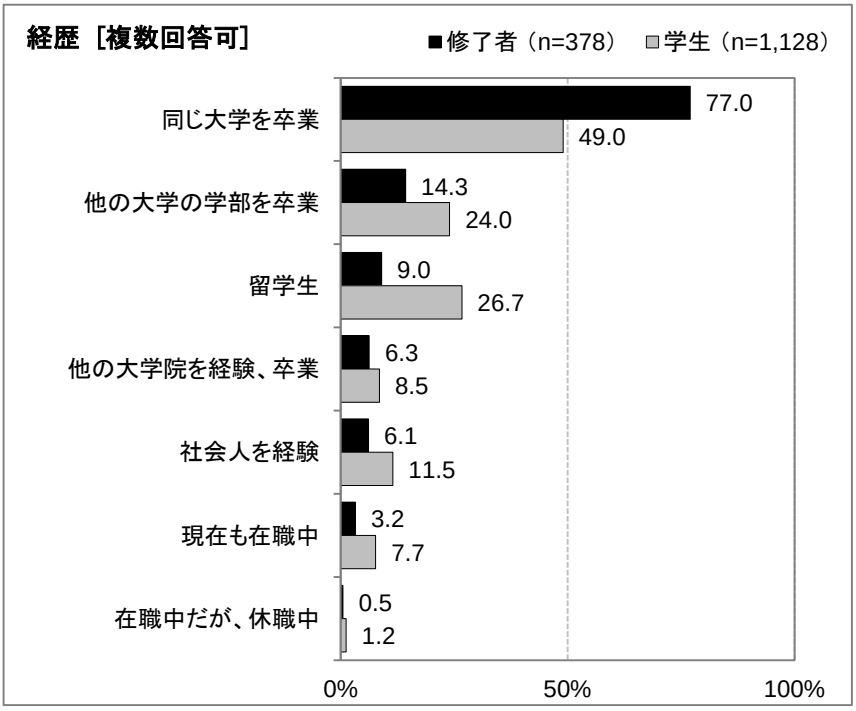


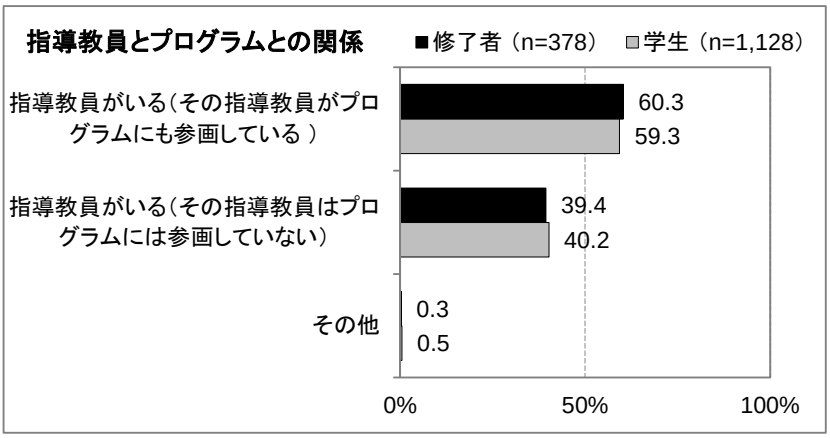



現在の学年
■学生（n=1,128）
大学院4年次(D2)
25.8
大学院5年次(D3)
22.5
大学院3年次(D1)
19.7
大学院2年次(M2)
17.8
大学院6年次以上
4.7
医歯薬学又は獣医学系4年次以上
2.9
大学院1年次(M1)
2.5
医歯薬学又は獣医学系2年次
2.0
医歯薬学又は獣医学系3年次
1.7
医歯薬学又は獣医学系1年次
0.4
0%
20%
40%


プログラム参加時期
■修了者（n=378）
□学生（n=1,128）
大学院入学後2年目以降に参加
41.5
24.6
大学院入学後1年以内に参加
32.5
29.3
大学院入学と同時に参加
25.9
46.1
0%
20%
40%
60%


学位論文執筆（予定）分野
■修了者（n=378）
□学生（n=1,128）
理工系（総合理工、数物系科学、化学、工学）
54.2
42.6
生物系（総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系）
39.2
39.3
総合系（情報学、環境学、複合領域）
3.2
6.9
人文社会系（総合人文社会、人文学、社会科学）
2.6
9.5
その他
0.8
1.8
0%
20%
40%
60%

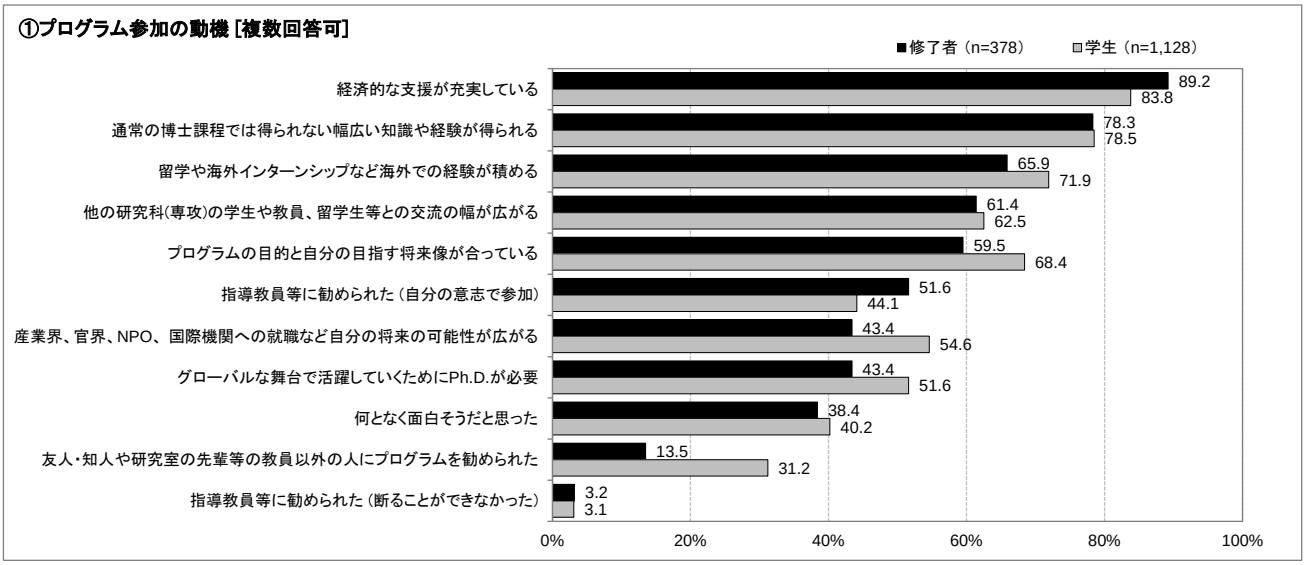

経歴［複数回答可］
■修了者（n=378）
■学生（n=1,128）
同じ大学を卒業
77.0
49.0
他の大学の学部を卒業
14.3
24.0
留学生
9.0
26.7
他の大学院を経験、卒業
6.3
8.5
社会人を経験
6.1
11.5
現在も在職中
3.2
7.7
在職中だが、休職中
0.5
1.2
0%
50%
100%


指導教員とプログラムとの関係
■修了者（n=378）
■学生（n=1,128）
指導教員がいる（その指導教員がプログラムにも参画している ）
60.3
59.3
指導教員がいる（その指導教員はプログラムには参画していない）
39.4
40.2
その他
0.3
0.5
0%
50%
100%

２．プログラムへの参加動機（修了者：問６、学生：問６－１）

このプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全てと、その中で最も直接的な動機に近いもの（図１）について聞いている。

複数選択を可とした設問で選択者が 75%以上ある「経済的な支援が充実している」、「通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる」については、いずれも「最も直接的な動機（単数回答）」であるとの回答が 20%以上あり、他と比較して多くなっている。なお、「最も直接的な動機（単数回答）」については、この２つに次いで修了者・学生ともに 10%以上が「留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める」、「プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている」と回答している。



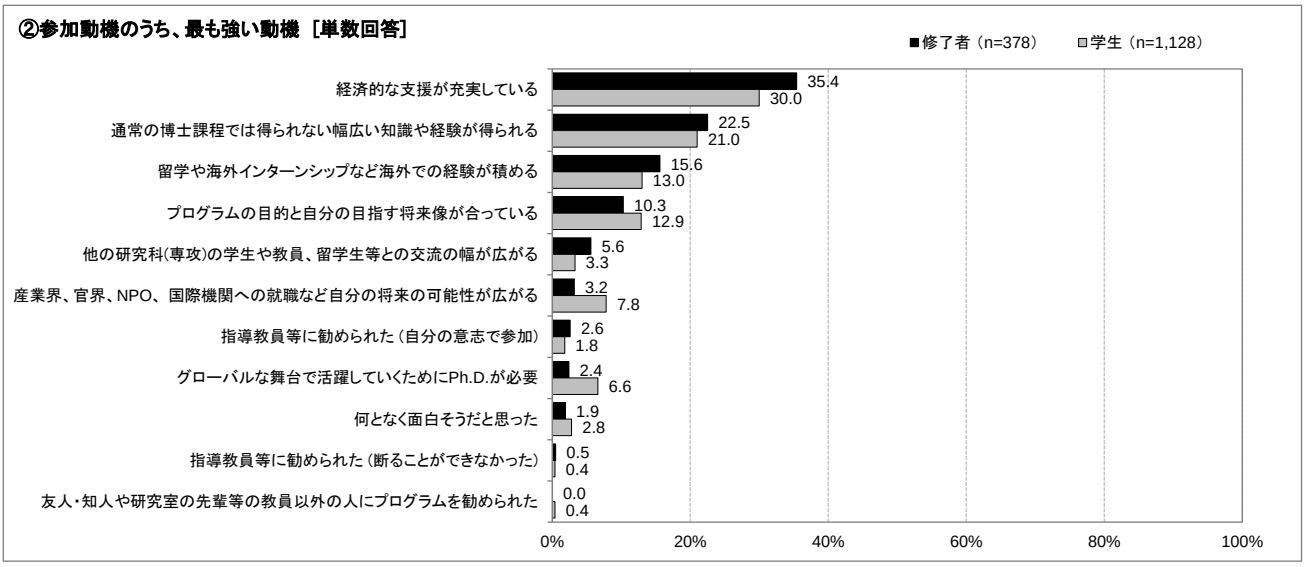


図１　プログラムへの参加動機（上：複数回答、下：単数回答）

修了者については、プログラムに参加した動機（複数選択可）として回答したものがどの程度満たされたかについて聞いている。（図２）

「産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる」については「期待より良かった」又は「期待通りだった」と回答した者が 70.1%に留まるものの、それ以外の項目では 85%を超えている。

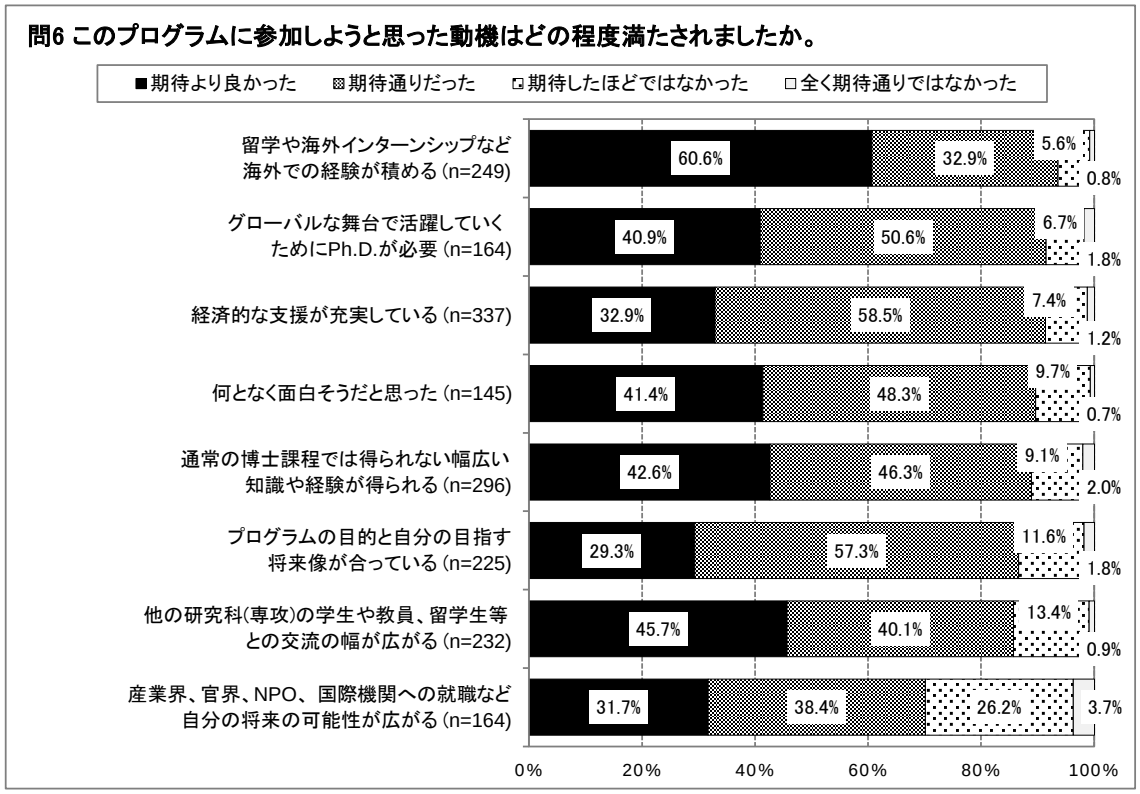


図 2　【修了者】プログラムへの参加動機に対する満足度

３．プログラムがなかった場合の最終学位（学生：問６－２）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図３）

最も回答者が多いのは「博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等)」で 40%を占めるが、次に回答者が多いのは「修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等)」で全体の 30%となっている。

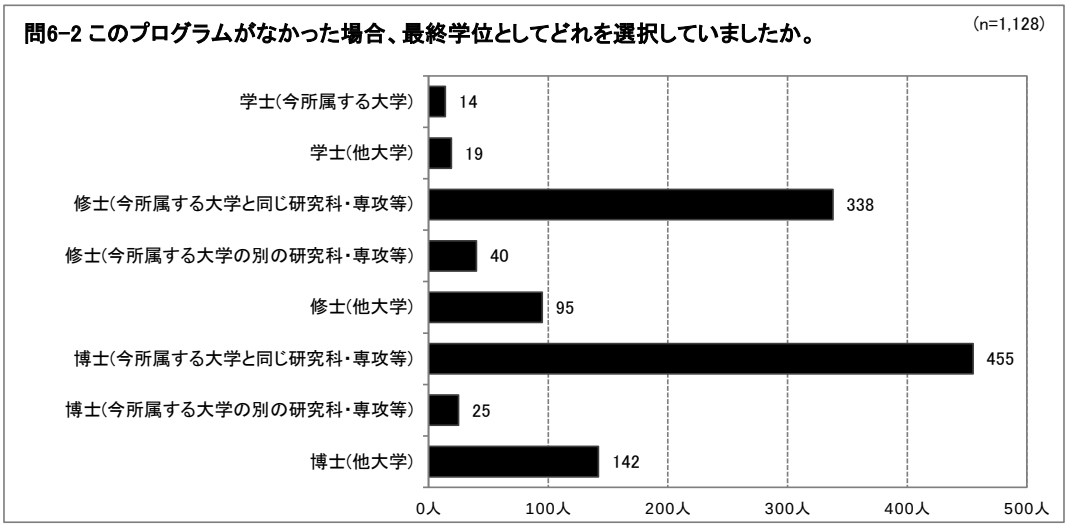


図３　【学生】プログラムがなかった場合の最終学位

４．プログラムに対する感想（修了者：問７、学生：問７）

このプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図４）

全体的に評価は高い。特に、修了者・学生ともに「奨励金や授業料の補助等大学からの経済的支援」については 50％以上が、「他の専門分野の学生との交流」及び「インターンシップの機会」については 40%以上が「非常に良い」と回答している。また、「専門分野以外の幅広い知識や経験」及び「専門分野以外の教員との出会い」については、「非常に良い」と回答した割合が学生では 45%以上であるのに対して、修了者では 35%に満たない。

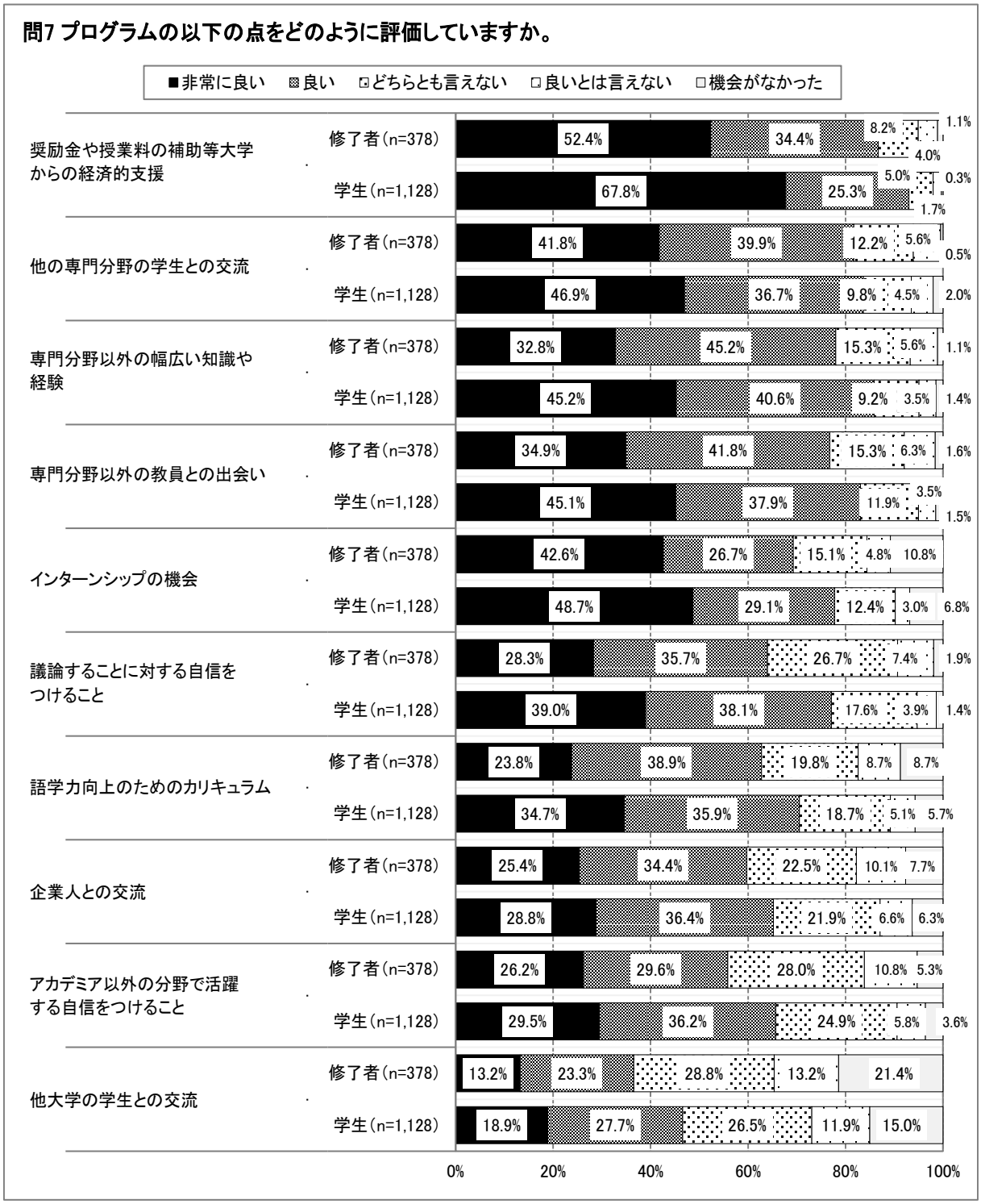


図４　プログラムに対する感想

５．プログラムで受けた指導（修了者：問８、学生：問８）

このプログラムでどのような指導をどの程度受けたか（図５）について聞くとともに、「受けていない」の回答者のうち学生については今後受ける予定があるかどうかを聞いている（図６）。また、受けた場合その指導は有効であったか（図７）についても聞いている。

修了者及び学生は「研究室ローテーション」に対して、また、修了者は「授業外のサポート（メンター等）」や「企業、官界等の学外者からの指導、助言」に対して、指導を「受けていない」と回答した者も 40%以上見られるが、指導を受けた修了者及び学生の回答を見ると、どの取組についても「有効」、「ある程度有効」と回答した者の合計は 85%以上となり、有効性に対する評価は高い。

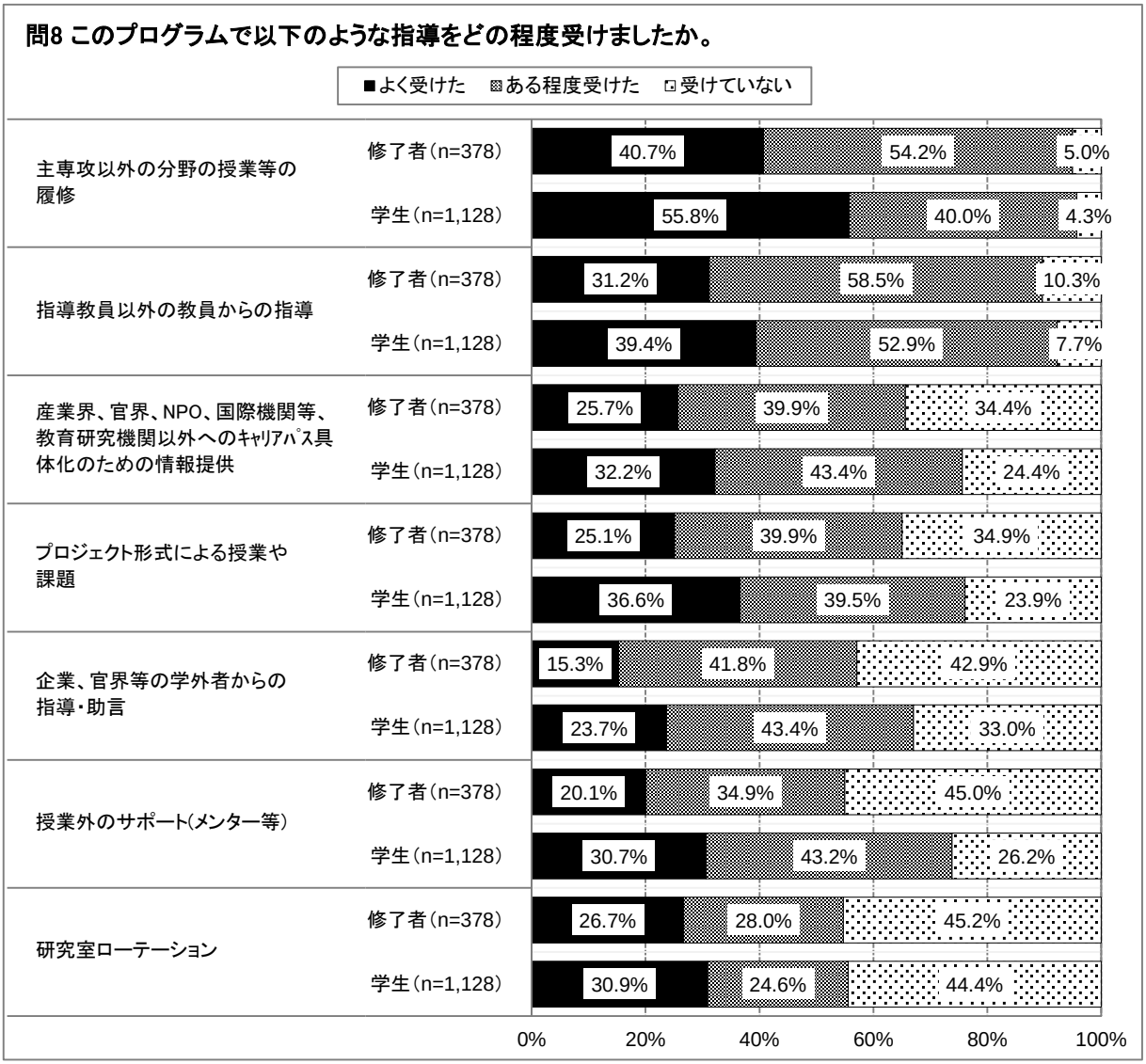


図５　プログラムで受けた指導

＜「受けていない」を選択した場合のみ回答＞（学生のみ）

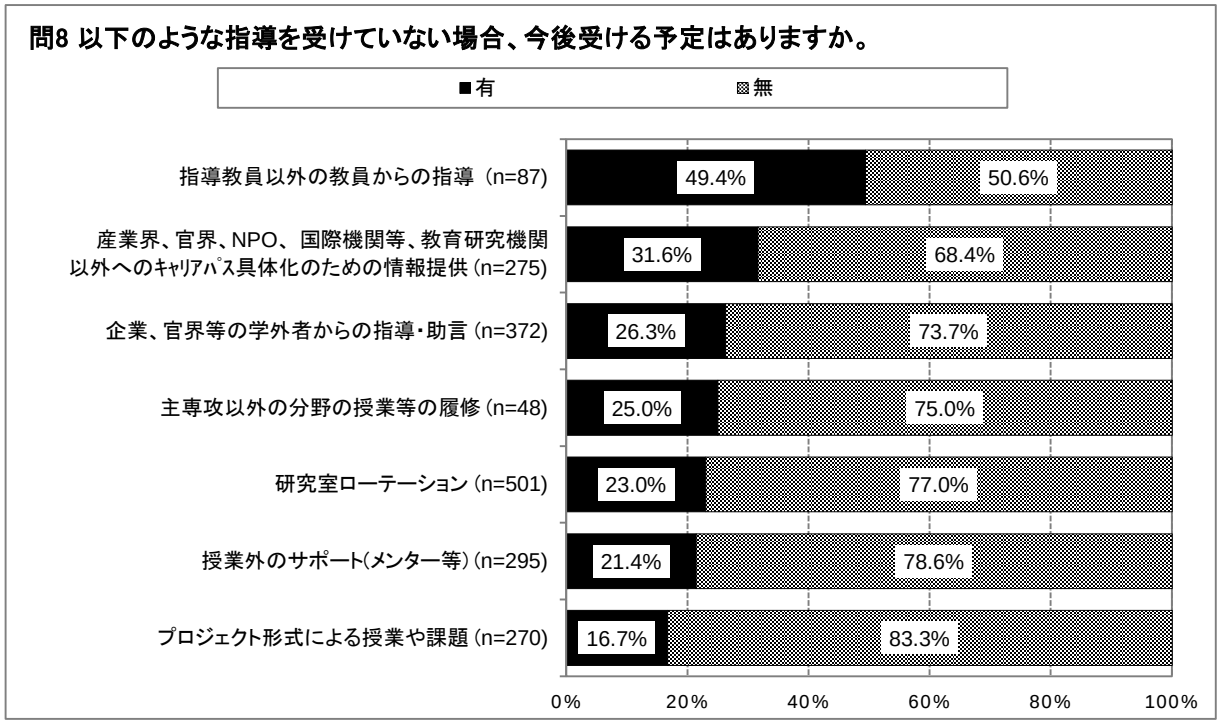


図 6　【学生】指導を受けていない場合、今後指導を受ける予定の有無

＜「よく受けた」「ある程度受けた」を選択した場合のみ回答＞

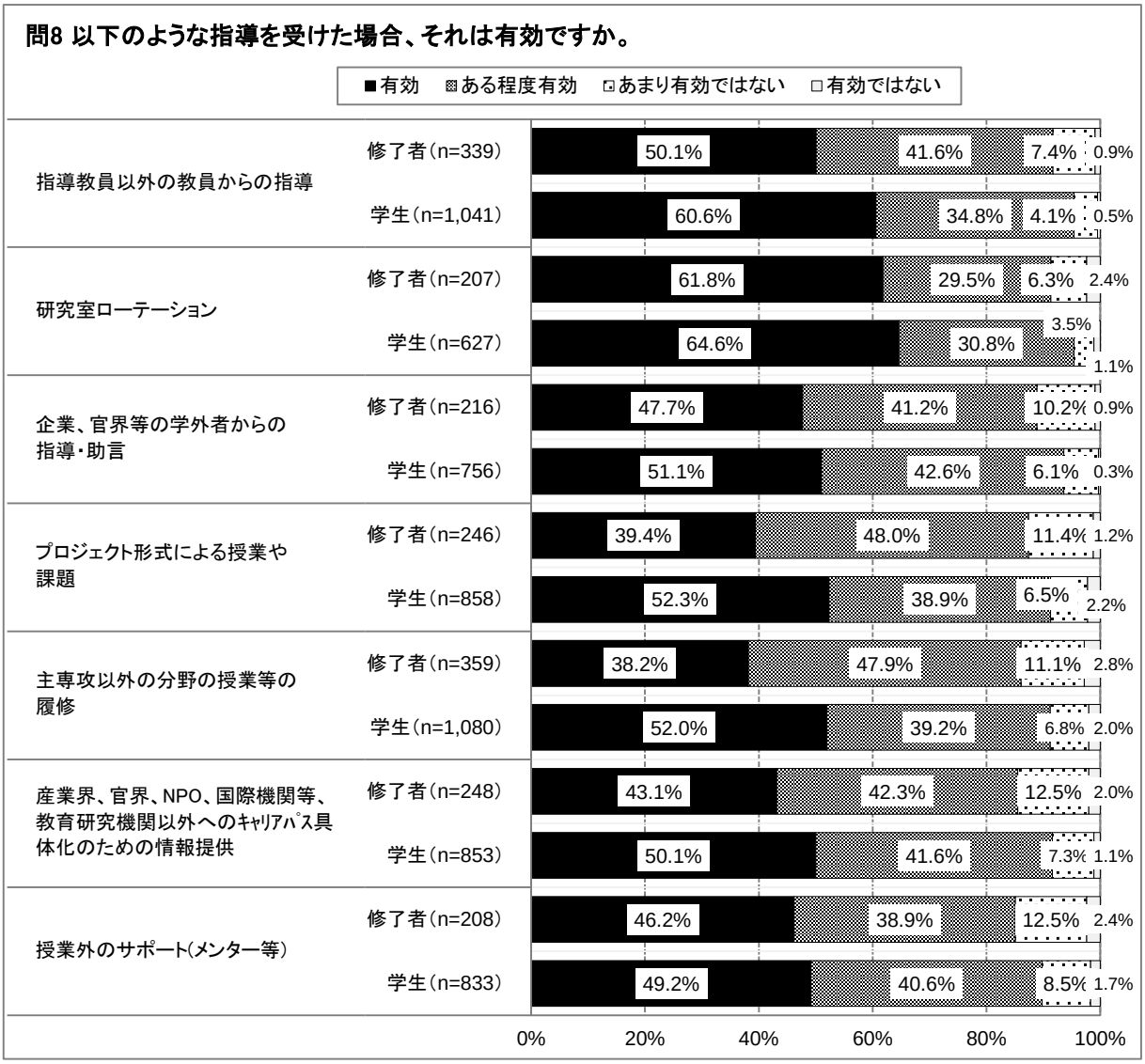


図 7　指導を受けた場合の有効性

６．環境の整備と有効性（修了者：問９A、学生：問９A）

研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図８）、それが有効か（図９）、について聞いている。

「奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援」については、修了者・学生ともに 95%以上が「十分にされている」「ある程度されている」又は「有効」「ある程度有効」と回答し、整備及び有効性に対する評価は特に高い。その他の項目についても整備されており、「有効」「ある程度有効」であるとの評価が 80%を超えている。

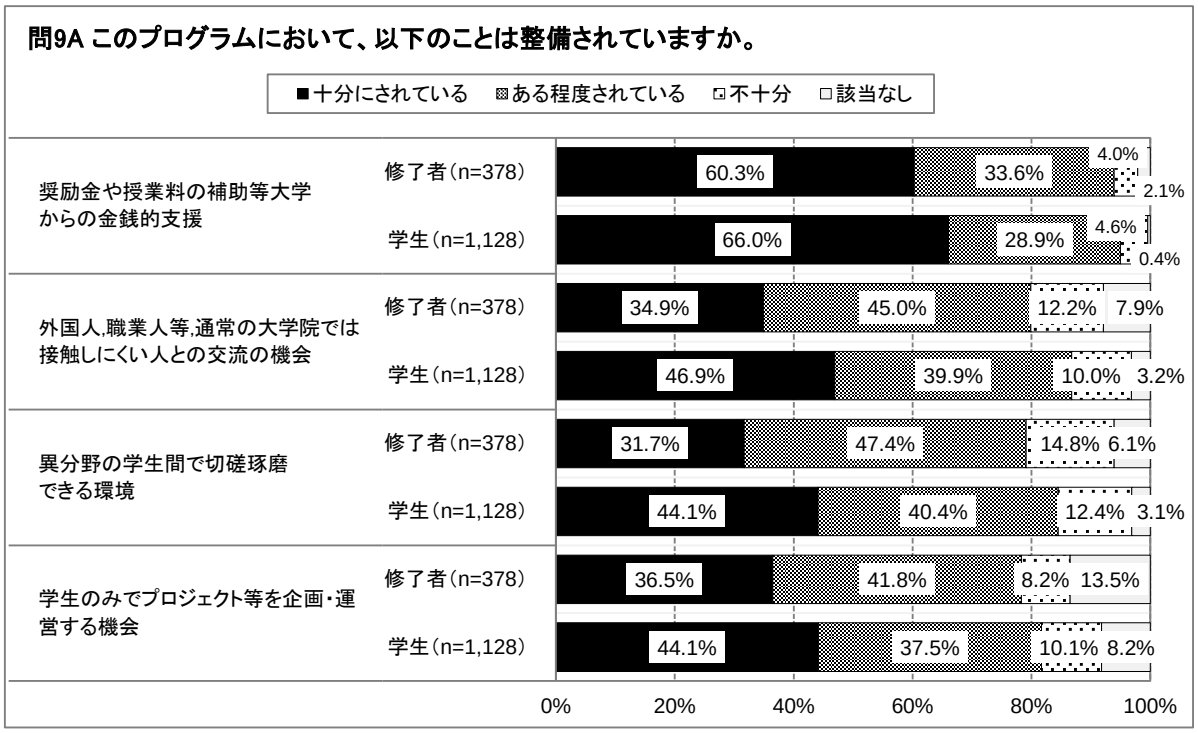


図 8　プログラムで整備された環境

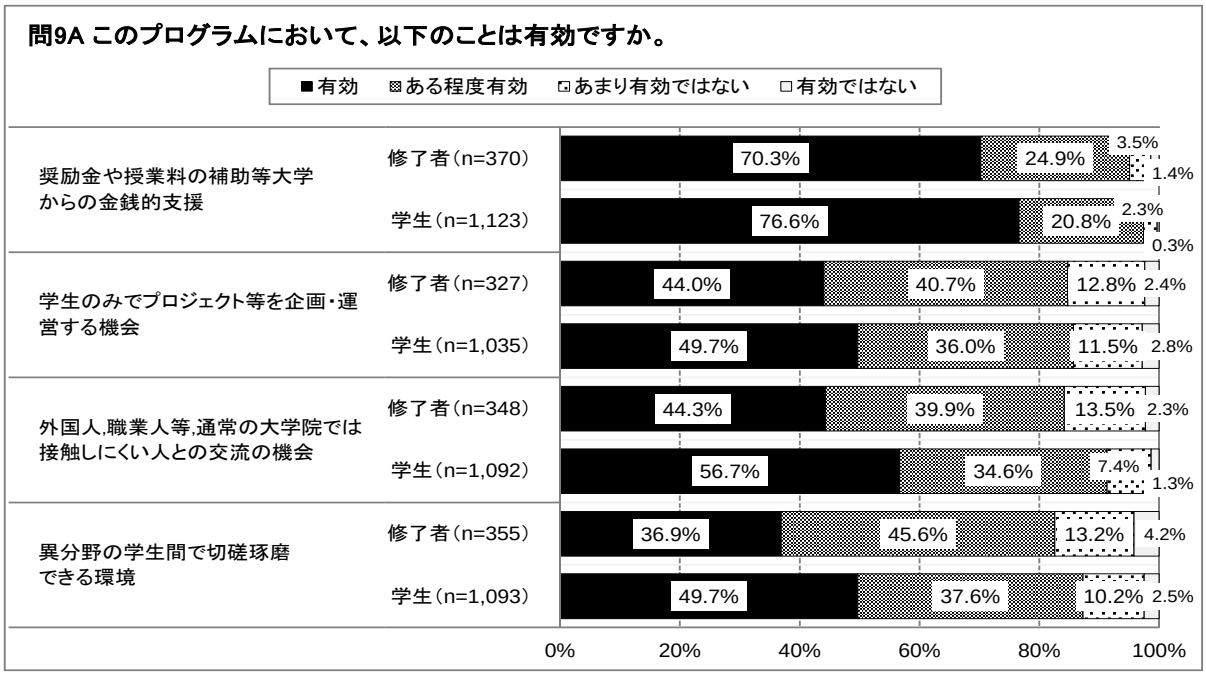
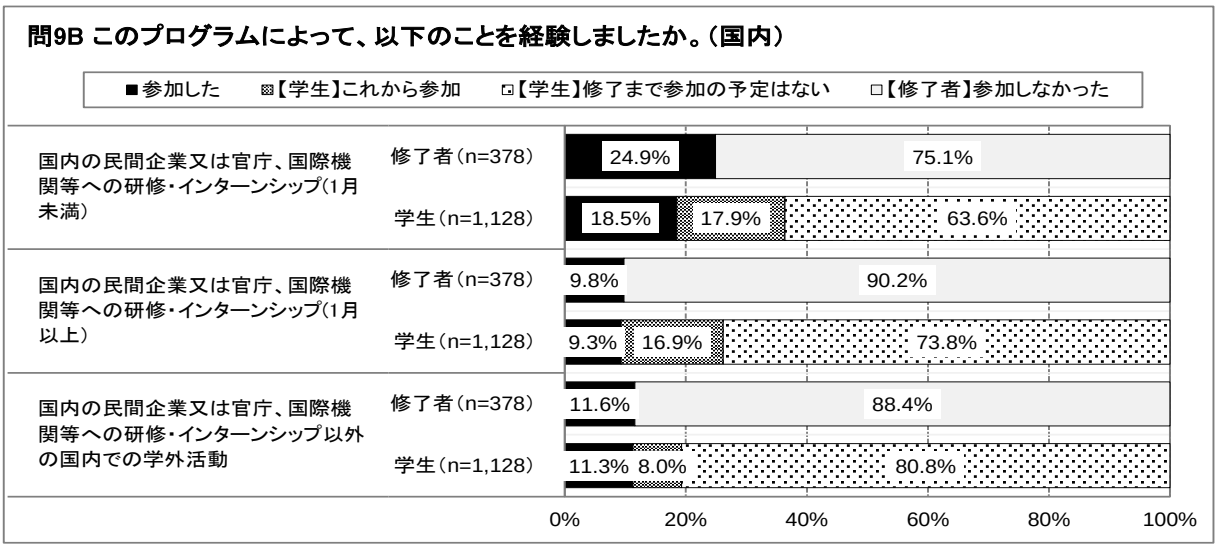


図 9　整備された環境の有効性

７．経験の有無と有効性（修了者：問９B、学生：問９B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図１０）、それが有効であったか（図１１）について聞いている。

国内外の研修・インターンシップ、留学、その他学外活動のいずれにおいても、「これから参加」と回答した学生が一定数いるが、実際に活動に参加した修了者・学生の 90%以上が、いずれの項目についても「有効」又は「ある程度有効」であると回答している。特に、「１月以上」の海外での研修・インターンシップ、及び「３月以上」の留学については、90%以上の修了者・学生が「有効」と回答している。



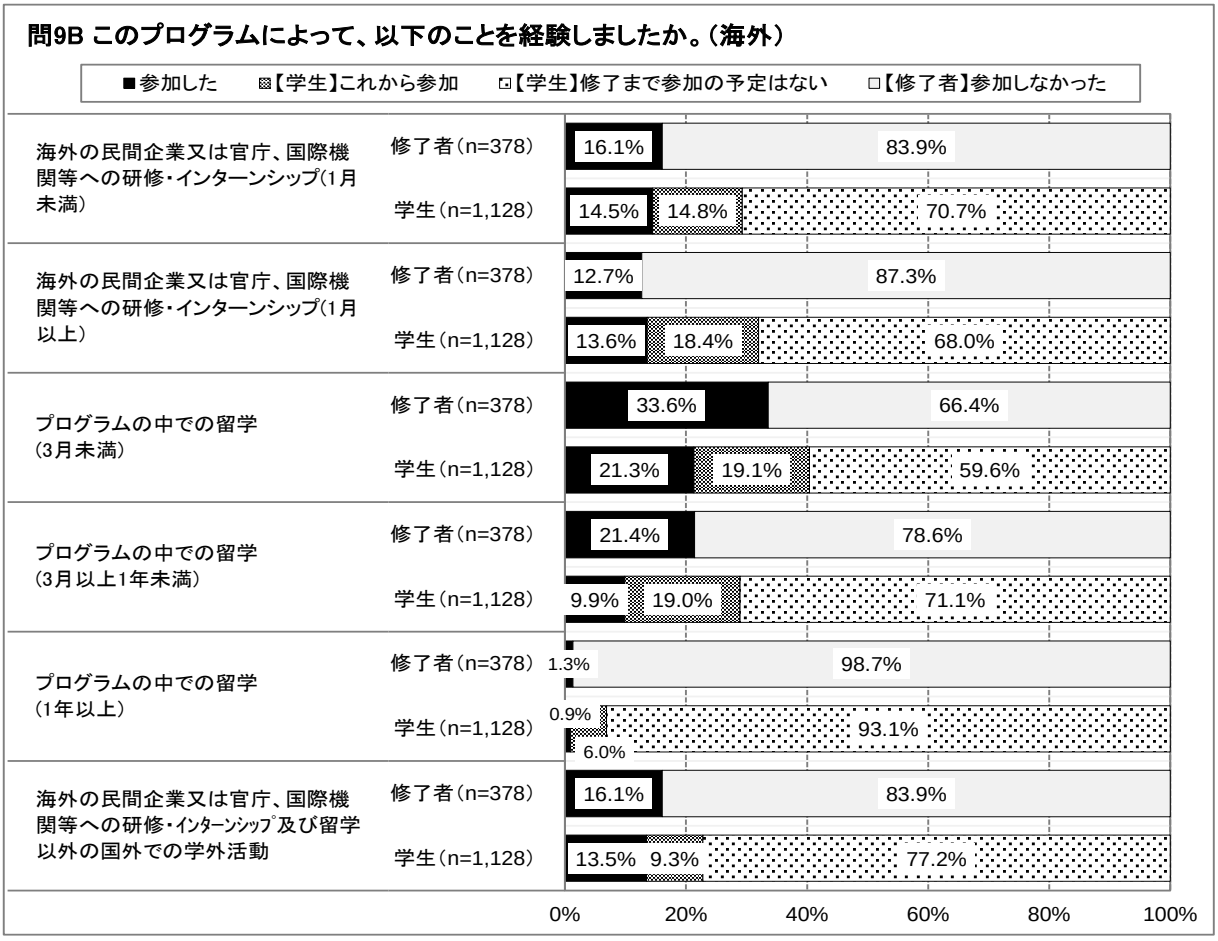
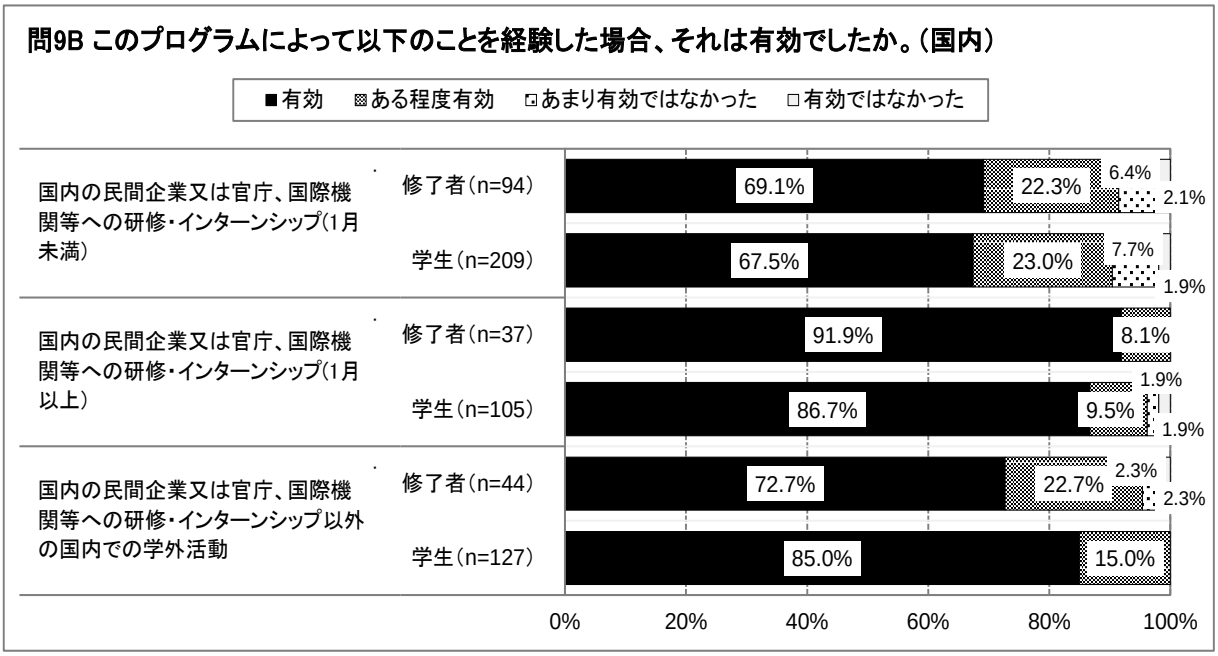


図 10　プログラムでの経験

＜「参加した」を選択した場合のみ回答＞



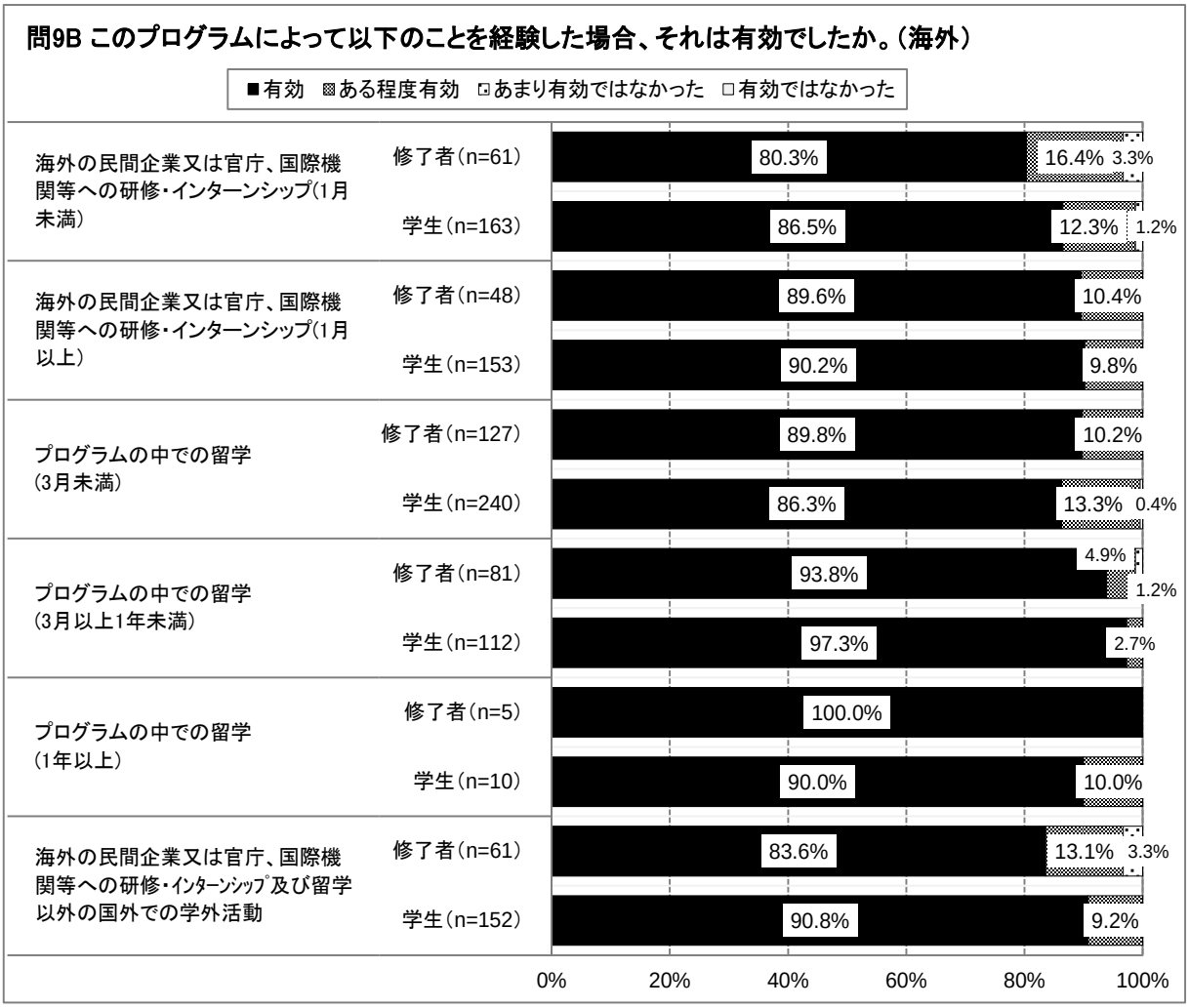


図 11　プログラムでの経験の有効性

８．身に付いた能力（修了者：問１０、学生：問１０）

プログラムに参画することにより身に付いた能力（図１２、１３）を聞いている。

「向上した」又は「ある程度向上した」として最も多く挙げられた能力は修了者・学生ともに「専門以外の分野の幅広い知識」であり、続いて「高い国際性」や「高度な専門的知識・研究能力」であった。「高い国際性」については、「向上した」と回答した修了者・学生が 55%を超えている。また、「プレゼンテーション能力」や「語学力」については修了者・学生の 50%以上が「向上した」と回答し、「高度な専門的知識・研究能力」及び「ディスカッション能力」についても 55%以上の学生が「向上した」と回答している。

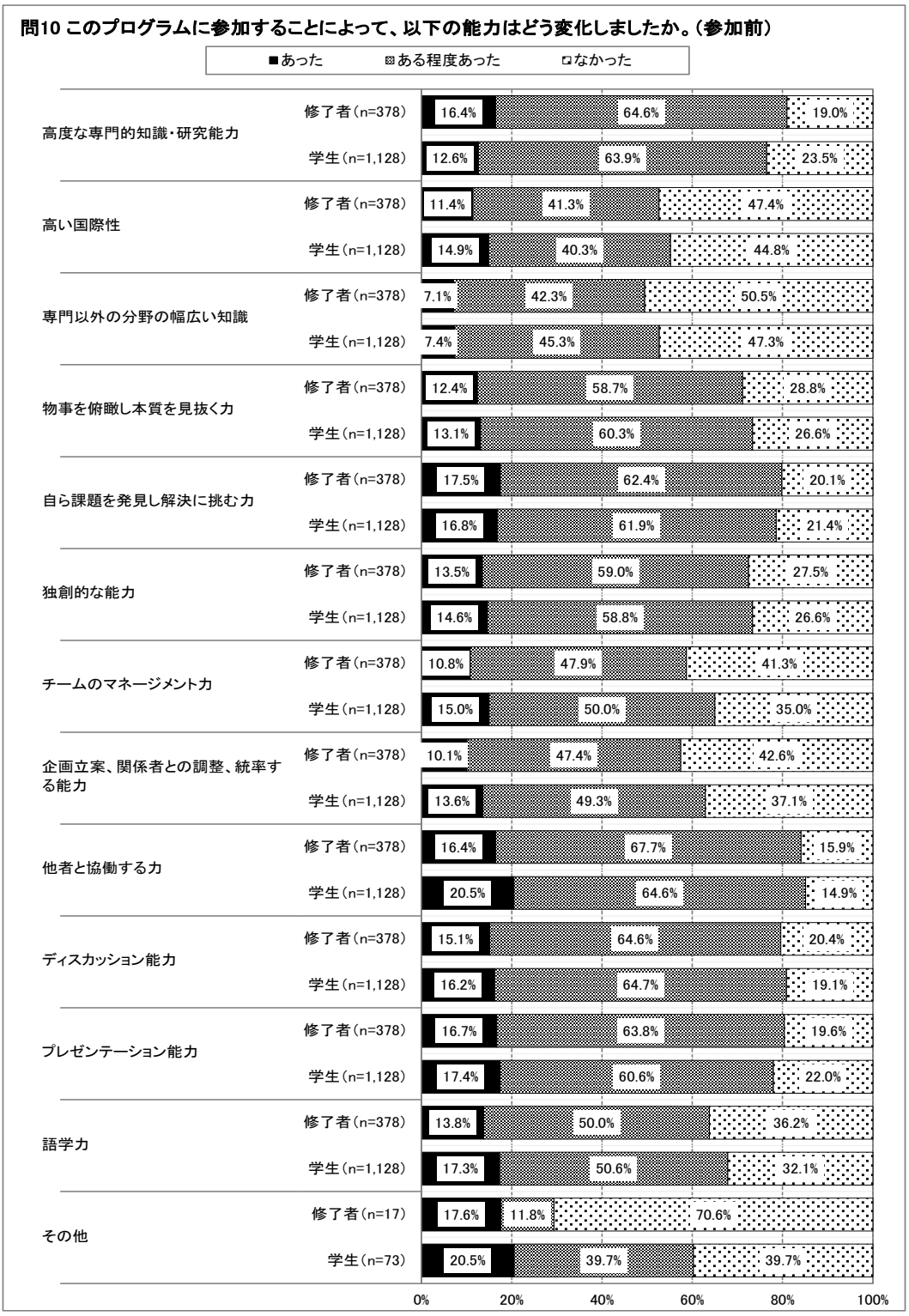


図 12　プログラム参加前の能力

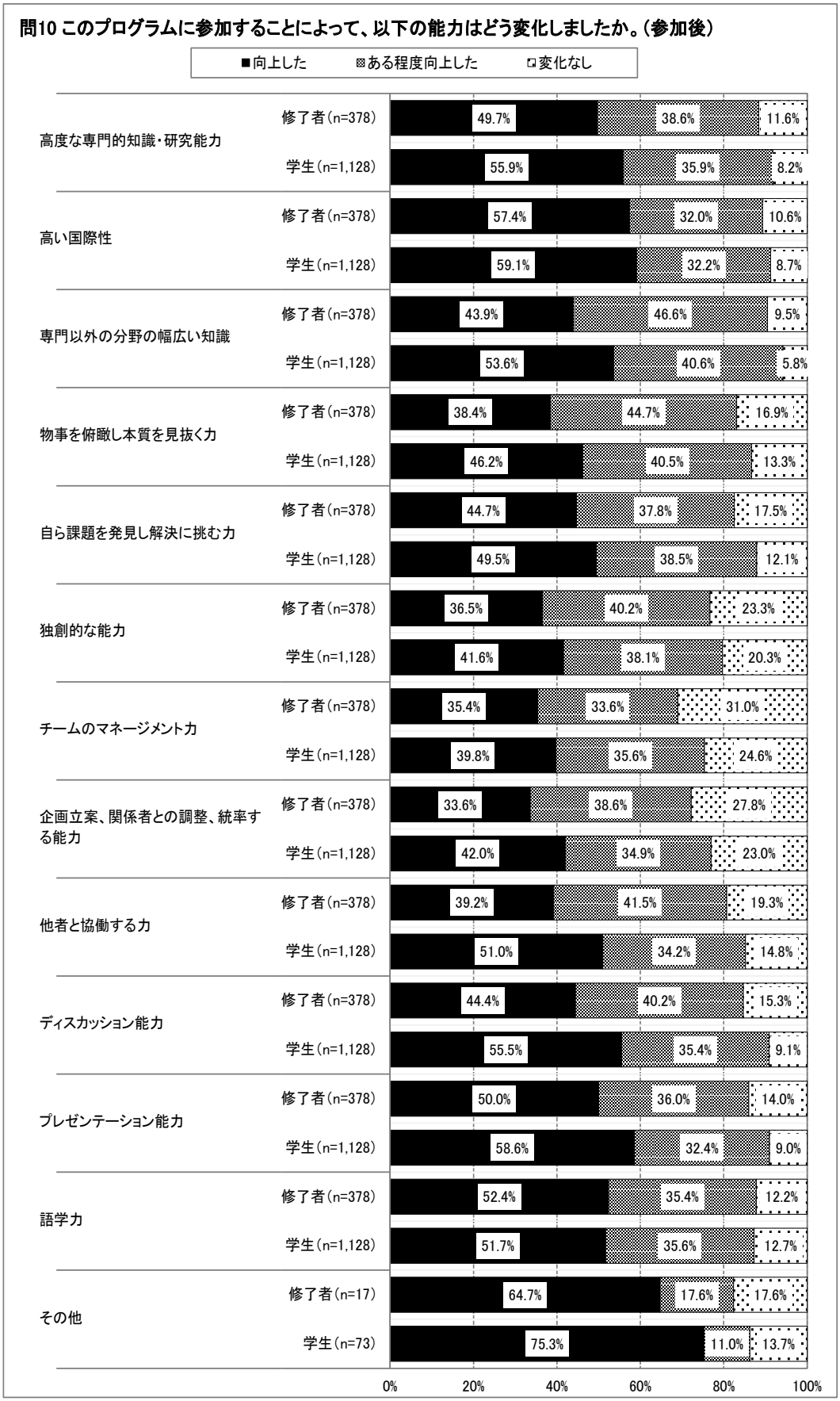


図 13　プログラム参加後の能力

９．プログラムへの評価（学生：問１１）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図１４）

「指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等」の理解や協力、「プログラムに参加する教員の間」での理解の共有については肯定的な意見が 80%を超えている。一方で、一部の教員への負担の集中については、「非常にそう思う」「そう思う」が 50%を超えている。

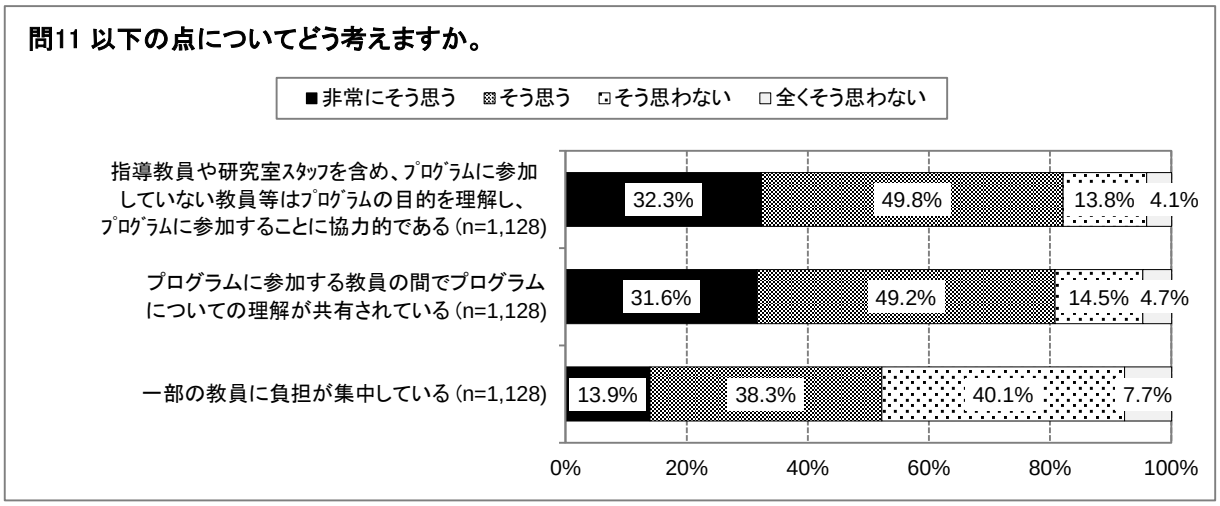


図 14　【学生】プログラムへの評価

１０．プログラムの効果・負担（修了者：問１１、学生：問１１）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている。（図１５）

修了者・学生ともに 80%以上が「後輩にもこのプログラムを勧めたい」、「学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を育成する可能性が大きい」について、「非常にそう思う」又は「そう思う」と回答している。また、「自身の研究に新たな示唆・知見」や「自身の進路選択に関して新たな示唆・知見」が得られることについても、修了者の 75%以上及び学生の 85%以上が肯定的に回答している。「修了後の進路」への不安については、肯定と否定で回答が半数ずつに分かれており、「非常にそう思う」又は「全くそう思わない」の回答が一定数見られることから、学生によってややばらつきがあると言える。また、「所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績をあげる」ことについては、学生の 56%が不安を抱いているものの、修了者の 85%が「業績をあげられた」と回答しており、年次の進行による差が見られる。一方で、「所属研究室での指導とこのプログラムでの指導」による二重負担を感じている者は、修了者・学生ともに 30%を超えている。

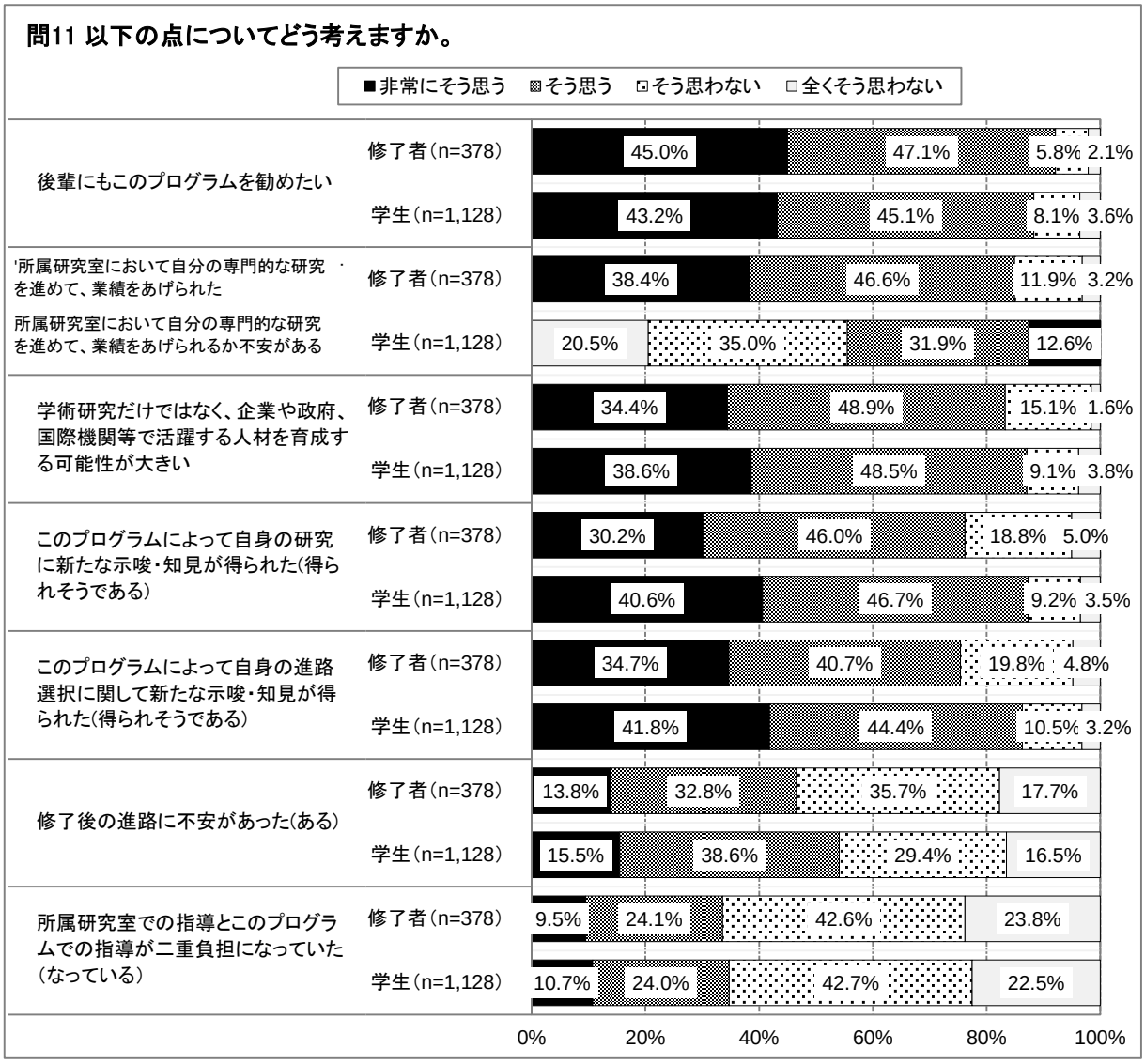


図 15　プログラムの効果・負担

１１．修了後の進路（修了者：問１２、学生：問１２）

修了者に対しては、入学時及び今後の希望（ある場合のみ）、プログラム修了時と平成 29 年 4 月 1 日時点（現在）の状況について聞いている。学生に対しては、入学時及び平成 29 年 4 月 1 日時点（現在）の希望、及び決定した進路について聞いている。（図１６～図２２）

学生については、大学院入学時及びアンケート回答時点のいずれも、「大学（海外を含む）」、「民間企業」、「ポスドク」、「その他公的機関（海外を含む）」の研究職を選択した学生が多く、調査の時点によって全体的な傾向に大きな差は見られない。しかし、最も回答が多い項目が大学院入学時は「大学（海外を含む）」であったところ、アンケート回答時点では「民間企業」に変化していることや、大学院入学時点で希望者が少なかった「起業」をはじめとして、「大学（海外を含む）」と「医師、弁護士等」を除く全ての項目についてアンケート回答時点においては増加していることから、学生の選択肢が多様になりつつあることがうかがえる。

一方、修了者については、大学院入学時及びアンケート回答時点の希望としては、いずれも「大学（海外を含む）」、「民間企業」、「その他公的研究機関（海外を含む）」の研究職を選択する修了者が多い点は両時点で共通するが、大きな変化として次の３点が挙げられる。１点目は、大学院入学時では３番目に回答の多かった「ポスドク」（45%）が、アンケート回答時点では５番目（18%）に順位を落とした点である。２点目は、大学院入学時は比較的少なかった「国際機関」、「起業」、「NPO、NGO 等」について、それぞれ選択した者の割合が 10%から 17%、5%から 10%、3%から 7%といずれも２倍程度に増加した点である。３点目は、「民間企業（研究者）」を選択した者の割合は多いものの、大学院入学時よりアンケート回答時点の方がその割合が減少している点である。これらの大きな変化及び「大学（海外を含む）」や「その他公的研究機関」の研究職においても選択する者の割合の減少が見られることから、プログラム及び修了後の経験から、研究職以外を希望するように変化していることがうかがえる。

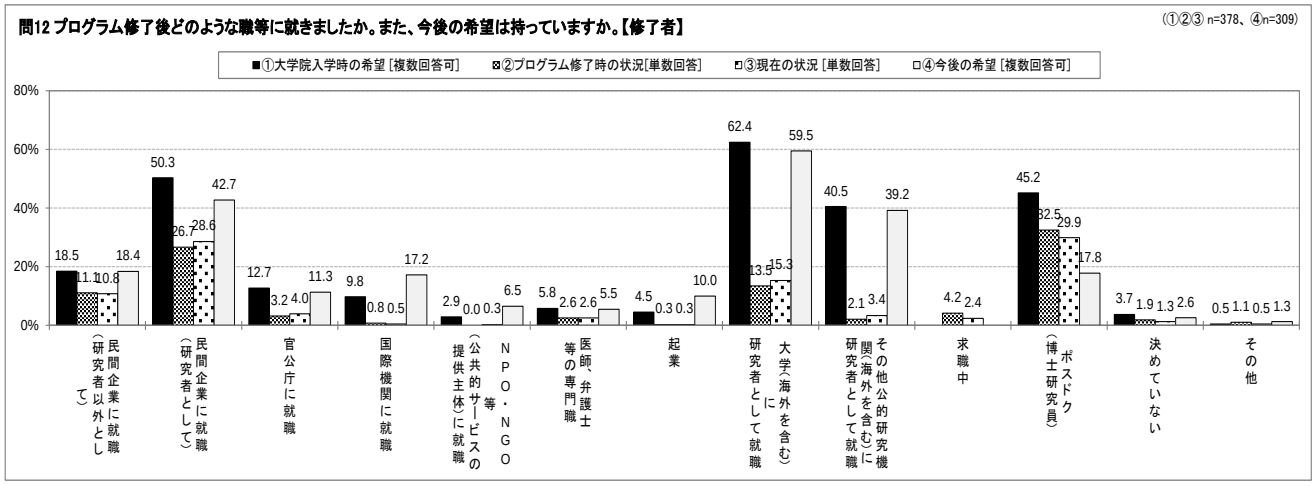


図 16　【修了者】①大学院入学時の希望、②プログラム修了時の状況、③現在の状況、④今後の希望の比較

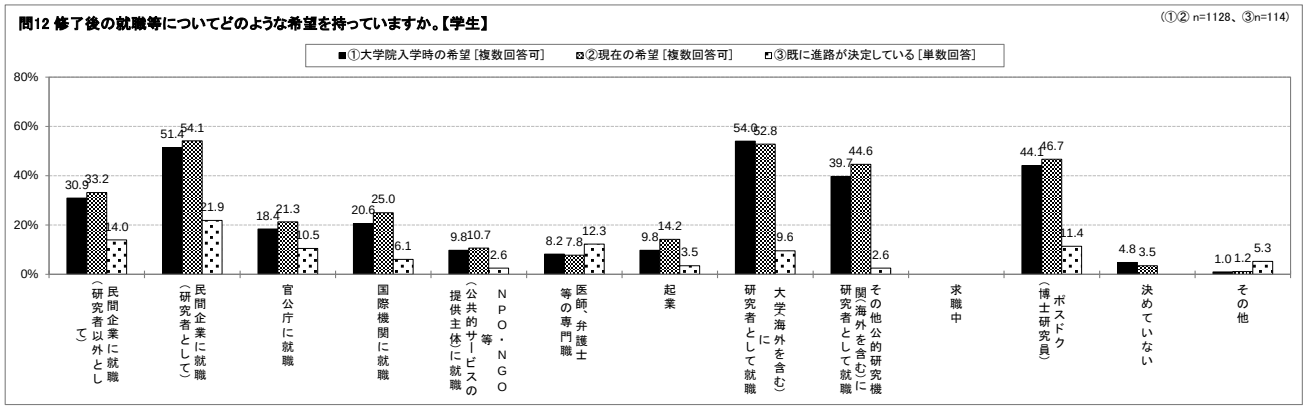


図 17　【学生】①大学院入学時の希望、②現在の希望、③進路決定済みの比較

修了者の進路状況に関しては、プログラム修了時（図１８）と現在（平成 29 年 4 月 1 日時点）（図１９）について聞いている。

修了時及びアンケート回答時点のいずれも、「ポスドク」、「民間企業（研究者）」、「大学（大学を含む）」の研究職に続き、「民間企業（研究者以外）」が多く、様々な進路で活躍していることがうかがわれる。

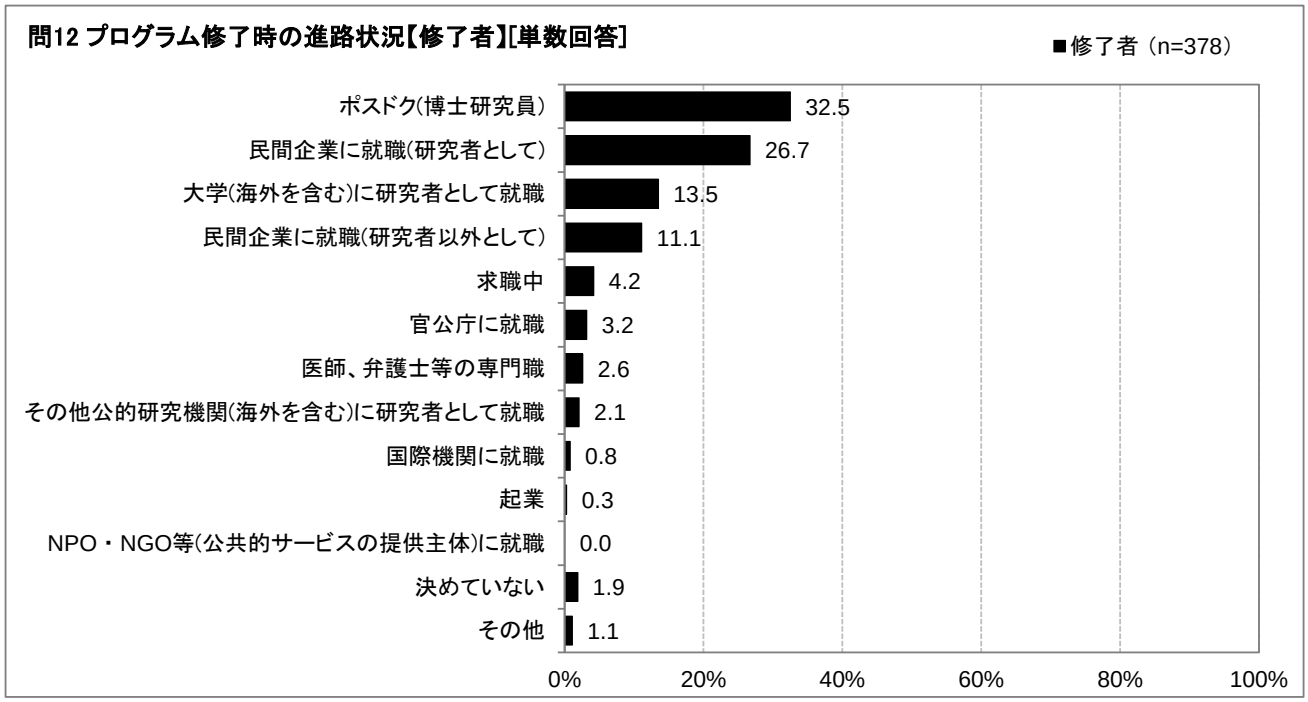


図 18　【修了者】プログラム修了時の進路状況

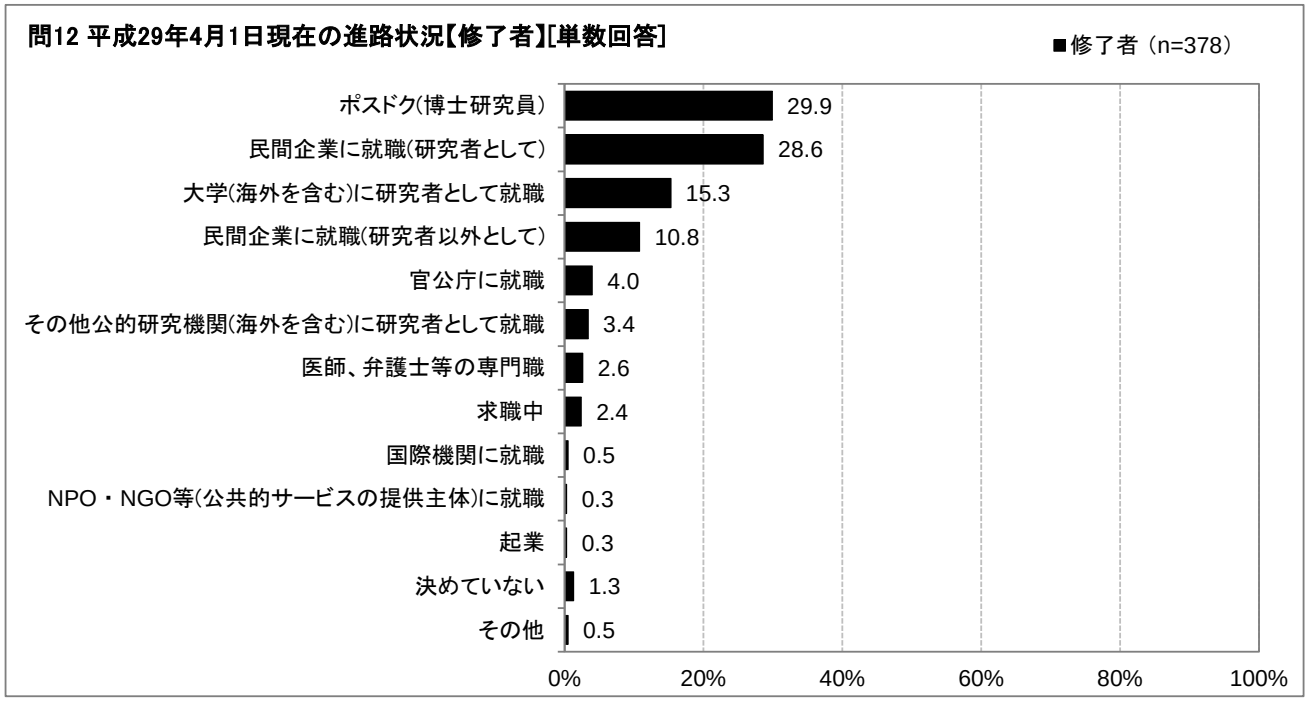


図 19　【修了者】現在（平成 29 年 4 月 1 日）の進路状況

学生のうち、既に進路が決定している場合の進路を下記に示す。

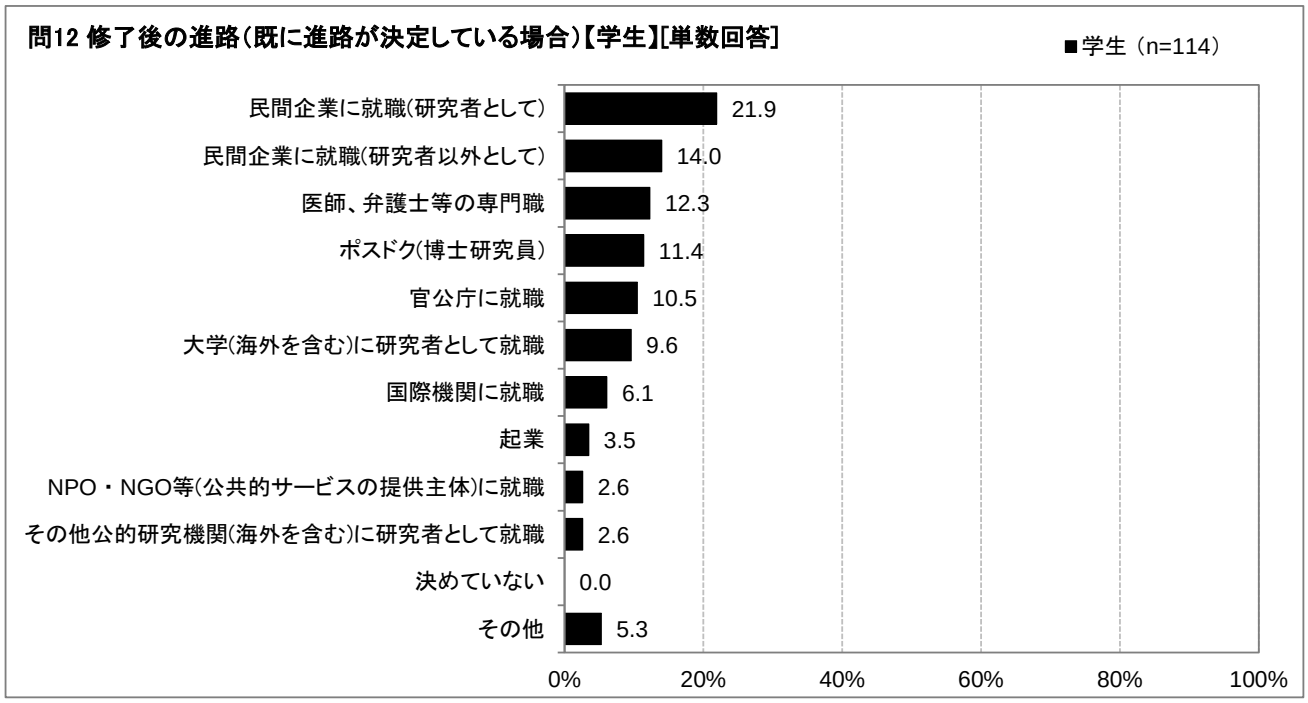


図 20　【学生】既に決定している進路

修了者、学生について、入学時及び現在（平成 29 年 4 月 1 日時点）の進路の希望を下記に示す。

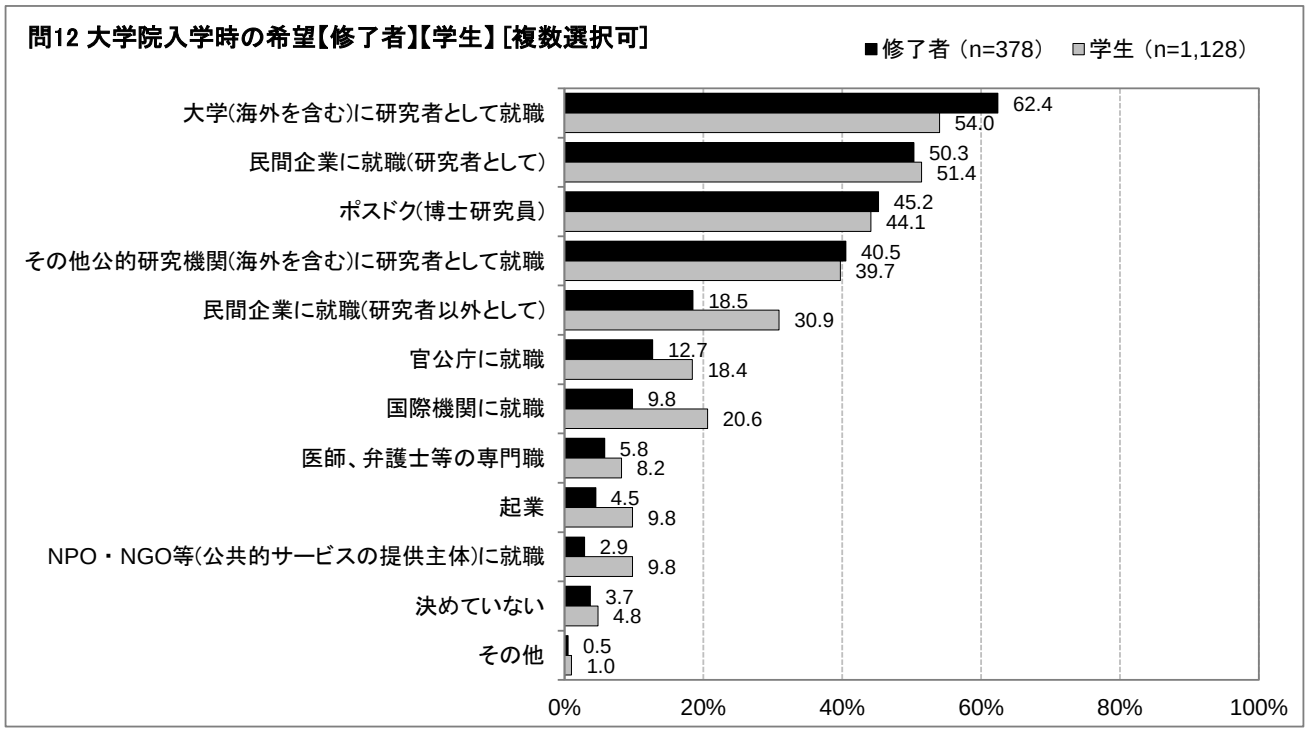


図 21　大学院入学時の進路の希望

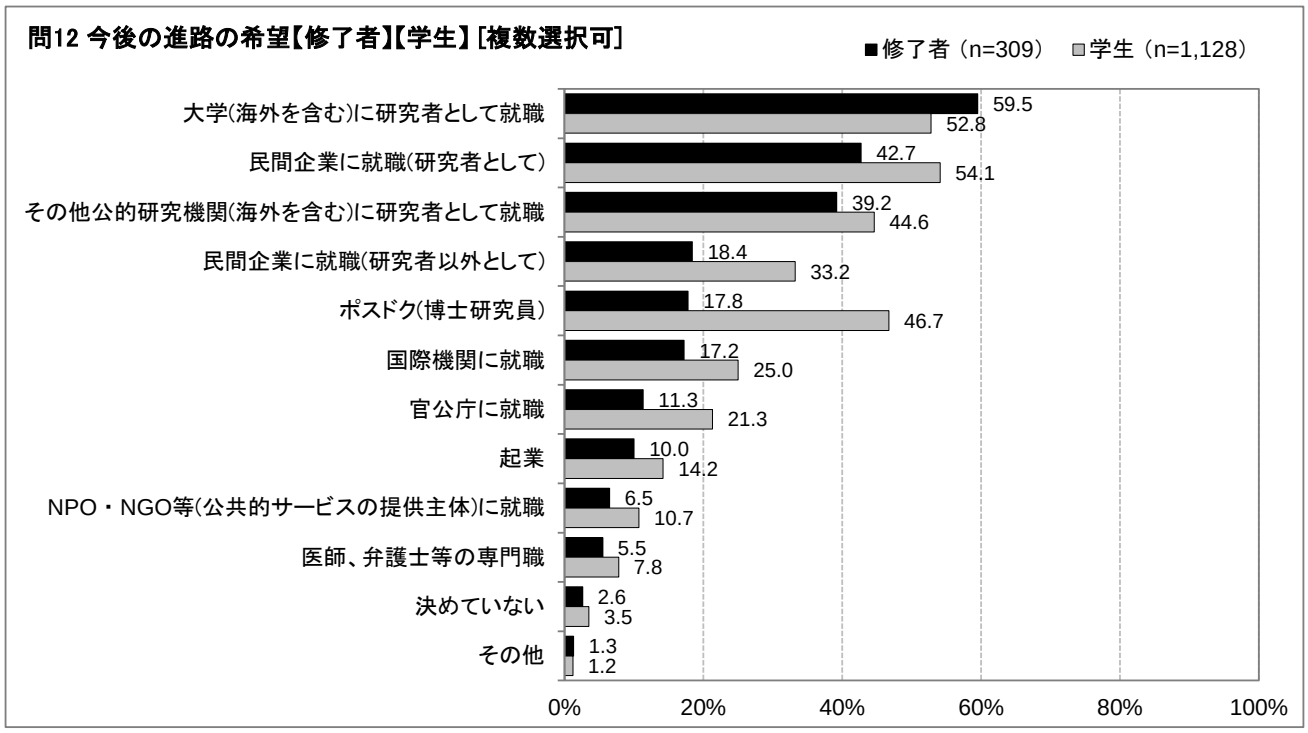


図 22　【修了者】今後の進路の希望、【学生】現在（平成 29 年 4 月 1 日）の進路の希望

１２．居住国（修了者：問１３、学生：問１３）

居住国についての現在及び今後の希望について聞いている。（図２３）

修了者の現状及び修了者・学生の今後の希望のいずれも、「日本」と回答する者が最も多い点は共通しているが、今後の希望について、「日本あるいは母国以外の外国」と回答する修了者は 53%と半数を超え、学生も 40%となっており、グローバルに活躍するリーダーの育成という本プログラムの趣旨を意識して履修するとともに、前述「⑦身についた能力」のとおり各能力の向上も背景にあり、海外に進出する意欲が高まっていることがうかがわれる。

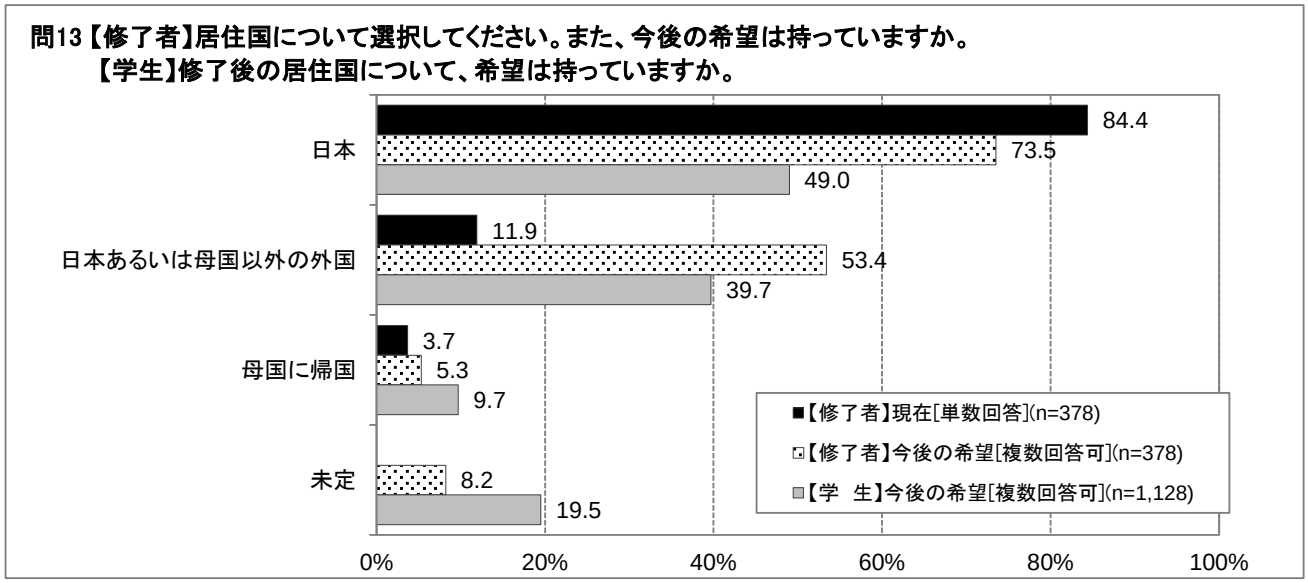


図 23　【修了者】現在の居住国と今後の希望、【学生】居住国の今後の希望

１３．プログラム情報の獲得方法（学生：問１７）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図２４）

半数以上が「大学で行われた説明会・シンポジウム等」を選択（51%）しており、続いて「学内の友人・知人」（43%）を選択した学生も半数近くにのぼる。平成 24 年度及び平成 25 年度採択プログラムの中間評価時のアンケートでは 26%・27%に留まっていたことを勘案すると、プログラムの成熟につれ、学生同士のやりとりが大きな役割を果たしていることがうかがえる。また、教員（プログラム担当者 32%、プログラム担当者以外 17%）やウェブサイト（28%）・リーフレット（21%）等の広報媒体からプログラムを知ったという学生も一定数見られる。

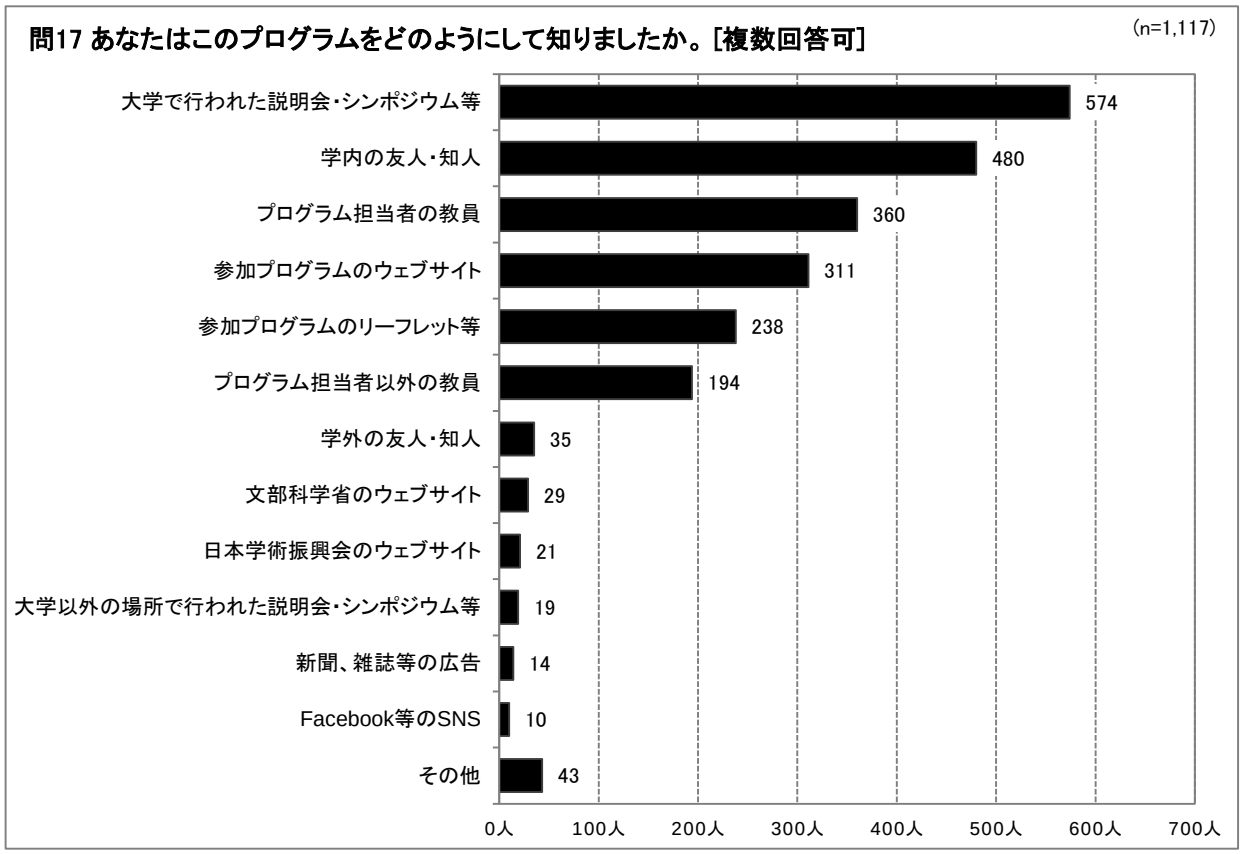
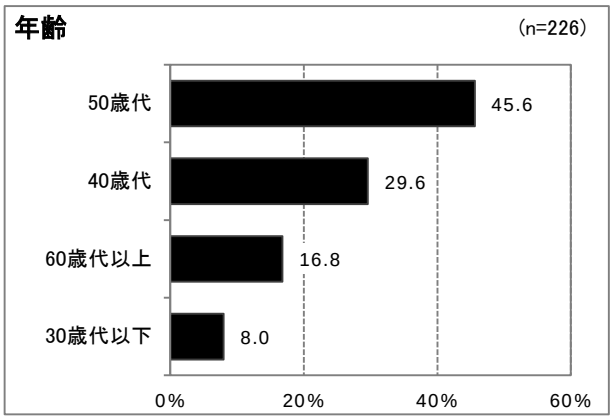


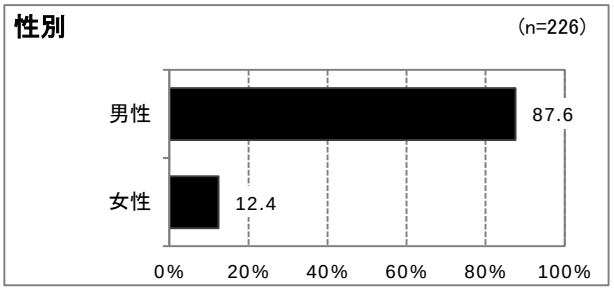
図 24　【学生】プログラム情報の獲得方法

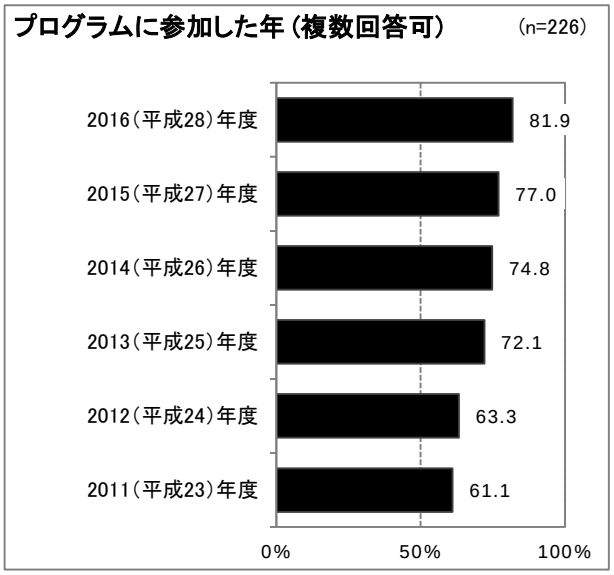
第２部　プログラム担当者アンケート調査結果

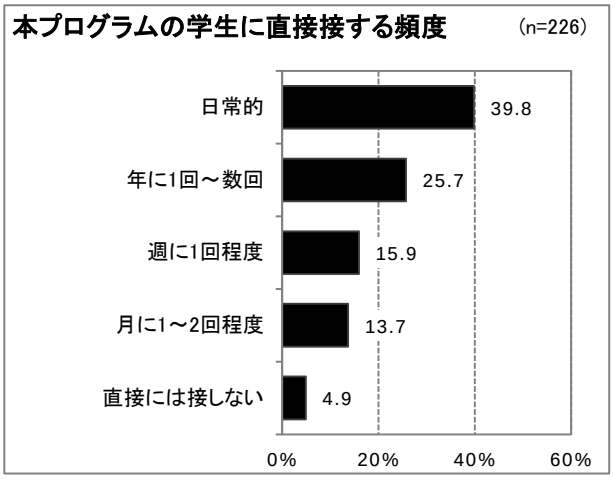
１．回答したプログラム担当者の属性（問２，３，４）

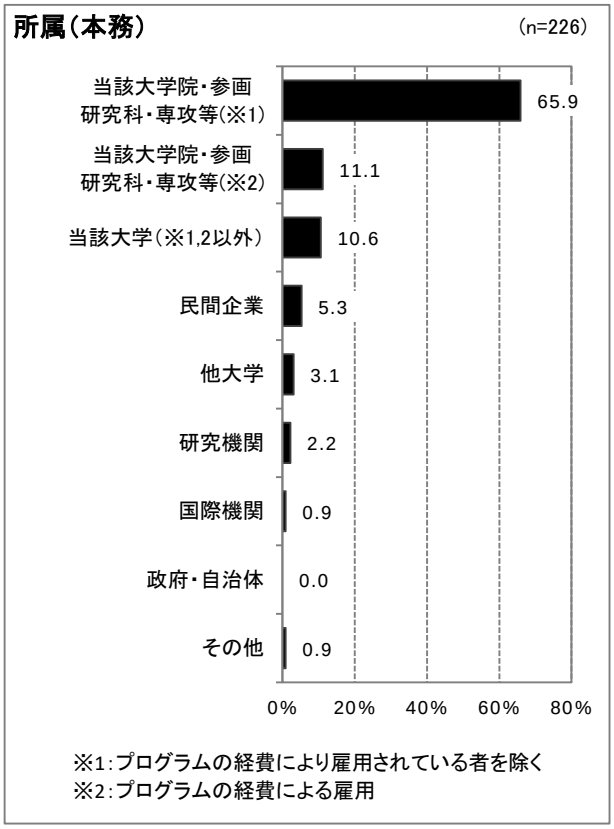
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。

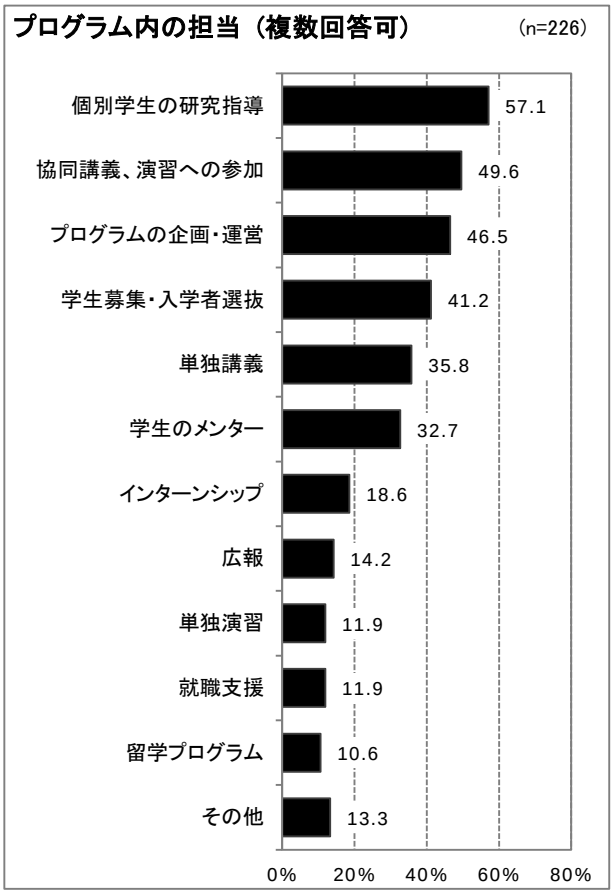








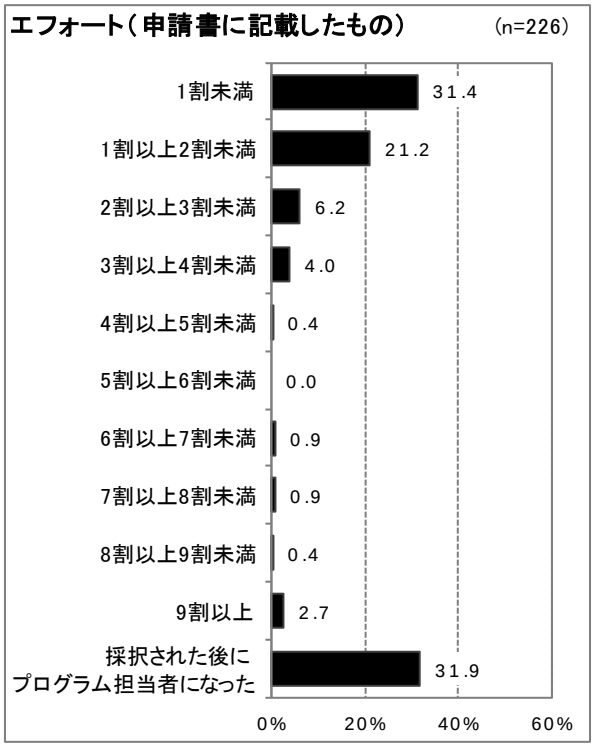

所属（本務）
（n=226）
当該大学院・参画 研究科・専攻等(※1)
65.9
当該大学院・参画 研究科・専攻等(※2)
11.1
当該大学（※1,2以外）
10.6
民間企業
5.3
他大学
3.1
研究機関
2.2
国際機関
0.9
政府・自治体
0.0
その他
0.9
0%
20%
40%
60%
80%
※1:プログラムの経費により雇用されている者を除く
※2:プログラムの経費による雇用


プログラム内の担当（複数回答可）
（n=226）
個別学生の研究指導
57.1
協同講義、演習への参加
49.6
プログラムの企画・運営
46.5
学生募集・入学者選抜
41.2
単独講義
35.8
学生のメンター
32.7
インターンシップ
18.6
広報
14.2
単独演習
11.9
就職支援
11.9
留学プログラム
10.6
その他
13.3
0%
20%
40%
60%
80%

２．プログラムへの関与（問３）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、「プログラム担当者」）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、平成 28 年度の実績としてのエフォートを聞いている。（図２５）

平成 28 年度の実績においては、エフォート１割未満とする担当者が 46%となっており、１割以上２割未満とする担当者と合計すると、75%がエフォート２割未満でプログラムに関与している。



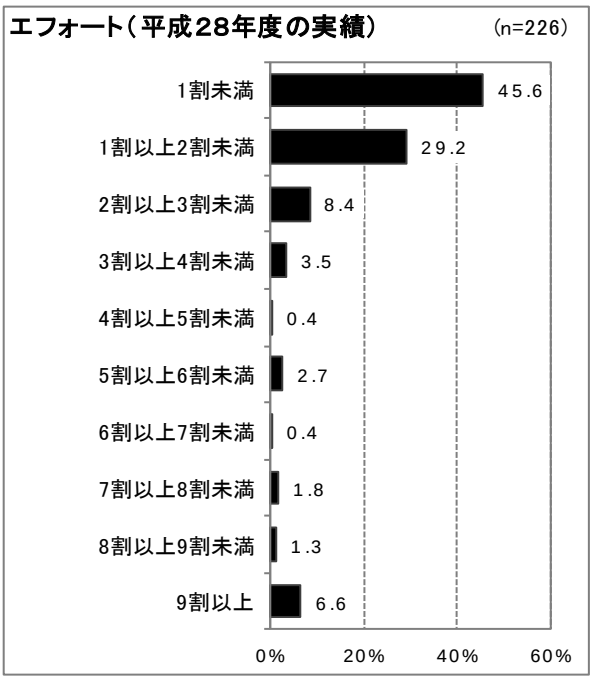


図 25　申請時の想定と平成 28 年度実績のエフォート（n=226）

３．指導等の内容（問５）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図２６）、また行っている場合はその有効性（図２７）について聞いている。

50%以上が「指導学生以外の学生への指導」、「主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等」、「授業外のサポート（メンター等)」を行っていると回答している。いずれの指導についても、その 95%以上が「有効」又は「ある程度有効」と回答している。

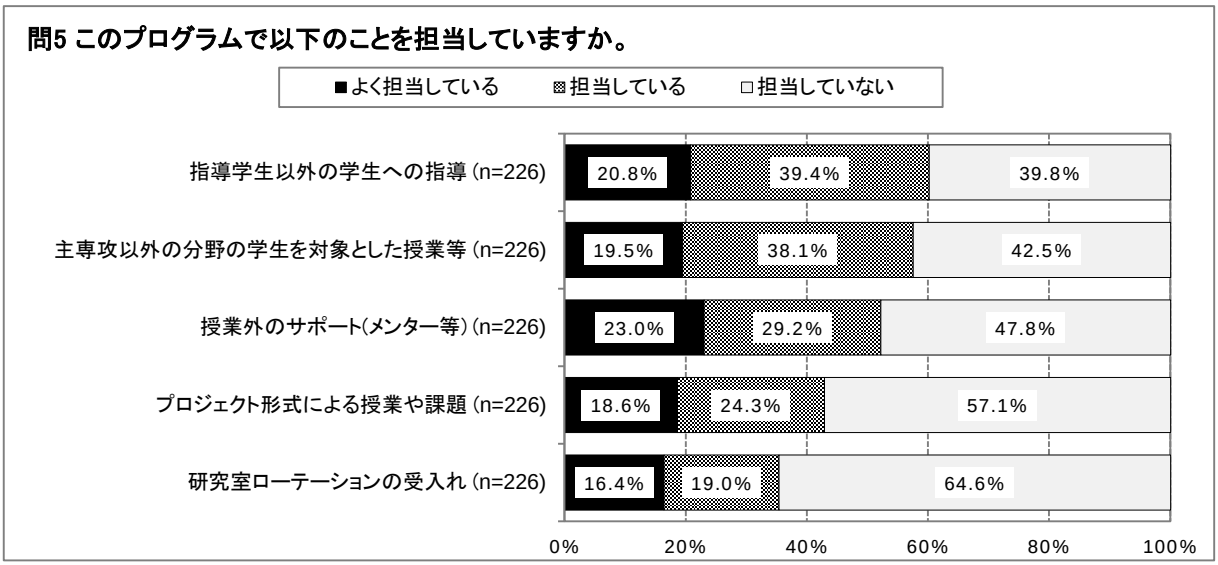


図 26　プログラムで担当している指導等

＜「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答＞

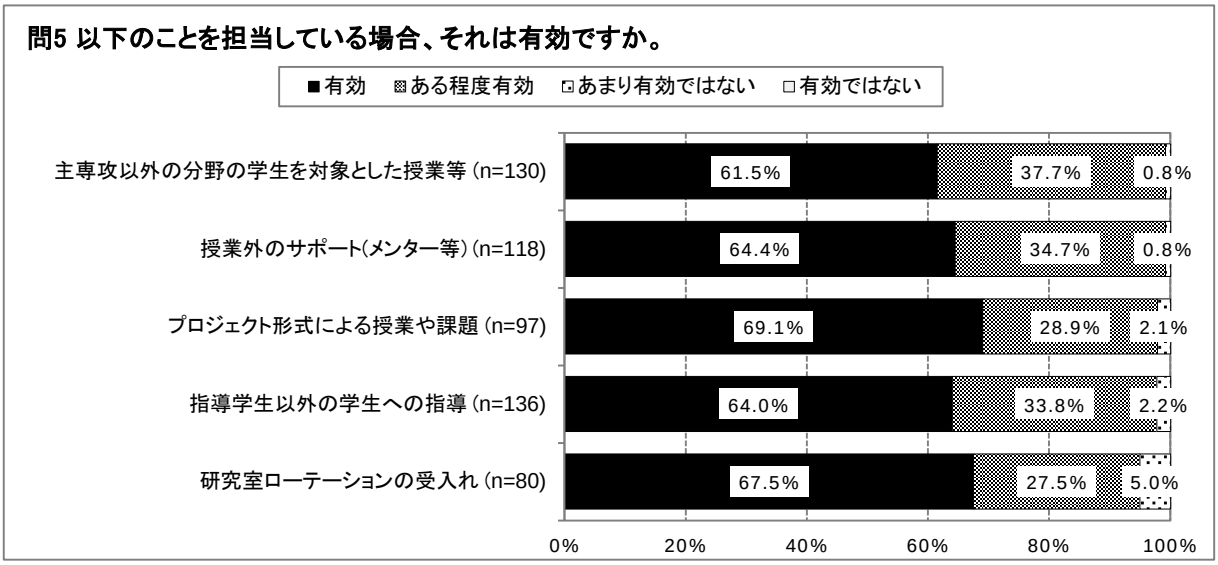


図 27　指導等の有効性

４．プログラムの整備状況及びその有効性（問６）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図２８）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているか（図２９）について聞いている。

「通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」、「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「金銭的支援」、「教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供」、「学外者による指導」の全てについて、50%以上が「十分にされている」と回答している。留学やインターンシップ等の学外活動の各項目における実施、整備状況については、14%～43%と一定数が「分からない」を選択しているが、実施している場合、その 95%以上がいずれの取組についても「有効」と回答している。

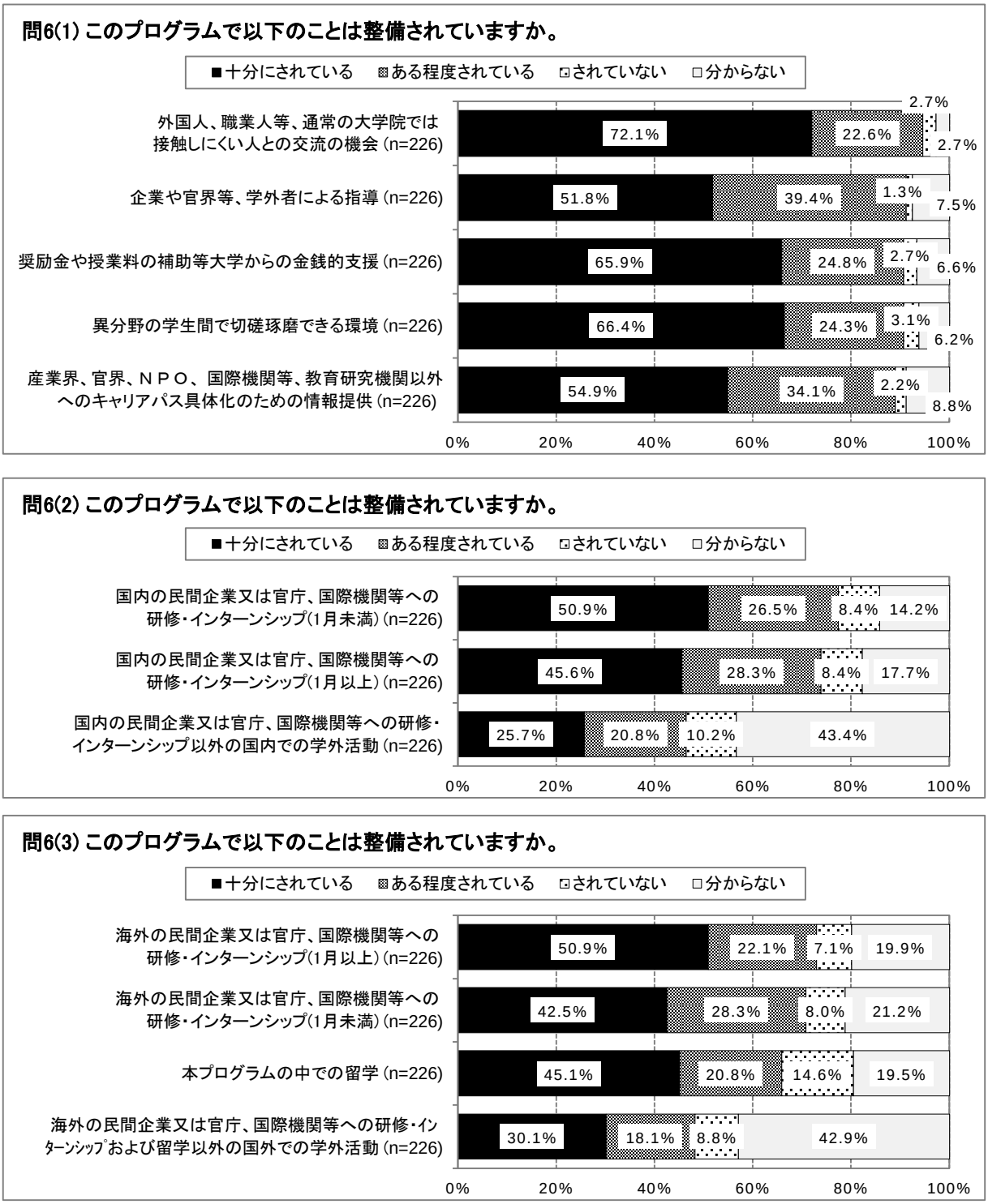
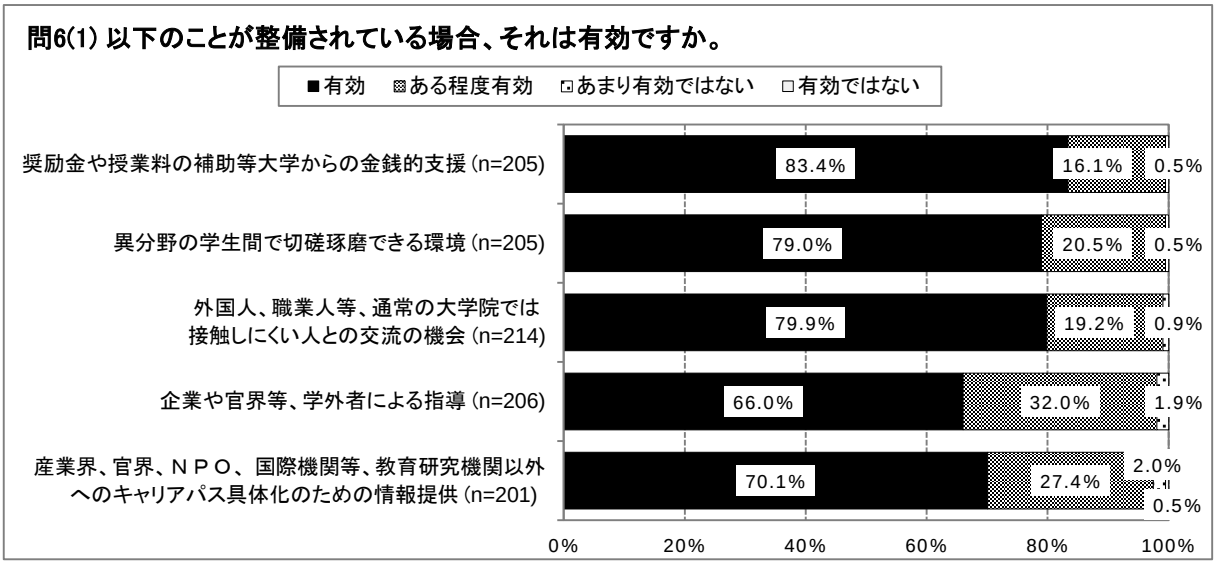
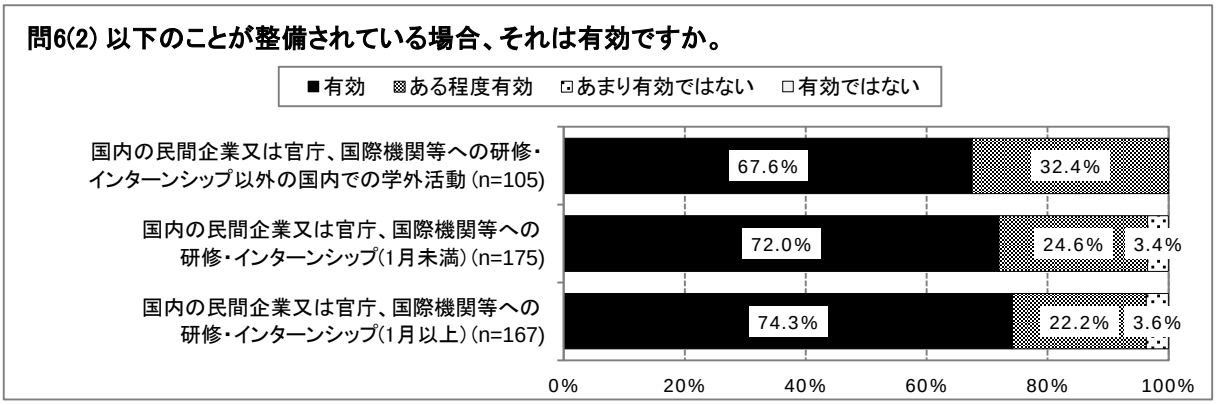


図 28　プログラムの実施や環境の整備状況

＜「十分にされている」「ある程度されている」を選択した場合のみ回答＞





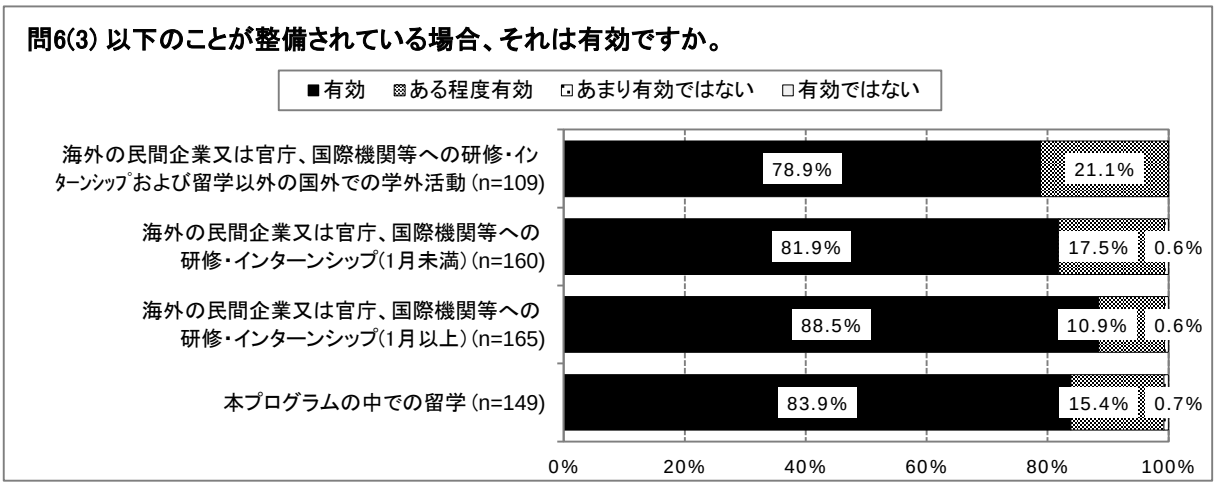


図 29　実施されたプログラムと整備された環境の有効性

５．プログラムの有効性（問７）

各プログラムに参画することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている。（図３０）

全ての学生の能力について、プログラムが有効であるとの回答が多数を占めているが、「非常に有効」と回答した数は「高い国際性」（76%）、「ディスカッション能力」（73%）、「プレゼンテーション能力」（73%）、「語学力」（66%）、「他者と協働する力」（66%）で特に多く見られる。

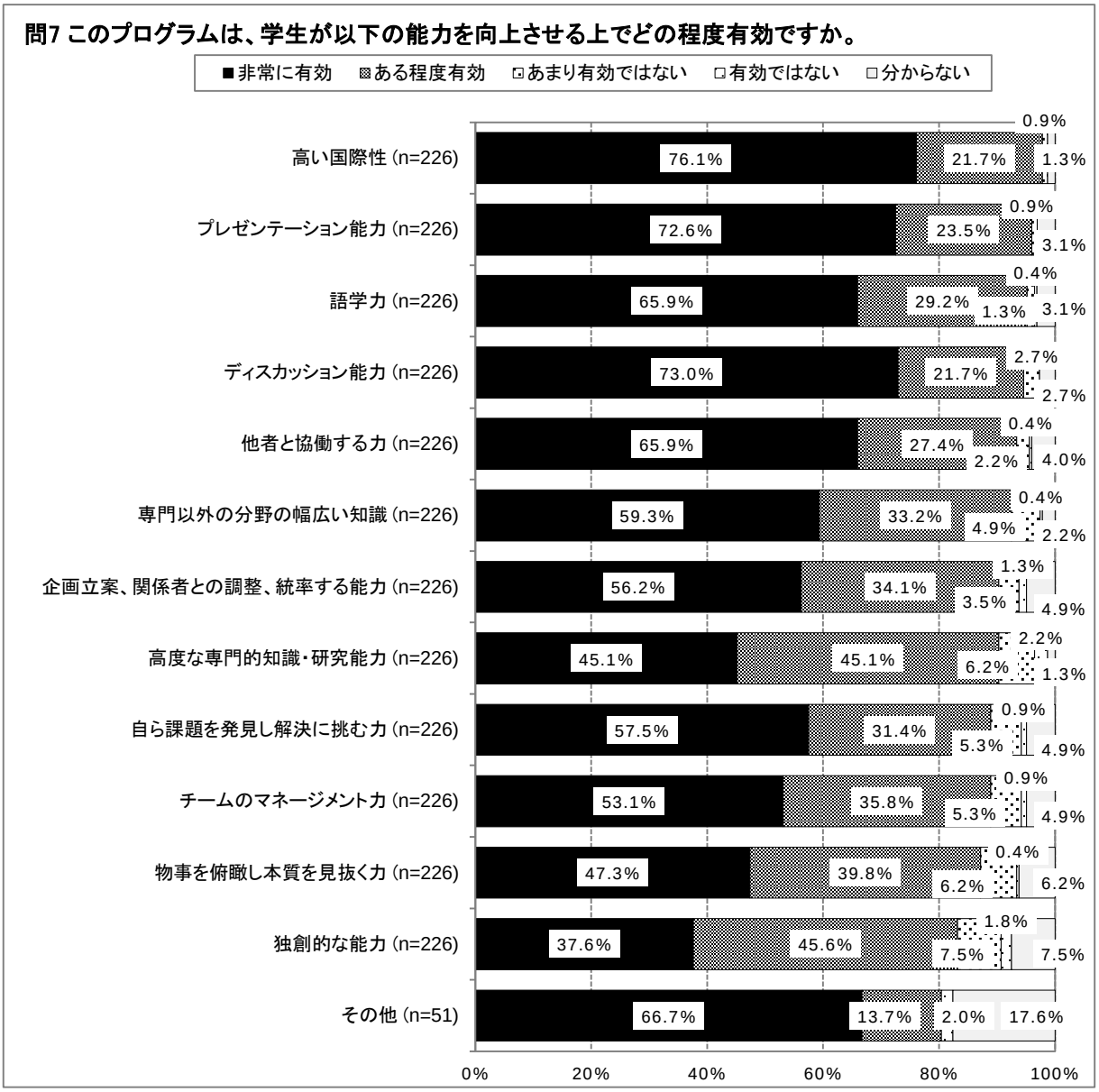


図 30　学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

６．運営・管理（問８）

プログラムの運営・管理の面についての印象を聞いている。（図３１）

事務職員によるプログラム支援の体制が整っているかについては、「非常にそう思う」の回答が 57%で半数を超えている。一方で、学長のリーダーシップが発揮されているかについては、「そう思わない」という回答も 16%で一定数見られる。

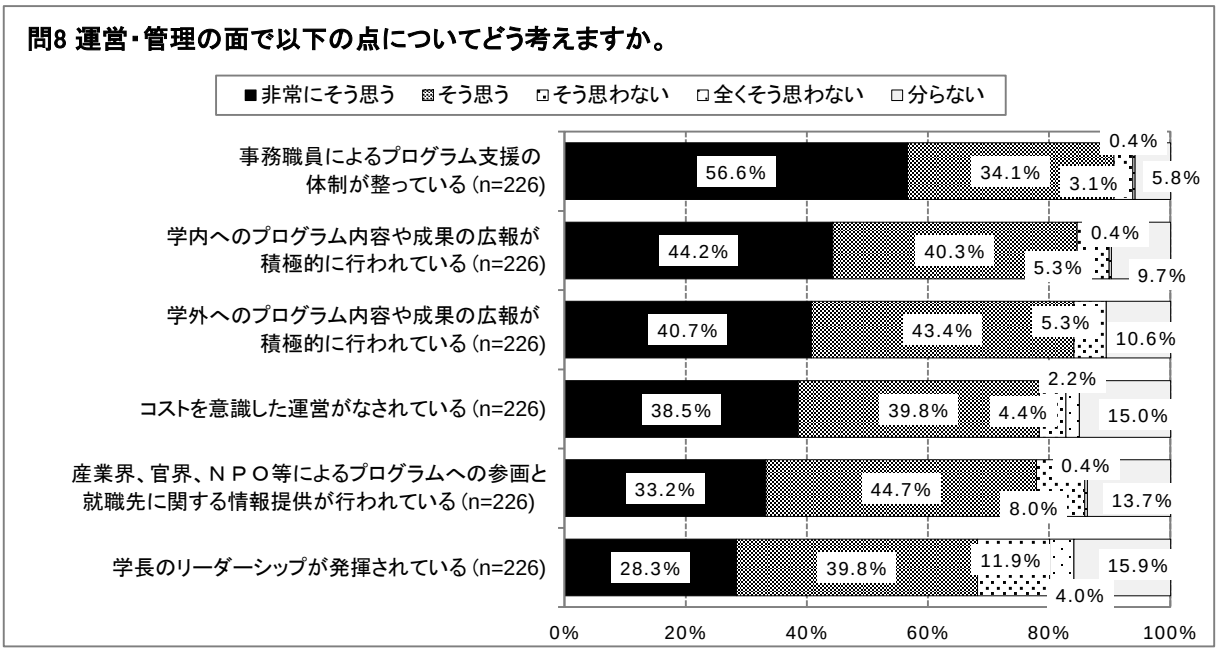


図 31　運営・管理の面での印象

７．プログラムに対する印象（問９）

プログラムに参画している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている。（図３２）

プログラム自体に係る設問に対して概ね肯定的な印象が多く、特に「学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を育成する見込みがある」かどうかについて、50%が「非常にそう思う」と回答するとともに、「そう思う」との回答と合わせると 90%を超えている。一方で、「一部の教員に負担が集中している」に「非常にそう思う」又は「そう思う」との回答の合計は 64%となり、「プログラム担当者以外の教員からの理解があり、協力的である」に、「そう思わない」又は「非常にそう思わない」との回答の合計は 21%となっている。

学生への効果・負担に係る設問に対しても概ね肯定的な印象が多く、特に、「学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる」、「学生はプログラムの趣旨を良く理解している」については、「非常にそう思う」「そう思う」の回答を合計すると 90%を超えている。「学生の将来の進路」について不安があると回答した者は 20%以下であるが、「学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を上げられるか」について不安があると回答した者は 21%、「学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている」に、「非常にそう思う」又は「そう思う」との回答の合計は 30%となっている。

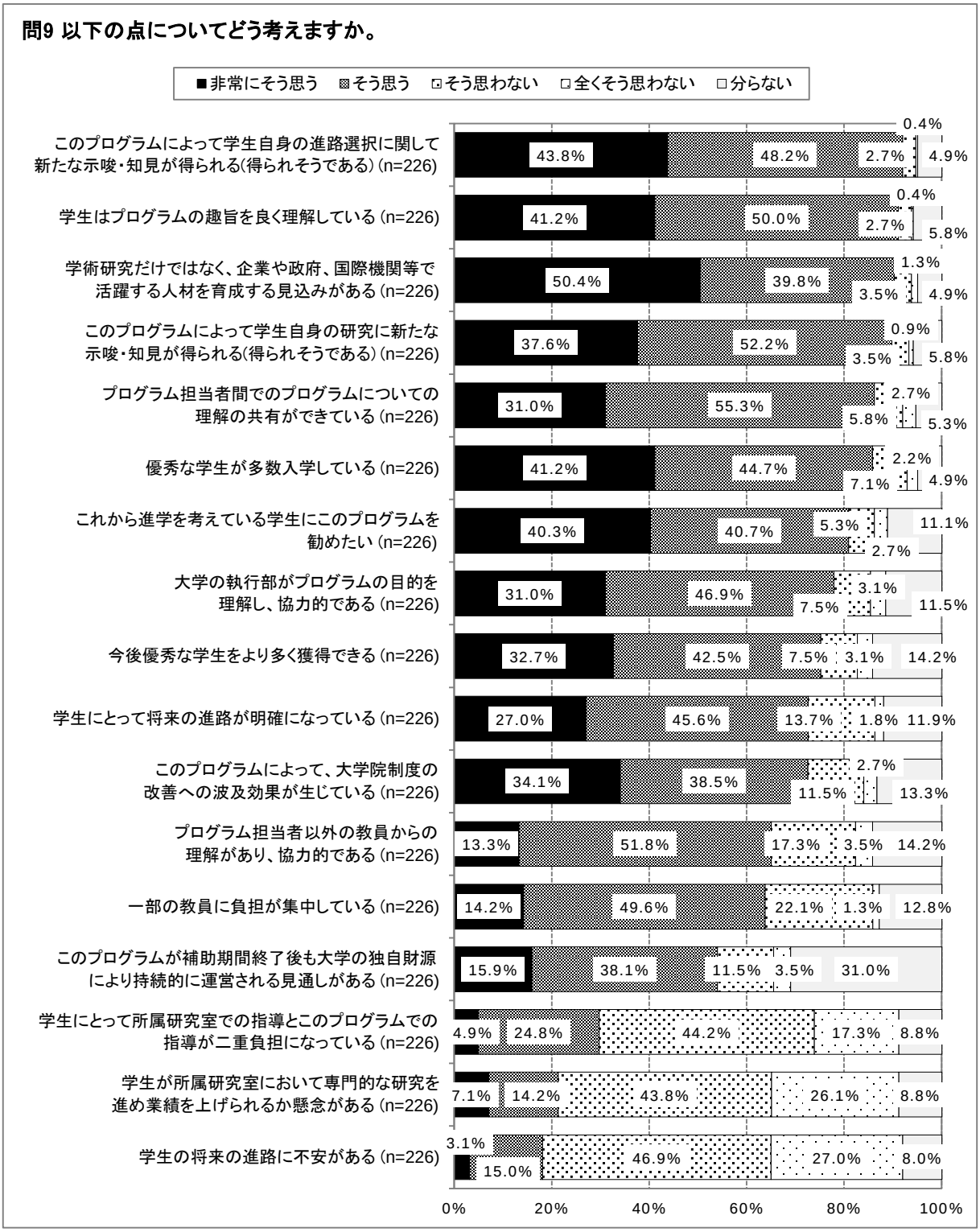


図 32　プログラムに対する印象

８．指導・支援の改善のための評価等の実施（問１０－１）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている。（図３３）

50%以上のプログラム担当者が改善に向けた取組を実施している。

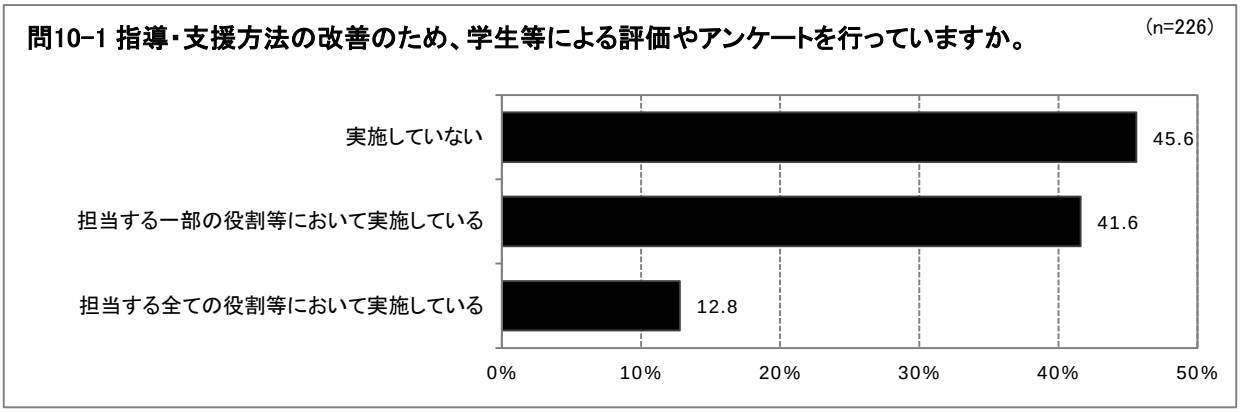


図 33　指導・支援の改善のための評価等の実施(n=226)

附録Ａ　サンプルと回答者数

＜修了者・学生＞

				修了者			学生		
類型	整理番号	機関名	プログラム名称	対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	A01	京都大学	京都大学大学院思修館	3	2	66.7%	41	29	70.7%
	A02	大阪大学	超域イノベーション博士課程プログラム	5	3	60.0%	51	32	62.7%
	A03	慶應義塾大学	超成熟社会発展のサイエンス	9	9	100.0%	39	34	87.2%
複合領域型（環境）	B01	東京大学	サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	13	10	76.9%	58	50	86.2%
	B02	東京工業大学	環境エネルギー協創教育院	29	24	82.8%	105	89	84.8%
	B03	名古屋大学	グリーン自然科学国際教育研究プログラム	80	71	88.8%	157	150	95.5%
	B04	慶應義塾大学	グローバル環境システムリーダープログラム	7	7	100.0%	53	53	100.0%
複合領域型（生命健康）	C01	筑波大学	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	7	5	71.4%	53	50	94.3%
	C02	東京大学	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	104	81	77.9%	140	127	90.7%
	C03	東京工業大学	情報生命博士教育院	15	12	80.0%	65	51	78.5%
	C04	大阪大学	生体統御ネットワーク医学教育プログラム	9	9	100.0%	54	51	94.4%
複合領域型（安全安心）	D01	京都大学	グローバル生存学大学院連携プログラム	15	12	80.0%	65	59	90.8%
複合領域型（横断的テーマ）	E01	東京大学	フォトンサイエンス・リーディング大学院	105	82	78.1%	163	149	91.4%
	E02	広島大学	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	2	2	100.0%	36	31	86.1%
オンリーワン型	F01	北海道大学	OneHealthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム	25	19	76.0%	83	71	85.5%
	F02	群馬大学	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム	8	7	87.5%	21	20	95.2%
	F03	東京工業大学	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成	3	3	100.0%	16	14	87.5%
	F04	山梨大学	グリーンエネルギー変換工学	21	18	85.7%	30	29	96.7%
	F05	名古屋大学	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム				20	18	90.0%
	F06	兵庫県立大学	フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー	2	2	100.0%	21	21	100.0%
総計				462	378	81.8%	1,271	1,128	88.7%

注）

・オンリーワン型の F05 名古屋大学は平成２８年度３月末時点で修了者の該当なし。

・学生の対象者には休学中の者を含む。

＜プログラム担当者＞

類型	整理番号	機関名	プログラム名称	対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	A01	京都大学	京都大学大学院思修館	15	7	46.7%
	A02	大阪大学	超域イノベーション博士課程プログラム	24	18	75.0%
	A03	慶應義塾大学	超成熟社会発展のサイエンス	17	13	76.5%
複合領域型（環境）	B01	東京大学	サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	9	7	77.8%
	B02	東京工業大学	環境エネルギー協創教育院	15	11	73.3%
	B03	名古屋大学	グリーン自然科学国際教育研究プログラム	16	15	93.8%
	B04	慶應義塾大学	グローバル環境システムリーダープログラム	11	9	81.8%
複合領域型（生命健康）	C01	筑波大学	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	23	21	91.3%
	C02	東京大学	ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム	11	8	72.7%
	C03	東京工業大学	情報生命博士教育院	22	10	45.5%
	C04	大阪大学	生体統御ネットワーク医学教育プログラム	21	16	76.2%
複合領域型（安全安心）	D01	京都大学	グローバル生存学大学院連携プログラム	20	14	70.0%
複合領域型（横断的テーマ）	E01	東京大学	フォトンサイエンス・リーディング大学院	11	5	45.5%
	E02	広島大学	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム	20	11	55.0%
オンリーワン型	F01	北海道大学	OneHealthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム	10	9	90.0%
	F02	群馬大学	重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム	16	12	75.0%
	F03	東京工業大学	グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント養成	8	6	75.0%
	F04	山梨大学	グリーンエネルギー変換工学	11	11	100.0%
	F05	名古屋大学	法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム	9	8	88.9%
	F06	兵庫県立大学	フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー	18	15	83.3%
総計				307	226	73.6%

注）

・プログラム担当者（プログラム責任者、プログラムコーディネーターを除く。）のうち３割程度を博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局により無作為に抽出し、回答の対象者とした。

附録 B　修了者アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム　平成23年度採択プログラム事後評価

修了者アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラムの平成23年度採択プログラムに対する事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムに参加されていた皆さんに御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう、固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

- 5 月 22 日（月）までに次のウェブサイトから御回答ください。
  → https://www.tbird-q.com/plgs2017/worksheet.php

- 本調査に関するお問い合わせ先
  Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）　担当者：太田、大沼　Email：jsps-q@transbird.com

参加されていたプログラムと、御自身についてうかがいます

問1　参加していた大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2　年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	0 人（0.0%）	287 人（75.9%）	85 人（22.5%）	6 人（1.6%）

性別	1. 女性	2. 男性
	76 人（20.1%）	302 人（79.9%）

問3　プログラムとの関係について選択してください。

プログラム参加開始年度	1. 2011 年度 （平成 23 年度）	2. 2012 年度 （平成 24 年度）	3. 2013 年度 （平成 25 年度）	4. 2014 年度 （平成 26 年度）	5. 2015 年度 （平成 27 年度）	6. 2016 年度 （平成 28 年度）
	79 人（20.9%）	204 人（54.0%）	78 人（20.6%）	16 人（4.2%）	1 人（0.3%）	0 人（0.0%）

プログラム修了年度	1. 2013 年度 （平成 25 年度）	2. 2014 年度 （平成 26 年度）	3. 2015 年度 （平成 27 年度）	4. 2016 年度 （平成 28 年度）
	3 人（0.8%）	46 人（12.2%）	107 人（28.3%）	222 人（58.7%）

プログラム参加時期	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	98 人（25.9%）	123 人（32.5%）	157 人（41.5%）

学位論文執筆分野	1. 総合系 （情報学、環境学、複合領域）	2. 人文社会系 （総合人文社会、人文学、社会科学）	3. 理工系 （総合理工、数物系科学、化学、工学）	4. 生物系 （総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系）	5. その他
	12 人（3.2%）	10 人（2.6%）	205 人（54.2%）	148 人（39.2%）	3 人（0.8%）

5. その他（自由記述）

問4　プログラム参加時の経歴についてあてはまるもの全てを選択してください。

1	プログラムを実施する大学を卒業	291 人（77.0%）
2	留学生	34 人（9.0%）
3	他の大学の学部を卒業（国立高専専攻科修了後学士を取得した場合を含む）後、プログラムに参加	54 人（14.3%）
4	他の大学院を経験後、プログラムに参加	24 人（6.3%）

5	社会人を経験後、プログラムに参加	23 人（6.1%）
6	プログラム参加中も在職していた	12 人（3.2%）
7	プログラム参加中は休職していた	2 人（0.5%）

問5　指導教員（専門分野における研究指導を主に行う教員１名）とプログラムとの関係について選択してください。

1	指導教員がいた　－　その指導教員がプログラムにも参画していた	228 人 （60.3%）
2	指導教員がいた　－　その指導教員はプログラムには参画していなかった	149 人 （39.4%）
3	それ以外	1 人（0.3%）

3. その他（自由記述）

問6　このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、その動機はどの程度満たされましたか。

	プログラム参加の動機		修了してからの評価			
	当てはまる動機（複数回答可）	うち、最も強い動機	期待より良かった	期待通りだった	期待したほどではなかった	全く期待通りではなかった
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	225 人 (59.5%)	39 人 (10.3%)	66 人 (29.3%)	129 人 (57.3%)	26 人 (11.6%)	4 人 (1.8%)
産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	164 人 (43.4%)	12 人 (3.2%)	52 人 (31.7%)	63 人 (38.4%)	43 人 (26.2%)	6 人 (3.7%)
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる	296 人 (78.3%)	85 人 (22.5%)	126 人 (42.6%)	137 人 (46.3%)	27 人 (9.1%)	6 人 (2.0%)
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる	232 人 (61.4%)	21 人 (5.6%)	106 人 (45.7%)	93 人 (40.1%)	31 人 (13.4%)	2 人 (0.9%)
留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める	249 人 (65.9%)	59 人 (15.6%)	151 人 (60.6%)	82 人 (32.9%)	14 人 (5.6%)	2 人 (0.8%)
グローバルな舞台で活躍していくために Ph.D.が必要	164 人 (43.4%)	9 人 (2.4%)	67 人 (40.9%)	83 人 (50.6%)	11 人 (6.7%)	3 人 (1.8%)
経済的な支援が充実している	337 人 (89.2%)	134 人 (35.4%)	111 人 (32.9%)	197 人 (58.5%)	25 人 (7.4%)	4 人 (1.2%)
何となく面白そうだと思った	145 人 (38.4%)	7 人 (1.9%)	60 人 (41.4%)	70 人 (48.3%)	14 人 (9.7%)	1 人 (0.7%)
友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた	51 人 (13.5%)	0 人 (0.0%)				
指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）	195 人 (51.6%)	10 人 (2.6%)				
指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）	12 人 (3.2%)	2 人 (0.5%)				

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

問7　プログラムの以下の点をどのように評価しますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流	158 人 (41.8%)	151 人 (39.9%)	46 人（12.2%）	21 人（5.6%）	2 人（0.5%）
他大学の学生との交流	50 人（13.2%）	88 人（23.3%）	109 人 (28.8%)	50 人（13.2%）	81 人（21.4%）
専門分野以外の教員との出会い	132 人 (34.9%)	158 人 (41.8%)	58 人（15.3%）	24 人（6.3%）	6 人（1.6%）
企業人との交流	96 人（25.4%）	130 人 (34.4%)	85 人（22.5%）	38 人（10.1%）	29 人（7.7%）
専門分野以外の幅広い知識や経験	124 人 (32.8%)	171 人 (45.2%)	58 人（15.3%）	21 人（5.6%）	4 人（1.1%）
奨励金や授業料の補助等大学からの経済的支援	198 人 (52.4%)	130 人 (34.4%)	31 人（8.2%）	15 人（4.0%）	4 人（1.1%）
議論することに対する自信をつけること	107 人 (28.3%)	135 人 (35.7%)	101 人 (26.7%)	28 人（7.4%）	7 人（1.9%）
アカデミア以外の分野で活躍する自信をつけること	99 人（26.2%）	112 人 (29.6%)	106 人 (28.0%)	41 人（10.8%）	20 人（5.3%）
語学力向上のためのカリキュラム	90 人（23.8%）	147 人 (38.9%)	75 人（19.8%）	33 人（8.7%）	33 人（8.7%）
インターンシップの機会	161 人 (42.6%)	101 人 (26.7%)	57 人（15.1%）	18 人（4.8%）	41 人（10.8%）

プログラムでの実施状況等についてうかがいます

問8　このプログラムで以下の指導をどの程度受けましたか。また、受けた場合、それは有効でしたか。

	受けた頻度			有効か			
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではなかった	有効ではなかった
指導教員以外の教員からの指導	118 人 (31.2%)	221 人 (58.5%)	39 人 (10.3%)	170 人 (50.1%)	141 人 (41.6%)	25 人 (7.4%)	3 人 (0.9%)
企業、官界等の学外者からの指導・助言	58 人 (15.3%)	158 人 (41.8%)	162 人 (42.9%)	103 人 (47.7%)	89 人 (41.2%)	22 人 (10.2%)	2 人 (0.9%)
主専攻以外の分野の授業等の履修	154 人 (40.7%)	205 人 (54.2%)	19 人 (5.0%)	137 人 (38.2%)	172 人 (47.9%)	40 人 (11.1%)	10 人 (2.8%)
研究室ローテーション ※名称は問わない（他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	101 人 (26.7%)	106 人 (28.0%)	171 人 (45.2%)	128 人 (61.8%)	61 人 (29.5%)	13 人 (6.3%)	5 人 (2.4%)
プロジェクト形式による授業や課題	95 人 (25.1%)	151 人 (39.9%)	132 人 (34.9%)	97 人 (39.4%)	118 人 (48.0%)	28 人 (11.4%)	3 人 (1.2%)
授業外のサポート（メンター等）	76 人 (20.1%)	132 人 (34.9%)	170 人 (45.0%)	96 人 (46.2%)	81 人 (38.9%)	26 人 (12.5%)	5 人 (2.4%)
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	97 人 (25.7%)	151 人 (39.9%)	130 人 (34.4%)	107 人 (43.1%)	105 人 (42.3%)	31 人 (12.5%)	5 人 (2.0%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9A　このプログラムにおいて、以下のことは整備されていましたか。また、それは有効でしたか。

（整備されていなかった場合は「該当なし」を選択し、設問「有効であったか」への回答は不要です。）

	整備されていた				有効であったか（「該当なし」を選択した場合は回答不要）			
	十分にされていた	ある程度されていた	不十分	該当なし	有効	ある程度有効	あまり有効ではなかった	有効ではなかった
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	228 人 (60.3%)	127 人 (33.6%)	15 人 (4.0%)	8 人 (2.1%)	260 人 (70.3%)	92 人 (24.9%)	13 人 (3.5%)	5 人 (1.4%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等	120 人 (31.7%)	179 人 (47.4%)	56 人 (14.8%)	23 人 (6.1%)	131 人 (36.9%)	162 人 (45.6%)	47 人 (13.2%)	15 人 (4.2%)
外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	132 人 (34.9%)	170 人 (45.0%)	46 人 (12.2%)	30 人 (7.9%)	154 人 (44.3%)	139 人 (39.9%)	47 人 (13.5%)	8 人 (2.3%)
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会	138 人 (36.5%)	158 人 (41.8%)	31 人 (8.2%)	51 人 (13.5%)	144 人 (44.0%)	133 人 (40.7%)	42 人 (12.8%)	8 人 (2.4%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9B　このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。また、経験した場合それは有効でしたか。
（プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がなかった場合は「参加しなかった」を選択してください。）

	参加の有無		有効であったか（「参加した」を選択した場合のみ回答）			
	参加した	参加しなかった	有効	ある程度有効	あまり有効ではなかった	有効ではなかった
①国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	94 人 (24.9%)	284 人 (75.1%)	65 人 (69.1%)	21 人 (22.3%)	6 人 (6.4%)	2 人 (2.1%)
②国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	37 人 (9.8%)	341 人 (90.2%)	34 人 (91.9%)	3 人 (8.1%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
③国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動　※1	44 人 (11.6%)	334 人 (88.4%)	32 人 (72.7%)	10 人 (22.7%)	1 人 (2.3%)	1 人 (2.3%)
※1 「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。						
④海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	61 人 (16.1%)	317 人 (83.9%)	49 人 (80.3%)	10 人 (16.4%)	2 人 (3.3%)	0 人 (0.0%)
⑤海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	48 人 (12.7%)	330 人 (87.3%)	43 人 (89.6%)	5 人 (10.4%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑥本プログラムの中での留学（3月未満）	127 人 (33.6%)	251 人 (66.4%)	114 人 (89.8%)	13 人 (10.2%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑦本プログラムの中での留学（3月以上1年未満）	81 人 (21.4%)	297 人 (78.6%)	76 人 (93.8%)	4 人 (4.9%)	1 人 (1.2%)	0 人 (0.0%)
⑧本プログラムの中での留学（1年以上）	5 人 (1.3%)	373 人 (98.7%)	5 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑨海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2	61 人 (16.1%)	317 人 (83.9%)	51 人 (83.6%)	8 人 (13.1%)	2 人 (3.3%)	0 人 (0.0%)
※2 「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。						

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問10　このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。

	参加前			修了後		
	あった	ある程度あった	なかった	向上した	ある程度向上した	変化なし
高度な専門的知識・研究能力	62 人 (16.4%)	244 人 (64.6%)	72 人 (19.0%)	188 人 (49.7%)	146 人 (38.6%)	44 人 (11.6%)
高い国際性	43 人 (11.4%)	156 人 (41.3%)	179 人 (47.4%)	217 人 (57.4%)	121 人 (32.0%)	40 人 (10.6%)
専門以外の分野の幅広い知識	27 人 (7.1%)	160 人 (42.3%)	191 人 (50.5%)	166 人 (43.9%)	176 人 (46.6%)	36 人 (9.5%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	47 人 (12.4%)	222 人 (58.7%)	109 人 (28.8%)	145 人 (38.4%)	169 人 (44.7%)	64 人 (16.9%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	66 人 (17.5%)	236 人 (62.4%)	76 人 (20.1%)	169 人 (44.7%)	143 人 (37.8%)	66 人 (17.5%)
独創的な能力	51 人 (13.5%)	223 人 (59.0%)	104 人 (27.5%)	138 人 (36.5%)	152 人 (40.2%)	88 人 (23.3%)
チームのマネージメント力	41 人 (10.8%)	181 人 (47.9%)	156 人 (41.3%)	134 人 (35.4%)	127 人 (33.6%)	117 人 (31.0%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	38 人 (10.1%)	179 人 (47.4%)	161 人 (42.6%)	127 人 (33.6%)	146 人 (38.6%)	105 人 (27.8%)
他者と協働する力	62 人 (16.4%)	256 人 (67.7%)	60 人 (15.9%)	148 人 (39.2%)	157 人 (41.5%)	73 人 (19.3%)
ディスカッション能力	57 人 (15.1%)	244 人 (64.6%)	77 人 (20.4%)	168 人 (44.4%)	152 人 (40.2%)	58 人 (15.3%)
プレゼンテーション能力	63 人 (16.7%)	241 人 (63.8%)	74 人 (19.6%)	189 人 (50.0%)	136 人 (36.0%)	53 人 (14.0%)
語学力	52 人 (13.8%)	189 人 (50.0%)	137 人 (36.2%)	198 人 (52.4%)	134 人 (35.4%)	46 人 (12.2%)
その他（具体的に:　　）	3 人 (17.6%)	2 人 (11.8%)	12 人 (70.6%)	11 人 (64.7%)	3 人 (17.6%)	3 人 (17.6%)

問11　以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい	130 人 (34.4%)	185 人 (48.9%)	57 人（15.1%）	6 人（1.6%）
所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重の負担になっていた	36 人（9.5%）	91 人（24.1%）	161 人 (42.6%)	90 人（23.8%）
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた	114 人 (30.2%)	174 人 (46.0%)	71 人（18.8%）	19 人（5.0%）
このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた	131 人 (34.7%)	154 人 (40.7%)	75 人（19.8%）	18 人（4.8%）
所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられた	145 人 (38.4%)	176 人 (46.6%)	45 人（11.9%）	12 人（3.2%）
修了後の進路に不安があった	52 人（13.8%）	124 人 (32.8%)	135 人 (35.7%)	67 人（17.7%）
後輩にもこのプログラムを勧めたい　※	170 人 (45.0%)	178 人 (47.1%)	22 人（5.8%）	8 人（2.1%）

※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記入してください。

御自身の今後とプログラムによる成果等についてうかがいます

問12　プログラム修了後どのような職等に就きましたか。また、今後の希望は持っていますか。

	大学院入学時の希望（複数回答可。社会人学生は、入学時の職業を選択）	プログラム修了時の状況（社会人学生は、修了時の状況あるいは転職先として該当するものを選択）	平成29年4月1日現在の状況	今後の希望（希望のある場合のみ。複数回答可）
民間企業に就職（研究者以外として）	70人（18.5%）	42人（11.1%）	41人（10.8%）	57人（18.4%）
民間企業に就職（研究者として）	190人（50.3%）	101人（26.7%）	108人（28.6%）	132人（42.7%）
官公庁に就職	48人（12.7%）	12人（3.2%）	15人（4.0%）	35人（11.3%）
国際機関に就職	37人（9.8%）	3人（0.8%）	2人（0.5%）	53人（17.2%）
NPO・NGO等（公共的サービスの提供主体）に就職	11人（2.9%）	0人（0.0%）	1人（0.3%）	20人（6.5%）
医師、弁護士等の専門職	22人（5.8%）	10人（2.6%）	10人（2.6%）	17人（5.5%）
起業	17人（4.5%）	1人（0.3%）	1人（0.3%）	31人（10.0%）
大学（海外を含む）に研究者として就職	236人（62.4%）	51人（13.5%）	58人（15.3%）	184人（59.5%）
その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職	153人（40.5%）	8人（2.1%）	13人（3.4%）	121人（39.2%）
求職中		16人（4.2%）	9人（2.4%）	
ポスドク（博士研究員）	171人（45.2%）	123人（32.5%）	113人（29.9%）	55人（17.8%）
決めていない	14人（3.7%）	7人（1.9%）	5人（1.3%）	8人（2.6%）
その他（具体的に:　　）	2人（0.5%）	4人（1.1%）	2人（0.5%）	4人（1.3%）

修了後に就職した場合、就職先、就職時期、就業形態、求職の方法（指導教員等による紹介、博士課程教育リーディングフォーラム等イベントでの人事担当者とのマッチング等）等を出来る限り具体的に記入してください。

問13　居住国について選択してください。また、今後の希望は持っていますか。

	現在	今後の希望（複数回答可）
日本	319人（84.4%）	278人（73.5%）
日本あるいは母国以外の外国	45人（11.9%）	202人（53.4%）
母国に帰国	14人（3.7%）	20人（5.3%）
未定		31人（8.2%）

問14　プログラムへの参加によって、人生観、職業観、世界観、国際意識等がどのように変わったか、また、修了後の活動や進路にどのような影響を及ぼしたかを自由に記述してください。

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

問15　産学官民（※）にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるため、プログラム修了後主体的に行った活動及びその成果について自由に記述してください。（※「民」とは、NGO、NPO 等公共的サービスの提供主体を指す。）

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

全般的な御意見をうかがいます

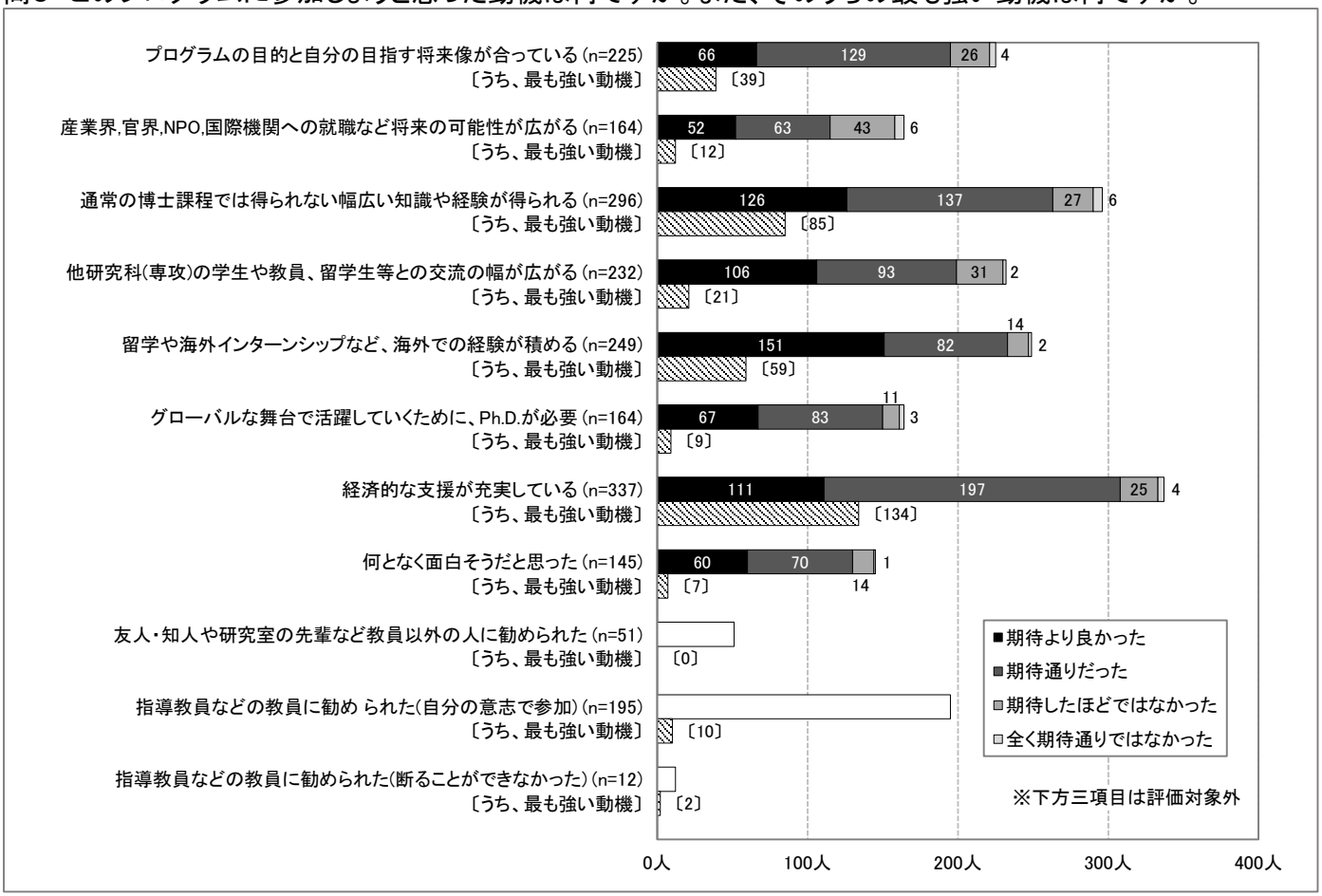
問16　参加していたプログラムについて、自身の将来にどう役立ったか、今後どのように役立つと考えるか、また、これからプログラムに参加する学生のために、プログラムがどのように改善すればよいと考えるか、感想、意見を自由に記述してください。（以下①～③のうち1つでも構いません。）

①＜プログラムが役立っている点・良い点＞
個人が特定されない処理をした上で、参加していたプログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。 （はい・　いいえ）
②＜改善を要する点（負担を感じる点など）＞
個人が特定されない処理をした上で、参加していたプログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。 （はい・　いいえ）
③＜その他＞
個人が特定されない処理をした上で、参加していたプログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。 （はい・　いいえ）

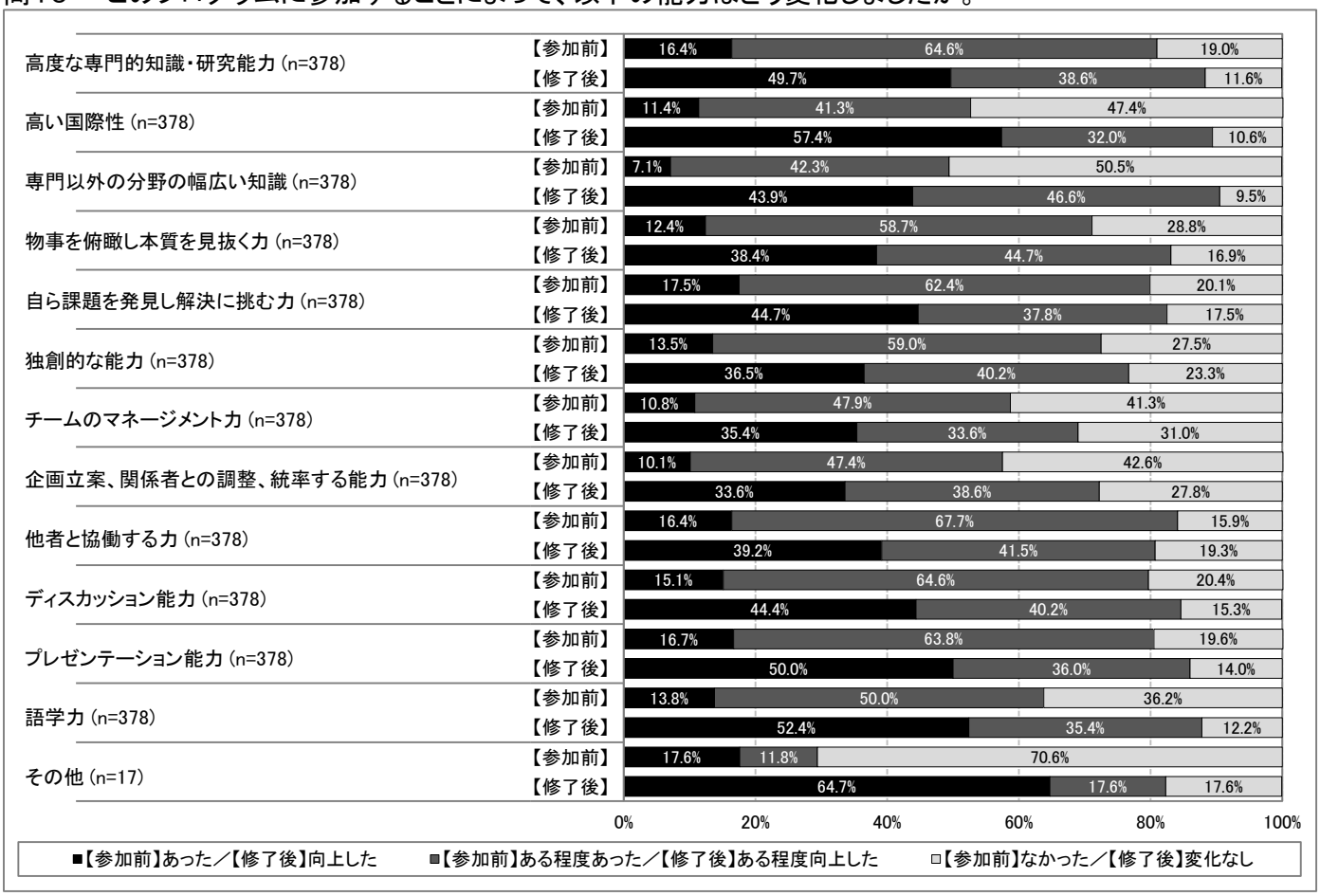
アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。

≪参考グラフ≫

問6　このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、そのうちの最も強い動機は何ですか。



問10　このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。



附録 C　学生アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム　平成23年度採択プログラム事後評価

学生アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラムの平成23年度採択プログラムの事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムに参加する皆さんに御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

- 5 月 22 日（月）までに次のウェブサイトから御回答ください。
  → https://www.tbird-q.com/plgs2017/worksheet.php

- 本調査に関するお問い合わせ先
  Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）　担当者：太田、大沼　Email：jsps-q@transbird.com

参加するプログラムと、御自身についてうかがいます

問1　参加している大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2　年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	248 人（22.0%）	714 人（63.3%）	152 人（13.5%）	14 人（1.2%）

性別	1. 女性	2. 男性
	308 人（27.3%）	820 人（72.7%）

問3　プログラムとの関係について選択してください。

プログラム参加開始年度	1. 2011 年度 （平成 23 年度）	2. 2012 年度 （平成 24 年度）	3. 2013 年度 （平成 25 年度）	4. 2014 年度 （平成 26 年度）	5. 2015 年度 （平成 27 年度）	6. 2016 年度 （平成 28 年度）
	8 人（0.7%）	47 人（4.2%）	190 人（16.8%）	290 人（25.7%）	276 人（24.5%）	317 人（28.1%）
現在の学年	1. 大学院1年次 （M1）	2. 大学院2年次 （M2）	3. 大学院3年次 （D1）	4. 大学院4年次 （D2）	5. 大学院5年次 （D3）	6. 大学院6年次 以上
	28 人（2.5%）	201 人（17.8%）	222 人（19.7%）	291 人（25.8%）	254 人（22.5%）	53 人（4.7%）
	7. 医歯薬学 又は獣医学系 1年次	8. 医歯薬学 又は獣医学系 2年次	9. 医歯薬学 又は獣医学系 3年次	10. 医歯薬学 又は獣医学系 4年次以上		
	5 人（0.4%）	22 人（2.0%）	19 人（1.7%）	33 人（2.9%）		

プログラム参加時期	1. 大学院入学と 同時に参加	2. 大学院入学後 1年以内に参加	3. 大学院入学後 2年目以降に参加
	520 人（46.1%）	330 人（29.3%）	278 人（24.6%）

学位論文執筆予定分野	1. 総合系 （情報学、環境学、複合領域）	2. 人文社会系 （総合人文社会、人文学、社会科学）	3. 理工系 （総合理工、数物系科学、化学、工学）	4. 生物系 （総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系）	5. その他
	78 人（6.9%）	107 人（9.5%）	480 人（42.6%）	443 人（39.3%）	20 人（1.8%）

5. その他（自由記述）

問4　経歴についてあてはまるもの全てを選択してください。

1	プログラムを実施する大学を卒業	553 人（49.0%）
2	留学生	301 人（26.7%）
3	他の大学の学部を卒業（国立高専専攻科修了後学士を取得した場合を含む）後、プログラムに参加	271 人（24.0%）
4	他の大学院を経験後、プログラムに参加	96 人（8.5%）
5	社会人を経験後、プログラムに参加	130 人（11.5%）
6	現在も在職中	87 人（7.7%）
7	在職中だが、休職中	13 人（1.2%）

問5　指導教員（専門分野における研究指導を主に行う教員１名）とプログラムとの関係について選択してください。

1	指導教員がいる　－　その指導教員がプログラムにも参画している	669 人（59.3%）
2	指導教員がいる　－　その指導教員はプログラムには参画していない	453 人（40.2%）
3	それ以外	6 人（0.5%）

3. その他（自由記述）

問6－1　このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、そのうちの最も強い動機は何ですか。

	当てはまる動機（複数回答可）	うち、最も強い動機
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	772 人（68.4%）	146 人（12.9%）
産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	616 人（54.6%）	88 人（7.8%）
通常の博士課程では得られない幅広い知識や経験が得られる	885 人（78.5%）	237 人（21.0%）
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生等との交流の幅が広がる	705 人（62.5%）	37 人（3.3%）
留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める	811 人（71.9%）	147 人（13.0%）
グローバルな舞台で活躍していくために Ph.D.が必要	582 人（51.6%）	74 人（6.6%）
経済的な支援が充実している	945 人（83.8%）	338 人（30.0%）
何となく面白そうだと思った	454 人（40.2%）	32 人（2.8%）
友人・知人や研究室の先輩等の教員以外の人にプログラムを勧められた	352 人（31.2%）	5 人（0.4%）
指導教員等に勧められた（自分の意志で参加）	497 人（44.1%）	20 人（1.8%）
指導教員等に勧められた（断ることができなかった）	35 人（3.1%）	4 人（0.4%）

上記を選択した理由やその他の理由がある場合について、自由に記述してください。

問6－2　このプログラムがなかった場合、最終学位としてどれを選択していましたか。

1	学士（今所属する大学）	14 人（1.2%）
2	学士（他大学）	19 人（1.7%）
3	修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	338 人（30.0%）
4	修士（今所属する大学の別の研究科・専攻等）	40 人（3.5%）
5	修士（他大学）	95 人（8.4%）
6	博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	455 人（40.3%）
7	博士（今所属する大学の別の研究科・専攻等）	25 人（2.2%）
8	博士（他大学）	142 人（12.6%）

問7　プログラムの以下の点をどのように評価していますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流	529 人 (46.9%)	414 人 (36.7%)	111 人 (9.8%)	51 人 (4.5%)	23 人 (2.0%)
他大学の学生との交流	213 人 (18.9%)	313 人 (27.7%)	299 人 (26.5%)	134 人 (11.9%)	169 人 (15.0%)
専門分野以外の教員との出会い	509 人 (45.1%)	428 人 (37.9%)	134 人 (11.9%)	40 人 (3.5%)	17 人 (1.5%)
企業人との交流	325 人 (28.8%)	411 人 (36.4%)	247 人 (21.9%)	74 人 (6.6%)	71 人 (6.3%)
専門分野以外の幅広い知識や経験	510 人 (45.2%)	458 人 (40.6%)	104 人 (9.2%)	40 人 (3.5%)	16 人 (1.4%)
奨励金や授業料の補助等大学からの経済的支援	765 人 (67.8%)	285 人 (25.3%)	56 人 (5.0%)	19 人 (1.7%)	3 人 (0.3%)
議論することに対する自信をつけること	440 人 (39.0%)	430 人 (38.1%)	198 人 (17.6%)	44 人 (3.9%)	16 人 (1.4%)
アカデミア以外の分野で活躍する自信をつけること	333 人 (29.5%)	408 人 (36.2%)	281 人 (24.9%)	65 人 (5.8%)	41 人 (3.6%)
語学力向上のためのカリキュラム	391 人 (34.7%)	405 人 (35.9%)	211 人 (18.7%)	57 人 (5.1%)	64 人 (5.7%)
インターンシップの機会	549 人 (48.7%)	328 人 (29.1%)	140 人 (12.4%)	34 人 (3.0%)	77 人 (6.8%)

プログラムでの実施状況等についてうかがいます

問8　このプログラムで以下のような指導をどの程度受けましたか。また、受けた場合、それは有効ですか。

	受けた頻度					有効か			
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	今後、受ける予定		有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
				有	無				
指導教員以外の教員からの指導	444 人 (39.4%)	597 人 (52.9%)	87 人 (7.7%)	43 人 (49.4%)	44 人 (50.6%)	631 人 (60.6%)	362 人 (34.8%)	43 人 (4.1%)	5 人 (0.5%)
企業、官界等の学外者からの指導・助言	267 人 (23.7%)	489 人 (43.4%)	372 人 (33.0%)	98 人 (26.3%)	274 人 (73.7%)	386 人 (51.1%)	322 人 (42.6%)	46 人 (6.1%)	2 人 (0.3%)
主専攻以外の分野の授業等の履修	629 人 (55.8%)	451 人 (40.0%)	48 人 (4.3%)	12 人 (25.0%)	36 人 (75.0%)	562 人 (52.0%)	423 人 (39.2%)	73 人 (6.8%)	22 人 (2.0%)
研究室ローテーション ※名称は問わない（他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	349 人 (30.9%)	278 人 (24.6%)	501 人 (44.4%)	115 人 (23.0%)	386 人 (77.0%)	405 人 (64.6%)	193 人 (30.8%)	22 人 (3.5%)	7 人 (1.1%)
プロジェクト形式による授業や課題	413 人 (36.6%)	445 人 (39.5%)	270 人 (23.9%)	45 人 (16.7%)	225 人 (83.3%)	449 人 (52.3%)	334 人 (38.9%)	56 人 (6.5%)	19 人 (2.2%)
授業外のサポート（メンター等）	346 人 (30.7%)	487 人 (43.2%)	295 人 (26.2%)	63 人 (21.4%)	232 人 (78.6%)	410 人 (49.2%)	338 人 (40.6%)	71 人 (8.5%)	14 人 (1.7%)
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	363 人 (32.2%)	490 人 (43.4%)	275 人 (24.4%)	87 人 (31.6%)	188 人 (68.4%)	427 人 (50.1%)	355 人 (41.6%)	62 人 (7.3%)	9 人 (1.1%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9A　このプログラムにおいて、以下のことは整備されていますか。また、それは有効ですか。
（※整備されていない場合は「該当なし」を選択し、設問「有効か」への回答は不要です。）

	整備されている				有効か（「該当なし」を選択した場合は回答不要）			
	十分にされている	ある程度されている	不十分	該当なし	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	745 人 (66.0%)	326 人 (28.9%)	52 人 (4.6%)	5 人 (0.4%)	860 人 (76.6%)	234 人 (20.8%)	26 人 (2.3%)	3 人 (0.3%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等	497 人 (44.1%)	456 人 (40.4%)	140 人 (12.4%)	35 人 (3.1%)	543 人 (49.7%)	411 人 (37.6%)	112 人 (10.2%)	27 人 (2.5%)
外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	529 人 (46.9%)	450 人 (39.9%)	113 人 (10.0%)	36 人 (3.2%)	619 人 (56.7%)	378 人 (34.6%)	81 人 (7.4%)	14 人 (1.3%)
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会	498 人 (44.1%)	423 人 (37.5%)	114 人 (10.1%)	93 人 (8.2%)	514 人 (49.7%)	373 人 (36.0%)	119 人 (11.5%)	29 人 (2.8%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9B　このプログラムによって、以下のことを経験しましたか、また、経験した場合それは有効でしたか。（※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加予定なし」を選択してください。）

	参加の有無			有効か（「参加した」を選択した場合のみ回答）			
	参加した	これから参加	修了まで参加予定なし	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
①国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	209 人 (18.5%)	202 人 (17.9%)	717 人 (63.6%)	141 人 (67.5%)	48 人 (23.0%)	16 人 (7.7%)	4 人 (1.9%)
②国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	105 人 (9.3%)	191 人 (16.9%)	832 人 (73.8%)	91 人 (86.7%)	10 人 (9.5%)	2 人 (1.9%)	2 人 (1.9%)
③国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動　※1	127 人 (11.3%)	90 人 (8.0%)	911 人 (80.8%)	108 人 (85.0%)	19 人 (15.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。							
④海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	163 人 (14.5%)	167 人 (14.8%)	798 人 (70.7%)	141 人 (86.5%)	20 人 (12.3%)	2 人 (1.2%)	0 人 (0.0%)
⑤海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	153 人 (13.6%)	208 人 (18.4%)	767 人 (68.0%)	138 人 (90.2%)	15 人 (9.8%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑥本プログラムの中での留学（3月未満）	240 人 (21.3%)	216 人 (19.1%)	672 人 (59.6%)	207 人 (86.3%)	32 人 (13.3%)	1 人 (0.4%)	0 人 (0.0%)
⑦本プログラムの中での留学（3月以上1年未満）	112 人 (9.9%)	214 人 (19.0%)	802 人 (71.1%)	109 人 (97.3%)	3 人 (2.7%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑧本プログラムの中での留学（1年以上）	10 人 (0.9%)	68 人 (6.0%)	1050 人 (93.1%)	9 人 (90.0%)	1 人 (10.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
⑨海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2	152 人 (13.5%)	105 人 (9.3%)	871 人 (77.2%)	138 人 (90.8%)	14 人 (9.2%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。							

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問10　このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。

	参加前			参加後		
	あった	ある程度あった	なかった	向上した	ある程度向上した	変化なし
高度な専門的知識・研究能力	142 人 (12.6%)	721 人 (63.9%)	265 人 (23.5%)	630 人 (55.9%)	405 人 (35.9%)	93 人 (8.2%)
高い国際性	168 人 (14.9%)	455 人 (40.3%)	505 人 (44.8%)	667 人 (59.1%)	363 人 (32.2%)	98 人 (8.7%)
専門以外の分野の幅広い知識	83 人 (7.4%)	511 人 (45.3%)	534 人 (47.3%)	605 人 (53.6%)	458 人 (40.6%)	65 人 (5.8%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	148 人 (13.1%)	680 人 (60.3%)	300 人 (26.6%)	521 人 (46.2%)	457 人 (40.5%)	150 人 (13.3%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	189 人 (16.8%)	698 人 (61.9%)	241 人 (21.4%)	558 人 (49.5%)	434 人 (38.5%)	136 人 (12.1%)
独創的な能力	165 人 (14.6%)	663 人 (58.8%)	300 人 (26.6%)	469 人 (41.6%)	430 人 (38.1%)	229 人 (20.3%)
チームのマネージメント力	169 人 (15.0%)	564 人 (50.0%)	395 人 (35.0%)	449 人 (39.8%)	402 人 (35.6%)	277 人 (24.6%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	153 人 (13.6%)	556 人 (49.3%)	419 人 (37.1%)	474 人 (42.0%)	394 人 (34.9%)	260 人 (23.0%)
他者と協働する力	231 人 (20.5%)	729 人 (64.6%)	168 人 (14.9%)	575 人 (51.0%)	386 人 (34.2%)	167 人 (14.8%)
ディスカッション能力	183 人 (16.2%)	730 人 (64.7%)	215 人 (19.1%)	626 人 (55.5%)	399 人 (35.4%)	103 人 (9.1%)
プレゼンテーション能力	196 人 (17.4%)	684 人 (60.6%)	248 人 (22.0%)	661 人 (58.6%)	366 人 (32.4%)	101 人 (9.0%)
語学力	195 人 (17.3%)	571 人 (50.6%)	362 人 (32.1%)	583 人 (51.7%)	402 人 (35.6%)	143 人 (12.7%)
その他（具体的に:　　）	15 人 (20.5%)	29 人 (39.7%)	29 人 (39.7%)	55 人 (75.3%)	8 人 (11.0%)	10 人 (13.7%)

問11　以下の点についてどう考えますか。

	非常にそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
プログラムに参加する教員間でプログラムについての理解が共有されている	357 人 (31.6%)	555 人 (49.2%)	163 人 (14.5%)	53 人 (4.7%)
一部の教員に負担が集中している	157 人 (13.9%)	432 人 (38.3%)	452 人 (40.1%)	87 人 (7.7%)
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、プログラムに参加することに協力的である	364 人 (32.3%)	562 人 (49.8%)	156 人 (13.8%)	46 人 (4.1%)
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい	435 人 (38.6%)	547 人 (48.5%)	103 人 (9.1%)	43 人 (3.8%)
所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている	121 人 (10.7%)	271 人 (24.0%)	482 人 (42.7%)	254 人 (22.5%)
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）	458 人 (40.6%)	527 人 (46.7%)	104 人 (9.2%)	39 人 (3.5%)
このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）	472 人 (41.8%)	501 人 (44.4%)	119 人 (10.5%)	36 人 (3.2%)
所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績をあげられるか不安がある	142 人 (12.6%)	360 人 (31.9%)	395 人 (35.0%)	231 人 (20.5%)
修了後の進路に不安がある	175 人 (15.5%)	435 人 (38.6%)	332 人 (29.4%)	186 人 (16.5%)
後輩にもこのプログラムを勧めたい ※	487 人 (43.2%)	509 人 (45.1%)	91 人 (8.1%)	41 人 (3.6%)

※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記入してください。

御自身の今後の希望やプログラムによる成果等についてうかがいます

問12　修了後の就職等についてどのような希望を持っていますか。

	大学院入学時の希望（複数回答可。社会人学生は、入学時の職業を選択）	平成 29 年 4 月 1 日現在の希望（複数回答可。社会人学生は、平成 29 年 4 月 1 日現在の職業を選択）	既に進路が決定している（社会人学生は、修了時の状況あるいは転職先として該当するものを選択）
民間企業に就職（研究者以外として）	348 人（30.9%）	375 人（33.2%）	16 人（14.0%）
民間企業に就職（研究者として）	580 人（51.4%）	610 人（54.1%）	25 人（21.9%）
官公庁に就職	207 人（18.4%）	240 人（21.3%）	12 人（10.5%）
国際機関に就職	232 人（20.6%）	282 人（25.0%）	7 人（6.1%）
NPO・NGO等（公共的サービスの提供主体）に就職	111 人（9.8%）	121 人（10.7%）	3 人（2.6%）
医師、弁護士等の専門職	92 人（8.2%）	88 人（7.8%）	14 人（12.3%）
起業	110 人（9.8%）	160 人（14.2%）	4 人（3.5%）
大学（海外を含む）に研究者として就職	609 人（54.0%）	596 人（52.8%）	11 人（9.6%）
その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職	448 人（39.7%）	503 人（44.6%）	3 人（2.6%）
ポスドク（博士研究員）	498 人（44.1%）	527 人（46.7%）	13 人（11.4%）
決めていない	54 人（4.8%）	40 人（3.5%）	
その他（具体的に:　　）	11 人（1.0%）	14 人（1.2%）	6 人（5.3%）

既に就職が決定している場合（社会人学生については転職することが決定している場合）、就職先、就職時期、就業形態、求職の方法（指導教員等による紹介、博士課程教育リーディングフォーラム等イベントでの人事担当者とのマッチング等）、出来る限り具体的に記入してください。

問13　修了後の居住国について希望は持っていますか。

	今後の希望（複数回答可）
日本	553 人（49.0%）
日本あるいは母国以外の外国	448 人（39.7%）
母国に帰国	109 人（9.7%）
未定	220 人（19.5%）

問14　プログラムへの参加によって、人生観、職業観、世界観、国際意識等がどのように変わったかを自由に記述してください。

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

問15　産学官民（※）にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるため、プログラムにおいて主体的に行った活動及びその成果について自由に記述してください。（※「民」とは、NGO、NPO など公共的ービスの提供主体を指す。）

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

全般的な御意見をうかがいます

問16　参加するプログラムについて、自身の将来にどう役立つと思うか、また、どのように改善すればよいと考えるか、感想、意見を自由に記述してください。（下記①～③のうち1つでも構いません。）

①＜プログラムが役立っている点・良い点＞
個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）
②＜改善を要する点（負担を感じる点など）＞
個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）
③＜その他＞
個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

（参考情報）よろしければ御協力ください

問17　あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか。（当てはまるもの全てを選択してください。）

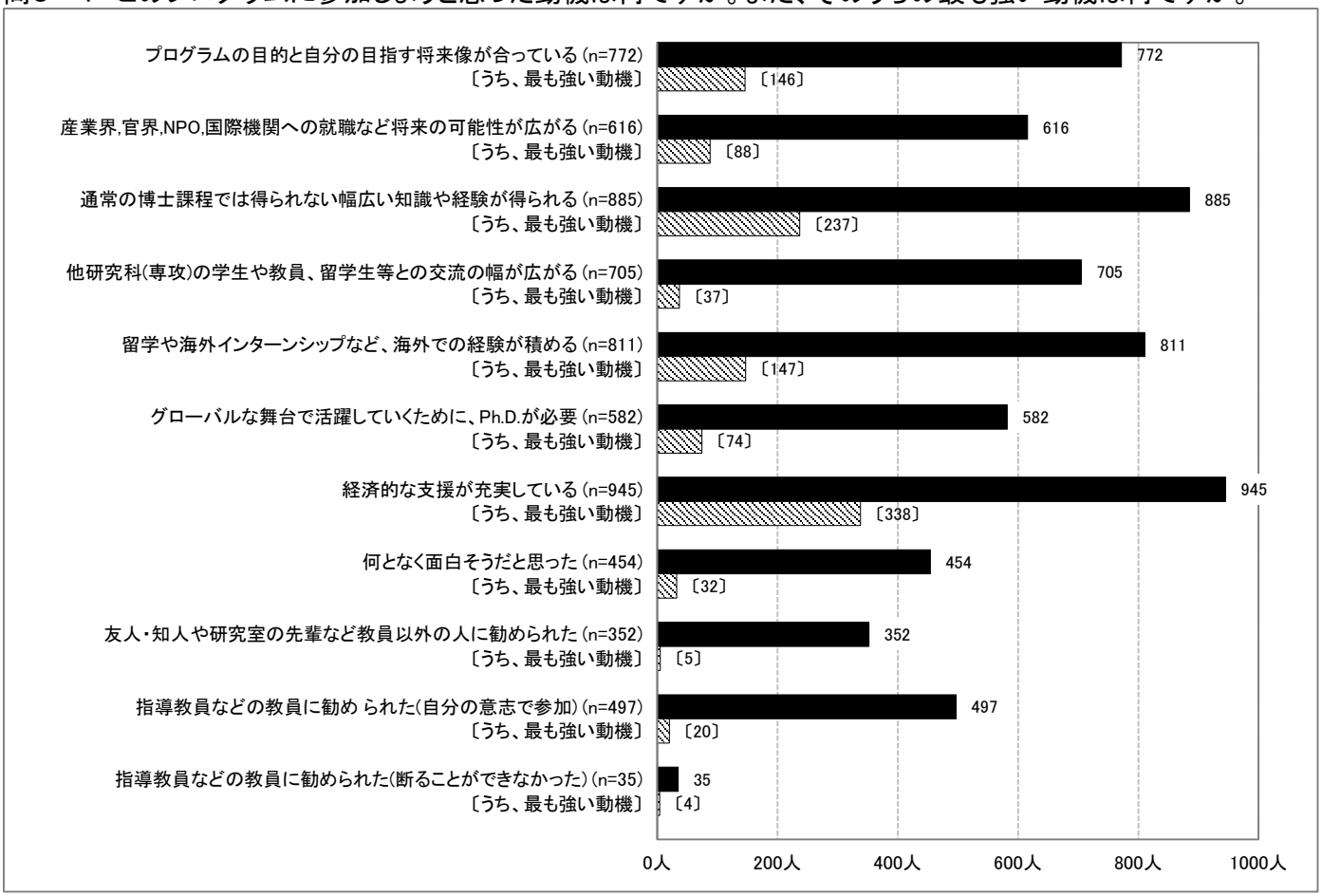
1	参加プログラムのウェブサイト	311 人（27.8%）
2	文部科学省のウェブサイト	29 人（2.6%）
3	日本学術振興会のウェブサイト	21 人（1.9%）
4	参加プログラムのリーフレット等	238 人（21.3%）
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	574 人（51.4%）
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	19 人（1.7%）
7	新聞、雑誌等の広告	14 人（1.3%）

8	プログラム担当者の教員	360 人（32.2%）
9	プログラム担当者以外の教員	194 人（17.4%）
10	学内の友人・知人	480 人（43.0%）
11	学外の友人・知人	35 人（3.1%）
12	Facebook 等の SNS	10 人（0.9%）
13	その他（具体的に:　　）	43 人（3.8%）

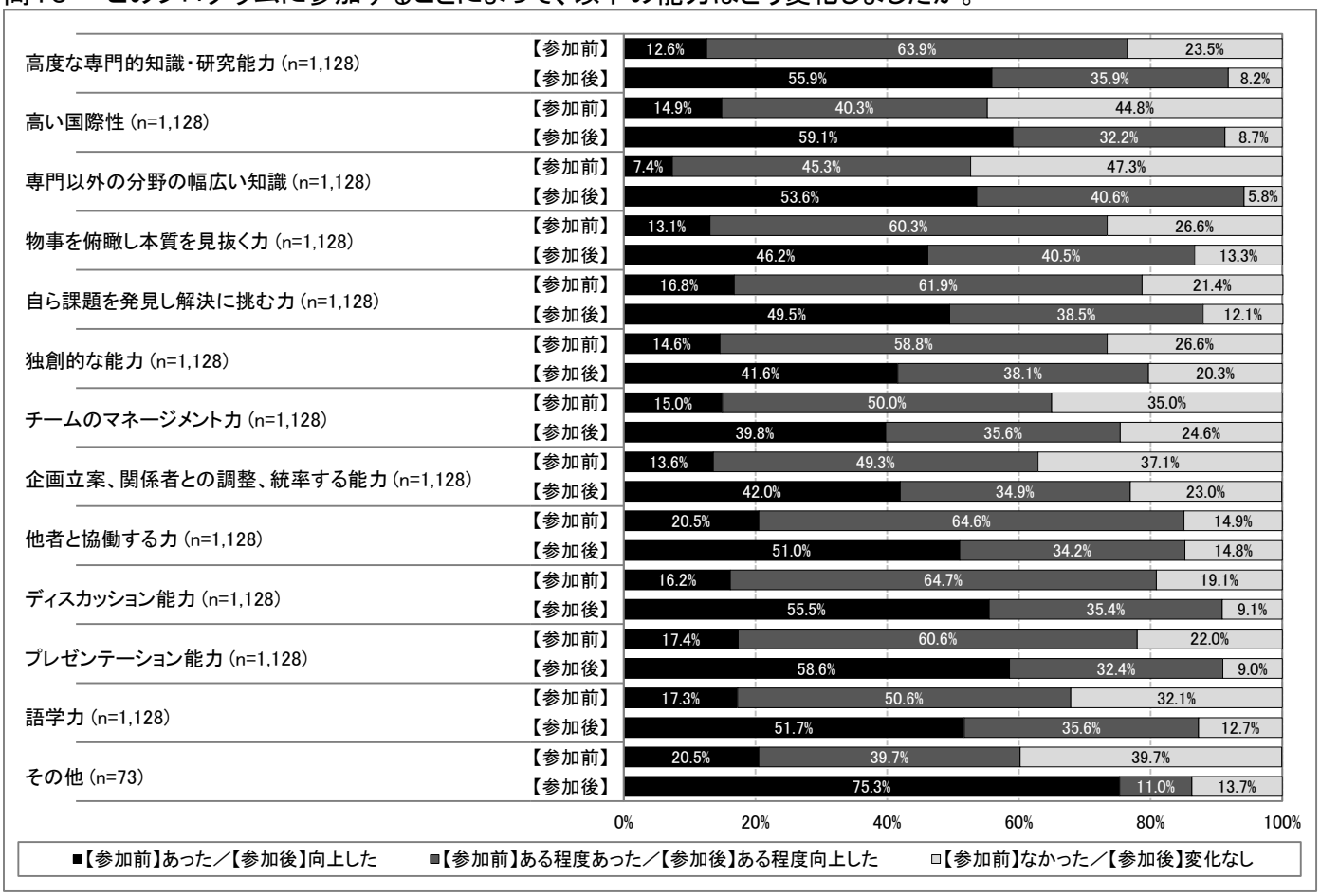
アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。

≪参考グラフ≫

問6－1　このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、そのうちの最も強い動機は何ですか。



問10　このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。



附録Ｄ　プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム　平成２３年度採択プログラム事後評価

プログラム担当者アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラム（※）の平成２３年度採択プログラムの事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムを担当しておられる教員の方及び学外から協力いただいている方に御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

※　優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業

- 5 月 22 日（月）までに次のウェブサイトから御回答ください。
  → https://www.tbird-q.com/plgs2017/worksheet.php

- 本調査に関するお問い合わせ先
  Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）　担当者：太田、大沼　Email：jsps-q@transbird.com

担当しておられるプログラムと、御自身についてうかがいます

問1　担当の大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2　年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 30歳代以下	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
	18 人（8.0%）	67 人（29.6%）	103 人（45.6%）	38 人（16.8%）

性別	1. 女性	2. 男性
	28 人（12.4%）	198 人（87.6%）

問3　プログラムとの関係について選択してください。

プログラムに参加した年（該当する年度全てを選択）	1. 2011 年度（平成 23 年度）	2. 2012 年度（平成 24 年度）	3. 2013 年度（平成 25 年度）	4. 2014 年度（平成 26 年度）	5. 2015 年度（平成 27 年度）	6. 2016 年度（平成 28 年度）
	138 人（61.1%）	143 人（63.3%）	163 人（72.1%）	169 人（74.8%）	174 人（77.0%）	185 人（81.9%）

エフォート **申請書に記載したもの**（1つを選択）	1. 1 割未満	2. 1 割以上 2 割未満	3. 2 割以上 3 割未満	4. 3 割以上 4 割未満	5. 4 割以上 5 割未満	
	71 人（31.4%）	48 人（21.2%）	14 人（6.2%）	9 人（4.0%）	1 人（0.4%）	
	6. 5 割以上 6 割未満	7. 6 割以上 7 割未満	8. 7 割以上 8 割未満	9. 8 割以上 9 割未満	10. 9 割以上	11. 採択された後にプログラム担当者になった
	0 人（0.0%）	2 人（0.9%）	2 人（0.9%）	1 人（0.4%）	6 人（2.7%）	72 人（31.9%）

エフォート **平成２８年度の実績**（1つを選択）	1. 1 割未満	2. 1 割以上 2 割未満	3. 2 割以上 3 割未満	4. 3 割以上 4 割未満	5. 4 割以上 5 割未満
	103 人（45.6%）	66 人（29.2%）	19 人（8.4%）	8 人（3.5%）	1 人（0.4%）
	6. 5 割以上 6 割未満	7. 6 割以上 7 割未満	8. 7 割以上 8 割未満	9. 8 割以上 9 割未満	10. 9 割以上
	6 人（2.7%）	1 人（0.4%）	4 人（1.8%）	3 人（1.3%）	15 人（6.6%）

本プログラムの学生に直接に接する頻度（1つを選択）	1. 日常的	2. 週に 1 回程度	3. 月に 1～2 回程度	4. 年に 1 回～数回	5. 直接には接しない
	90 人（39.8%）	36 人（15.9%）	31 人（13.7%）	58 人（25.7%）	11 人（4.9%）

所属（本務）	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費により雇用されている者を除く）	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費による雇用）	3. 当該大学（1、2以外）	4. 他大学	5. 研究機関
	149 人（65.9%）	25 人（11.1%）	24 人（10.6%）	7 人（3.1%）	5 人（2.2%）
	6. 民間企業	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他	
	12 人（5.3%）	0 人（0.0%）	2 人（0.9%）	2 人（0.9%）	

9. その他（自由記述）

問4　このプログラムではどのようなことを担当していますか。
（あてはまる項目全てを選択してください。）

1	プログラムの企画・運営	105 人（46.5%）
2	単独講義	81 人（35.8%）
3	単独演習	27 人（11.9%）
4	協同講義、演習への参加	112 人（49.6%）
5	個別学生の研究指導	129 人（57.1%）
6	学生のメンター	74 人（32.7%）

7	留学プログラム	24 人（10.6%）
8	学生募集・入学者選抜	93 人（41.2%）
9	就職支援	27 人（11.9%）
10	インターンシップ	42 人（18.6%）
11	広報	32 人（14.2%）
12	その他	30 人（13.3%）

12. その他（自由記述）

プログラムの実施状況等についてうかがいます

問5　このプログラムで以下のことを担当していますか。また、担当している場合、それは有効だと思いますか。（カリキュラムにない場合や今後担当予定の場合は「担当していない」を選択してください。）

	担当状況			有効か			
	よく担当している	担当している	担当していない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	47 人 (20.8%)	89 人 (39.4%)	90 人 (39.8%)	87 人 (64.0%)	46 人 (33.8%)	3 人 (2.2%)	0 人 (0.0%)
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	44 人 (19.5%)	86 人 (38.1%)	96 人 (42.5%)	80 人 (61.5%)	49 人 (37.7%)	1 人 (0.8%)	0 人 (0.0%)
研究室ローテーションの受入れ ※名称は問わない（他研究室に一定期間滞在する等、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	37 人 (16.4%)	43 人 (19.0%)	146 人 (64.6%)	54 人 (67.5%)	22 人 (27.5%)	4 人 (5.0%)	0 人 (0.0%)
プロジェクト形式による授業や課題	42 人 (18.6%)	55 人 (24.3%)	129 人 (57.1%)	67 人 (69.1%)	28 人 (28.9%)	2 人 (2.1%)	0 人 (0.0%)
授業外のサポート（メンター等）	52 人 (23.0%)	66 人 (29.2%)	108 人 (47.8%)	76 人 (64.4%)	41 人 (34.7%)	1 人 (0.8%)	0 人 (0.0%)

問6　このプログラムで以下のことは整備されていますか。また、「十分にされている」あるいは「ある程度されている」を選択した場合、それは有効だと思いますか。
（カリキュラムにない場合や今後実施予定の場合は「されていない」を選択してください。）

	整備されているか				有効か			
	十分にされている	ある程度されている	されていない	分らない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業や官界等、学外者による指導	117 人 (51.8%)	89 人 (39.4%)	3 人 (1.3%)	17 人 (7.5%)	136 人 (66.0%)	66 人 (32.0%)	4 人 (1.9%)	0 人 (0.0%)
産業界、官界、ＮＰＯ、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	124 人 (54.9%)	77 人 (34.1%)	5 人 (2.2%)	20 人 (8.8%)	141 人 (70.1%)	55 人 (27.4%)	4 人 (2.0%)	1 人 (0.5%)
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	149 人 (65.9%)	56 人 (24.8%)	6 人 (2.7%)	15 人 (6.6%)	171 人 (83.4%)	33 人 (16.1%)	1 人 (0.5%)	0 人 (0.0%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー等	150 人 (66.4%)	55 人 (24.3%)	7 人 (3.1%)	14 人 (6.2%)	162 人 (79.0%)	42 人 (20.5%)	1 人 (0.5%)	0 人 (0.0%)
外国人、職業人等、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	163 人 (72.1%)	51 人 (22.6%)	6 人 (2.7%)	6 人 (2.7%)	171 人 (79.9%)	41 人 (19.2%)	2 人 (0.9%)	0 人 (0.0%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	115 人 (50.9%)	60 人 (26.5%)	19 人 (8.4%)	32 人 (14.2%)	126 人 (72.0%)	43 人 (24.6%)	6 人 (3.4%)	0 人 (0.0%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	103 人 (45.6%)	64 人 (28.3%)	19 人 (8.4%)	40 人 (17.7%)	124 人 (74.3%)	37 人 (22.2%)	6 人 (3.6%)	0 人 (0.0%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動　※1	58 人 (25.7%)	47 人 (20.8%)	23 人 (10.2%)	98 人 (43.4%)	71 人 (67.6%)	34 人 (32.4%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
※1　「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	96 人 (42.5%)	64 人 (28.3%)	18 人 (8.0%)	48 人 (21.2%)	131 人 (81.9%)	28 人 (17.5%)	1 人 (0.6%)	0 人 (0.0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）	115 人 (50.9%)	50 人 (22.1%)	16 人 (7.1%)	45 人 (19.9%)	146 人 (88.5%)	18 人 (10.9%)	1 人 (0.6%)	0 人 (0.0%)
本プログラムの中での留学	102 人 (45.1%)	47 人 (20.8%)	33 人 (14.6%)	44 人 (19.5%)	125 人 (83.9%)	23 人 (15.4%)	1 人 (0.7%)	0 人 (0.0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動　※2	68 人 (30.1%)	41 人 (18.1%)	20 人 (8.8%)	97 人 (42.9%)	86 人 (78.9%)	23 人 (21.1%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
※2　「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								

問7　このプログラムは、学生が以下の能力を向上させる上でどの程度有効だと思いますか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり 有効ではない	有効ではない	分からない
高度な専門的知識・研究能力	102 人（45.1%）	102 人（45.1%）	14 人（6.2%）	5 人（2.2%）	3 人（1.3%）
高い国際性	172 人（76.1%）	49 人（21.7%）	2 人（0.9%）	0 人（0.0%）	3 人（1.3%）
専門以外の分野の幅広い知識	134 人（59.3%）	75 人（33.2%）	11 人（4.9%）	1 人（0.4%）	5 人（2.2%）
物事を俯瞰し本質を見抜く力	107 人（47.3%）	90 人（39.8%）	14 人（6.2%）	1 人（0.4%）	14 人（6.2%）
自ら課題を発見し解決に挑む力	130 人（57.5%）	71 人（31.4%）	12 人（5.3%）	2 人（0.9%）	11 人（4.9%）
独創的な能力	85 人（37.6%）	103 人（45.6%）	17 人（7.5%）	4 人（1.8%）	17 人（7.5%）
チームのマネージメント力	120 人（53.1%）	81 人（35.8%）	12 人（5.3%）	2 人（0.9%）	11 人（4.9%）
企画立案、関係者との調整、統率する能力	127 人（56.2%）	77 人（34.1%）	8 人（3.5%）	3 人（1.3%）	11 人（4.9%）
他者と協働する力	149 人（65.9%）	62 人（27.4%）	5 人（2.2%）	1 人（0.4%）	9 人（4.0%）
ディスカッション能力	165 人（73.0%）	49 人（21.7%）	6 人（2.7%）	0 人（0.0%）	6 人（2.7%）
プレゼンテーション能力	164 人（72.6%）	53 人（23.5%）	2 人（0.9%）	0 人（0.0%）	7 人（3.1%）
語学力	149 人（65.9%）	66 人（29.2%）	3 人（1.3%）	1 人（0.4%）	7 人（3.1%）
その他（具体的に：　　）	34 人（66.7%）	7 人（13.7%）	0 人（0.0%）	1 人（2.0%）	9 人（17.6%）

問8　運営・管理の面で以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	分からない
産業界、官界、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている	75 人（33.2%）	101 人（44.7%）	18 人（8.0%）	1 人（0.4%）	31 人（13.7%）
学長のリーダーシップが発揮されている	64 人（28.3%）	90 人（39.8%）	27 人（11.9%）	9 人（4.0%）	36 人（15.9%）
コストを意識した運営がなされている	87 人（38.5%）	90 人（39.8%）	10 人（4.4%）	5 人（2.2%）	34 人（15.0%）
学内へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	100 人（44.2%）	91 人（40.3%）	12 人（5.3%）	1 人（0.4%）	22 人（9.7%）
学外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	92 人（40.7%）	98 人（43.4%）	12 人（5.3%）	0 人（0.0%）	24 人（10.6%）
事務職員によるプログラム支援の体制が整っている	128 人（56.6%）	77 人（34.1%）	7 人（3.1%）	1 人（0.4%）	13 人（5.8%）

問9　以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	分からない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができている	70 人（31.0%）	125 人（55.3%）	13 人（5.8%）	6 人（2.7%）	12 人（5.3%）
一部の教員に負担が集中している	32 人（14.2%）	112 人（49.6%）	50 人（22.1%）	3 人（1.3%）	29 人（12.8%）
プログラム担当者以外の教員からの理解があり、協力的である	30 人（13.3%）	117 人（51.8%）	39 人（17.3%）	8 人（3.5%）	32 人（14.2%）
大学の執行部がプログラムの目的を理解し、協力的である	70 人（31.0%）	106 人（46.9%）	17 人（7.5%）	7 人（3.1%）	26 人（11.5%）
優秀な学生が多数入学している	93 人（41.2%）	101 人（44.7%）	16 人（7.1%）	5 人（2.2%）	11 人（4.9%）
今後優秀な学生をより多く獲得できる	74 人（32.7%）	96 人（42.5%）	17 人（7.5%）	7 人（3.1%）	32 人（14.2%）
学生はプログラムの趣旨を良く理解している	93 人（41.2%）	113 人（50.0%）	6 人（2.7%）	1 人（0.4%）	13 人（5.8%）
学生にとって将来の進路が明確になっている	61 人（27.0%）	103 人（45.6%）	31 人（13.7%）	4 人（1.8%）	27 人（11.9%）
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する見込みがある	114 人（50.4%）	90 人（39.8%）	8 人（3.5%）	3 人（1.3%）	11 人（4.9%）
このプログラムによって、大学院制度の改善への波及効果が生じている	77 人（34.1%）	87 人（38.5%）	26 人（11.5%）	6 人（2.7%）	30 人（13.3%）
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	36 人（15.9%）	86 人（38.1%）	26 人（11.5%）	8 人（3.5%）	70 人（31.0%）
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい	91 人（40.3%）	92 人（40.7%）	12 人（5.3%）	6 人（2.7%）	25 人（11.1%）
学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている	11 人（4.9%）	56 人（24.8%）	100 人（44.2%）	39 人（17.3%）	20 人（8.8%）
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）	85 人（37.6%）	118 人（52.2%）	8 人（3.5%）	2 人（0.9%）	13 人（5.8%）
このプログラムによって学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）	99 人（43.8%）	109 人（48.2%）	6 人（2.7%）	1 人（0.4%）	11 人（4.9%）
学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を上げられるか懸念がある	16 人（7.1%）	32 人（14.2%）	99 人（43.8%）	59 人（26.1%）	20 人（8.8%）
学生の将来の進路に不安がある	7 人（3.1%）	34 人（15.0%）	106 人（46.9%）	61 人（27.0%）	18 人（8.0%）

プログラムの改善のための方策についてうかがいます

問10－1　このプログラムであなたが担当している指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート（紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの）を行っていますか。以下から1つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している	29 人（12.8%）
2	担当する一部の役割等において実施している	94 人（41.6%）
3	実施していない	103 人（45.6%）

【1あるいは2を選択した場合】

問10－2　上記評価やアンケートの結果を踏まえ具体的に実施した改善内容があれば、以下に記入してください。

全般的な御意見をうかがいます

問11　このプログラムについて御意見がございましたら御自由に記述してください。

個人が特定されない処理をした上で、プログラムへ御意見を情報提供しても良いですか。（　はい　・　いいえ　）

アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。